Ⅲ　調査の成果

1　城館跡等一覧

(1)　城館跡

№	名称	ふりがな	別称	所在地	座標		地図番号	立地				現況					残存遺構				
					北緯	東経		平地	丘陵台地	山地	その他	山林	水田	畑地	宅地	その他	曲輪	堀	土塁	切岸	その他
0001	上野宮館	かみのみやたて	金藤城　金藤氏館	大子町上野宮字野瀬	36.8619	140.3181	3			○		○					○	○			
0002	上郷古館	かみごうふるだて		大子町上郷字古館久保	36.8427	140.3317	3			○		○									
0003	荒蒔城	あらまきじょう		大子町町付字館ノ沢	36.8435	140.3463	3			○		○					○	○			虎口
0004	町付城	まちつきじょう	獅子城	大子町町付字大安寺	36.8420	140.3583	3		○					○	○		○	○			
0005	左貫館	さぬきだて		大子町左貫字立岩	36.8238	140.3204	8			○		○					○	○	○		土橋
0006	鎌倉館	かまくらだて		大子町上金沢字堂向	36.7770	140.2703	8			○		○						○			平場
0007	八幡館	はちまんだて	御城	大子町上金沢字小屋	36.7760	140.2765	8			○		○		○			○	○			平場
0008	相川館	あいかわたて	野内氏館	大子町相川字落合	36.7637	140.2686	8	○						○	○						
0009	女倉館	めぐらだて	目黒山	大子町下金沢字女倉	36.7791	140.2916	8			○		○					○				虎口
0010	下金沢古館	しもかねざわふるだて		大子町下金沢	36.7765	140.2967	8		○					○	○		○				平場
0011	下金沢未城	しもかねさわみじょう		大子町下金沢字未	36.7754	140.3014	8		○					○	○	寺社境内地	○	○			平場
0012	依上城	よりかみじょう	御城	大子町塙字中城	36.7837	140.3097	8		○			○		○	○		○		○		虎口ほか
0013	館ノ沢館	たてのさわたて	カプレ館	大子町芦野倉字館ノ沢	36.7969	140.2994	8			○		○							○		
0014	芦野倉城	あしのくらじょう		大子町芦野倉字御城	36.7841	140.3185	8		○			○		○	○		○	○	○		
0015	山田館	やまだたて		大子町山田字立下	36.7729	140.3168	8		○			○									
0016	高岡城	たかおかじょう	上岡城	大子町上岡字四十内	36.7808	140.3269	8			○		○					○	○	○		平場
0017	和田城	わだじょう	和田城郭遺構	大子町浅川字和田	36.7861	140.3442	8			○		○				寺社境内地	○	○			平場
0018	大子城	だいごじょう		大子町大子字太郎沢	36.7642	140.3481	8			○		○					○	○			平場
0019	矢田城	やだじょう		大子町矢田字御免沢	36.7928	140.3531	8			○		○					○	○			平場
0020	内大野館	うちおおのだて	大野城（館）	大子町内大野字寺林	36.7892	140.4233	9			○		○					○	○			平場
0021	内大野要害	うちおおのようがい		大子町内大野字倉ヶ作	36.7847	140.4272	9			○		○					○				平場
0022	月居城	つきおれじょう		大子町袋田字月居	36.7580	140.4050	9			○		○									平場
0023	池田古館	いけだふるだて		大子町池田字宿平	36.7928	140.3653	8	○						○				○			
0024	鏡城	かがみじょう	鏡山城、池田城、御城	大子町池田字白銀	36.7865	140.3688	8		○			○				寺社境内地	○				平場
0025	天神山城	てんじんやまじょう	天神山館	大子町南田気	36.7583	140.3681	8		○			○					○				
0026	下津原要害	しもつはらようがい		大子町下津原要貝	36.7401	140.3743	14			○		○					○	○		○	
0027	頃藤古館	ころふじふるだて	小川古館	大子町頃藤字タラメキ	36.7204	140.3762	15		○			○			○			○	○		
0028	頃藤城	ころふじじょう	小川城	大子町頃藤字館	36.7149	140.3848	15		○					○	○	雑種地	○	○			
0029	西金美城	さいがねみじょう	美城平	大子町西金美上	36.6924	140.3922	15			○		○		○							平場
0030	頃藤要害	ころふじようがい		大子町頃藤	36.7134	140.3892	15			○		○					○	○			平場
0031	頃藤天道山城	ころふじてんどうやまじょう		大子町頃藤	36.7231	140.3897	15			○		○						○			
0032	相川要害	あいかわようがい	御城	大子町相川	36.7579	140.2679	8			○		○					○	○	○		平場
0033	相川寄居館	あいかわよりいやかた		大子町相川	36.7643	140.2746	8			○		○					○	○			平場
0034	町付向館	まちづきむかいだて		大子町町付	36.8378	140.3579	3			○		○					○	○			平場
0035	大草砦	おおくさとりで		大子町中郷	36.8600	140.3577	3			○		○					-	○			平場
0036	戸中要害	とじゅうようがい	リュウガイ	大子町芦野倉	36.8020	140.2938	8			○		○					○	○			平場
0037	長崎要害	ながさきようがい	ゆうがい山	大子町下野宮	36.8240	140.4001	9			○		○					○				平場
0038	佐貫要害	さぬきようがい		大子町左貫	36.8410	140.2879	3			○		○					○	○			平場
0039	佐貫花室要害	さぬきはなむろようがい		大子町左貫	36.8401	140.2734	3			○		○					○	○			
0040	佐貫栗ノ口要害	さぬきくりのくちようがい	ゆうげい山	大子町左貫	36.8266	140.2718	8			○		○					○	○			
0041	谷沢要害	やざわようがい		大子町小生瀬	36.7581	140.4265	9		○			○					○	○	○	○	土橋
0042	日照要害	ひしゅうようがい		大子町大生瀬	36.8000	140.4087	9			○		○					○	○	○		平場
0043	長倉城	ながくらじょう		常陸大宮市長倉	36.5738	140.2758	24			○		○				寺社境内地	○	○	○		虎口
0044	野田古城	のだこじょう	野田城	常陸大宮市野田字城後山	36.5664	140.2547	24			○		○		○	○		○	○	○	○	
0045	檜山要害	ひやまようがい	檜山古館	常陸大宮市檜山	36.5381	140.2622	24			○		○					○	○	○		虎口・土橋
0046	下伊勢畑北要害	しもいせはたきたようがい	要害城	常陸大宮市下伊勢畑	36.5543	140.2961	24			○		○					○	○	○		
0047	川野辺城	かわのべじょう	野口城	常陸大宮市野口	36.5512	140.3345	24		○			○		○			○	○	○	○	
0048	野口平館	のぐちだいらやかた	小野崎左近館、新京寺館	常陸大宮市野口平	36.5615	140.3381	24		○			○					○	○		○	
0049	避替館	ゆうがいたて	龍貝館、長倉要害	常陸大宮市長倉	36.5664	140.2694	24			○		○					○	○	○	○	虎口
0050	綱川館	つなかわたて		常陸大宮市野田字小屋	36.5683	140.2477	23		○			○		○		雑種地	○		○	○	
0051	大沢館	おおさわやかた		常陸大宮市秋田字膳部	36.5729	140.2816	24			○		○		○	○		○	○			
0052	下伊勢畑南要害	しもいせはたみなみようがい		常陸大宮市下伊勢畑	36.5507	140.2979	24			○		○		○	○		○	○	○	○	虎口
0053	上小屋館	かみごやだて	北塩子館、上小屋遺跡	常陸大宮市北塩子字待合	36.5874	140.3545	19		○			○				寺社境内地	○		○	○	
0054	前小屋城	まえごやじょう	前小屋館	常陸大宮市泉字上ノ寺	36.5365	140.4301	25		○			○		○	○	寺社境内地	○	○	○		
0055	宇留野城	うるのじょう		常陸大宮市宇留野字新谷寺内	36.5415	140.4242	25		○			○		○	○		○	○	○		
0056	部垂城	へたれじょう		常陸大宮市北町字古城	36.5523	140.4151	25		○					○	○	公共施設地	○	○	○		
0057	小場城	おばじょう		常陸大宮市小場字本城	36.5080	140.3924	25		○					○	○		○	○	○		
0058	岩瀬城	いわせじょう		常陸大宮市上岩瀬字御城	36.5227	140.4474	25				自然堤防			○	○	墓地	○	○	○		
0059	東野城	とうのじょう		常陸大宮市東野字新谷寺内	36.5775	140.3663	24		○			○	○	○	○	墓地	○	○	○	○	土橋・虎口
0060	小倉館	おぐらだて		常陸大宮市小倉字五所	36.5608	140.4291	25	○					○	○	○		○	○	○	○	
0061	高渡館	たかわたりたて	高渡城	常陸大宮市高渡町	36.5594	140.4178	25				低位段丘			○	○	公共施設地	○	○	○		
0062	石沢館	いしざわやかた		常陸大宮市石沢	36.5374	140.4127	25		○			○		○	○			○	○		
0063	下岩瀬館	しもいわせやかた		常陸大宮市下岩瀬字中屋敷	36.5154	140.4512	25	○							○		○	○	○		
0064	山方城	やまがたじょう	御城館、亀城、山方高館	常陸大宮市山方字御城	36.6342	140.3936	20		○			○		○		公共施設地	○	○	○		
0065	竜ケ谷城	りゅうがいじょう	山方竜害	常陸大宮市山方字芝	36.6229	140.3839	20		○			○		○			○	○	○		
0066	西野内古館城	にしのうちふるだてじょう	西野内堀ノ内館、山方古館	常陸大宮市西野内字古館	36.6389	140.4032	20			○		○					○	○	○	○	

県包蔵地番号	指定	概要	発掘調査報告書番号
364-123		本文掲載	
364-124		来歴不明。	
364-125		本文掲載	
364-126		本文掲載	
364-127		本文掲載	
364-128		本文掲載	
364-129		本文掲載	
364-130		文禄4年（1595）に相川の地を与えられた野内氏の城館であったという伝承があるが、詳細は不明。	
364-131		本文掲載	
364-132		土地の人城主の名伝えず。村内の十二所神社に、永禄6年（1563）の棟札があり、大檀那大塚大善、絲井氏、菅生氏、吉成氏、圓谷氏が見える。天正11年(1583）の棟札には、絲井摂津守、菅生信濃守、吉成石見守、圓谷尾張守が見え、これらの内いずれかが城主であった可能性が考えられる。	
364-133		土地の人城主の名伝えず。村内の十二所神社に、永禄6年（1563）の棟札があり、大檀那大塚大善、絲井氏、菅生氏、吉成氏、圓谷氏が見える。天正11年(1583）の棟札には、絲井摂津守、菅生信濃守、吉成石見守、圓谷尾張守が見え、これらの内いずれかが城主であった可能性が考えられる。	
364-134		本文掲載	
364-135		館ノ沢城の城主については確かな伝承は伝わっていないが、城が立地する芦野倉地区には木澤氏が拠点を置いていたため、木澤氏が城主として関わった可能性は想定できる。永享8年（1436）の「慶福寺棟札」に名前の見える「木澤源五郎」もその一人であると考えられ、木澤氏と芦野倉地域との関わりは15世紀前半まで遡る事ができる。木沢氏の「芦野倉館」の可能性もある。	
364-136		本文掲載	
364-137		来歴不明。	
364-138		本文掲載	
364-139		来歴不明。	
364-141		本文掲載	
364-142		本文掲載	
364-143		本文掲載	
364-144		本文掲載	
364-145		本文掲載	
364-146		本文掲載	
364-147	町	本文掲載	
364-148		本文掲載	
364-149		本文掲載	
364-150		本文掲載（「頃藤城と周辺城砦群」の項）	
364-151		本文掲載	
364-152		来歴不明。２段の削平地が残る。山頂部の削平地を「美城平」（「御城平」の意）ともいう。	
		本文掲載（「頃藤城と周辺城砦群」の項）	
		本文掲載（「頃藤城と周辺城砦群」の項）	
		本文掲載	
		本文掲載	
		本文掲載	
		本文掲載	
		本文掲載	
		本文掲載	
		本文掲載	
		本文掲載	
		本文掲載	
		本文掲載	
		本文掲載	
308-006	市	本文掲載	
308-015		本文掲載	
308-030		本文掲載	
308-056		本文掲載	
308-076	市	本文掲載	
308-096		小野崎左近の居城と伝わり、陣場と呼ばれ古戦場であったという。	
308-097		大規模な曲輪、東側に竪堀や虎口、切岸遺構が残る。長倉城に関連する城郭か。	
308-098		鎌倉～南北朝期のころ小野崎石近の居館と伝わり、綱川準之丞某の居館ともいう。また戦時の百姓の避難小屋とも伝わる。	
308-099		長倉氏一族が大沢氏を名乗り居住。	
308-100	市	本文掲載	
344-036		本文掲載（「北塩子向ノ入城跡」の項）	
344-037		本文掲載	
344-038		本文掲載	1
344-040		本文掲載	
344-041		本文掲載	
344-104		本文掲載	
344-144		本文掲載	
344-153		二階堂系加志村氏一族が小倉氏と名乗り居住。	
344-154		本文掲載	
344-155		本文掲載	3,6,7
344-159		本文掲載	
345-005		本文掲載	4
345-006		本文掲載	
345-010		本文掲載	

No.	名称	ふりがな	別称	所在地	座標		地図番号	立地				現況					残存遺構				
					北緯	東経		平地	丘陵台地	山地	その他	山林	水田	畑地	宅地	その他	曲輪	堀	土塁	切岸	その他
0067	諸沢館	もろざわだて	諸沢要害	常陸大宮市諸沢字長久保	36.6690	140.4178	15			○		○		○		公共施設地	○	○	○	○	
0068	野上小屋場館	のがみこやばたて	野上小屋場遺跡	常陸大宮市野上小屋場	36.6132	140.3885	20		○					○	○			○	○		
0069	氷之沢館	ひのさわたて	三浦氏館	常陸大宮市氷之沢字番所内入	36.6389	140.3328	19			○		○					○	○	○		
0070	下檜沢城	しもひざわじょう	檜沢城、下檜沢館	常陸大宮市下檜沢字館	36.6479	140.3345	19			○		○		○	○		○	○	○	○	
0071	上檜沢館	かみひざわたて	要害城	常陸大宮市上檜沢字熊沢	36.6650	140.3321	19			○		○					○	○	○		
0072	高部館	たかぶだて	高部城	常陸大宮市高部	36.6664	140.2995	19			○		○		○	○		○	○	○	○	物見台
0073	小田野館	おだのたて	小田野城	常陸大宮市小田野	36.6783	140.2662	14			○		○					○	○	○	○	
0074	河内城	こうとじょう	鷲子城（鳥子城）	常陸大宮市鷲子字関根	36.6605	140.2506	19			○		○				寺社境内地	○	○	○	○	虎口
0075	高沢館	たかさわたて	鳥子館	常陸大宮市鷲子字高沢	36.6636	140.2403	18			○		○					○	○	○	○	虎口
0076	高沢向館	たかざわむかいだて		常陸大宮市鷲子字高沢	36.6672	140.2377	13			○		○					○	○	○		虎口
0077	高部向館	たかぶむかいだて		常陸大宮市高部	36.6612	140.3022	19			○		○					○	○	○		
0078	下檜沢向館	しもひざわむかいだて		常陸大宮市下檜沢	36.6374	140.3455	19			○		○						○			物見台
0079	河内城向館Ⅰ	こうとじょうむかいだていち		常陸大宮市鷲子字弥太郎沢	36.6578	140.2507	19			○		○		○			○			○	
0080	那賀城	なかじょう	那賀遺跡	常陸大宮市那賀字御城	36.5783	140.3231	24		○					○	○		○	○	○		
0081	川崎城	かわさきじょう	下小瀬館	常陸大宮市下小瀬字川崎	36.5894	140.3212	19		○					○	○		○	○	○		
0082	小瀬館	おせやかた	小瀬城	常陸大宮市上小瀬字館	36.6050	140.3200	19			○		○				公共施設地	○	○	○		武者走り
0083	小舟城	こぶねじょう		常陸大宮市小舟字寺山	36.6267	140.2917	19			○				○	○		○	○	○		物見台
0084	大岩城	おおいわじょう	大岩館、堀江氏館	常陸大宮市大岩字小沼向	36.6247	140.2500	18			○		○					○	○	○		
0085	小瀬城	おせじょう	上小瀬城、小瀬ようがい城	常陸大宮市上小瀬字本越	36.6135	140.3192	19			○		○					○	○	○		
0086	高館城	たかだてじょう		常陸大宮市上小瀬字高館	36.6186	140.3317	19			○		○					○	○	○	○	古塚群
0087	川崎向館	かわさきむかいだて	下小瀬向館	常陸大宮市下小瀬字瀧山	36.5922	140.3122	19			○		○						○	○	○	
0088	油河内館	ゆごうどだて		常陸大宮市油河内字松葉	36.6154	140.2688	19			○		○					○	○	○		
0089	国長八幡館	くにおさはちまんやかた		常陸大宮市上国長字八幡	36.5845	140.2995	19			○		○						○	○		
0090	川ノ辺館	かわのべやかた		常陸大宮市野口平字川ノ辺	36.5648	140.3407	24	○						○	○	墓地	○			○	
0091	秋田木屋峯館	あきたきやみねだて		常陸大宮市秋田字木屋峯	36.5842	140.2564	19			○		○					○			○	
0092	入本郷館	いりほんごうやかた		常陸大宮市入本郷字後沢	36.6060	140.2616	19			○		○					○	○	○		
0093	照田羽黒館	てるたはぐろやかた		常陸大宮市照田字方地内	36.5912	140.3755	20			○		○				寺社境内地	○	○		○	
0094	長田天神山館	おさだてんじんやまだて		常陸大宮市長田字天神山	36.6140	140.3609	19			○		○					○	○	○	○	
0095	八田館	はったやかた		常陸大宮市八田字御陣屋跡	36.5656	140.3785	25		○						○				○		
0096	八田西原館	はったにしはらやかた		常陸大宮市八田字西原	36.5588	140.3774	25			○		○				寺社境内地	○	○	○	○	
0097	北塩子向ノ入城	きたしおこむかいのいりじょう	湯殿山城	常陸大宮市北塩子字向ノ入	36.5889	140.3592	19			○		○				寺社境内地	○	○	○	○	
0098	西塩子館	にししおごだて		常陸大宮市西塩子字滝山	36.5841	140.3463	19		○			○				寺社境内地	○		○		
0099	石沢小屋場城	いしざわこやばじょう		常陸大宮市石沢字小屋場	36.5331	140.4041	25		○			○					○	○	○	○	
0100	小倉城	おぐらじょう		常陸大宮市小倉字小屋ヶ作	36.5675	140.4340	25			○		○					○	○	○	○	
0101	塩原城	しおばらじょう	台山砦	常陸大宮市塩原字台山	36.5778	140.4315	25			○		○					○	○		○	
0102	辰ノ口城	たつのくちじょう		常陸大宮市辰ノ口字台	36.5883	140.4245	20			○		○					○	○		○	
0103	舟生城	ふにゅうじょう		常陸大宮市舟生字龍居	36.6458	140.3789	20			○		○					○	○	○	○	
0104	諸沢小屋場城	もろざわこやばじょう		常陸大宮市諸沢字小屋場	36.6712	140.4315	15			○		○					○	○		○	
0105	小貫城	おぬきじょう		常陸大宮市小貫字殿山	36.6107	140.4139	20			○		○					○	○		○	
0106	家和楽松久保館	やわらまつくぼたて	家和楽砦	常陸大宮市家和楽字松久保	36.6629	140.3934	20			○		○					○	○	○	○	
0107	盛金殿山城	もりがねとのやまじょう		常陸大宮市盛金字森金	36.6816	140.3847	15			○		○					○	○	○	○	
0108	河内城向館Ⅱ	こうとじょうむかいだてに		常陸大宮市鷲子	36.6564	140.2546	19			○		○					○			○	
0109	鷲子柏木城	とりのこかしわぎじょう		常陸大宮市鷲子字柏木	36.6584	140.2797	19			○		○					○	○		○	
0110	鷲子立ノ山城	とりのこたてのやまじょう		常陸大宮市鷲子字立ノ山	36.6519	140.2647	19			○		○					○	○		○	
0111	上檜沢田尻城	かみひざわたじりじょう		常陸大宮市上檜沢字田尻	36.6656	140.3288	19			○		○					○	○		○	
0112	小舟城向館	こぶねじょうむかいだて		常陸大宮市小舟字下山	36.6258	140.2800	19			○		○					○	○		○	
0113	大岩古内城	おおいわふるうちじょう		常陸大宮市大岩字古内	36.6332	140.2585	19			○		○				寺社境内地	○	○	○	○	
0114	大岩関沢城	おおいわせきさわじょう		常陸大宮市大岩字関沢	36.6266	140.2536	19			○		○					○	○		○	
0115	松之草入山城	まつのくさいりやまじょう		常陸大宮市松之草字入山	36.6027	140.2924	19			○		○					○		○	○	
0116	千田高内城	せんだたかうちじょう		常陸大宮市千田字高内	36.5868	140.2474	18		○	○		○					○	○	○	○	
0117	千田古茂内城	せんだこもうちじょう		常陸大宮市千田字古茂内	36.5801	140.2491	23			○		○					○		○	○	
0118	越郷城	こすごうじょう		常陸大宮市野口平字上越郷	36.5699	140.3446	24			○		○					○	○	○	○	
0119	大倉館	おおくらたて		常陸大宮市長倉字大倉山	36.5642	140.2899	24			○		○					○	○	○	○	
0120	金井城	かないじょう	烏渡呂宇城か	常陸大宮市金井字竹ノ塙	36.5668	140.2979	24			○		○					○		○	○	
0121	下伊勢畑コヤノ沢城	しもいせはたにしごやじょう		常陸大宮市下伊勢畑字コヤノ沢	36.5539	140.2918	24			○		○					○	○	○	○	
0122	上伊勢畑岩戸城	かみいせはたいわとじょう		常陸大宮市上伊勢畑字岩戸	36.5555	140.2568	24			○		○					○	○	○	○	
0123	入本郷川向館	いりほんごうかわむかいやかた		常陸大宮市入本郷	36.5890	140.2700	19			○		○					○		○	○	
0124	地徳館	じとくやかた	町屋要害	常陸太田市町屋町地徳	36.6039	140.5475	21			○		○					○	○			
0125	春友館	はるともやかた		常陸太田市春友町堀ノ内	36.5936	140.5428	21		○					○	○		○				
0126	赤須館	あかすやかた		常陸太田市茅根町上ノ台	36.5861	140.5434	21		○			○					○	○			
0127	茅根城	ちのねじょう		常陸太田市茅根町館ノ上	36.5783	140.5431	26		○					○					○		
0128	根本館	ねもとやかた		常陸太田市白羽町西ノ内	36.5684	140.5449	26		○					○			○	○	○		
0129	小野館	おのやかた		常陸太田市瑞龍町小野殿	36.5651	140.5297	26		○					○							
0130	小野崎城	おのざきじょう		常陸太田市瑞龍町小野崎	36.5545	140.5311	26		○			○				公共施設地	○				
0131	今宮館	いまみややかた	今宮大納言坊館	常陸太田市瑞龍町今宮	36.5533	140.5288	26		○			○				寺社境内地		○	○		
0132	大門北城	おおかどきたじょう	助川城	常陸太田市上大門町堀ノ内	36.5874	140.5151	21		○			○					○	○			
0133	大門南城	おおかどみなみじょう		常陸太田市下大門町塩畠	36.5854	140.5144	21		○			○						○	○		
0134	馬渕館	まぶちやかた		常陸太田市馬場町十二所	36.5498	140.5264	26		○					○	○			○			
0135	田渡城	たわたりじょう		常陸太田市田渡町竜蓋	36.5577	140.5489	26			○		○					○	○	○		
0136	幡館	はたやかた		常陸太田市幡町明神森	36.5356	140.5458	26		○			○		○					○		
0137	太田城	おおたじょう	舞鶴城	常陸太田市中城町	36.5454	140.5196	26		○						○	公共施設地			○	○	
0138	峰山館	みねやまたて		常陸太田市磯部町峰山	36.5183	140.5351	26		○			○				寺社境内地					
0139	釜田館	かまたやかた		常陸太田市谷河原町釜田	36.5089	140.5339	26				自然堤防			○							
0140	馬坂城	まさかじょう	稲木城	常陸太田市天神林町御城	36.5237	140.4986	25		○			○		○	○		○	○	○	○	

県包蔵地番号	指定	概要	発掘調査報告書番号
345-032		本文掲載	
345-034		立原氏の居館と推定される。	
346-017		本文掲載	
346-018		本文掲載	
346-019		本文掲載	
346-020		本文掲載	
346-021		本文掲載	
346-022		本文掲載	
346-023		本文掲載	
346-023		本文掲載	
346-038		本文掲載	
346-039		下檜沢城の向館と伝わり、物見台として機能したと思われる。	
346-040		本文掲載	
347-004		本文掲載	5
347-012		本文掲載	
347-013		本文掲載	
347-014		本文掲載	
347-015		本文掲載	
347-016		本文掲載	
347-017		本文掲載	
347-020		本文掲載	
347-021		本文掲載	
347-022		本文掲載	
		川野辺氏の館跡と伝承されている。	
		秋田にあるという那須権守の館跡「南館」に比定したいが付近に同地名なく確証なし。「木屋峰」の城館地名あり。	
		小瀬家臣大武氏居館伝承。那須街道沿いにあるため、街道監視の城か。	
		来歴不明。羽黒神社付近。城下を西塩子からの道と近世山方ー小野河岸道が通過する。	
		本文掲載	
		鎌倉時代八田知家居住後に佐竹氏家臣八田氏居住。江戸時代以前は字小屋台と呼ばれていた。江戸時代に陣屋が置かれていた。	
		野上氏居館伝承。八幡神社境内付近。城下を山方ー東野ー小野河岸の古道が通っている。	
		本文掲載	
		来歴不明。関連地名「滝山・木ノ下・上ノ内」。県道161号沿い、鹿島羽黒神社境内に位置。	
		来歴不明。石沢館跡に関連するか。関連地名「小屋場」。引田集会所の西の標高64ｍの台地先端部。	
		本文掲載	
		来歴不明。峠の東側に近接する利員城（常陸太田市）と関連か。グリーンふるさとラインの南側、大金トンネル西側入口の南西約300ｍ、標高135ｍの山上。	
		来歴不明。辰ノ口堰の南側、工場東側の標高約100ｍの山上に位置。	
		来歴不明。関連地名「龍居」。水郡線中舟生駅から西に１㎞。	
		来歴不明。関連地名「小屋場」。	
		本文掲載	
		本文掲載	
		南郷道の難所盛金峠に接しており、峠と西下を通る南郷道の監視の役割を持つと思われる。	
		河内向館Ⅰと同様に地元で河内城の向館跡と伝わる。河内向館Ⅰの東約100ｍ地点に位置。	
		来歴不明。鷲子の交差点の北西の山上に所在。	
		来歴不明。国道293号沿いの南側の標高約295ｍの山頂に位置。現在の愛宕神社境内。	
		本文掲載	
		来歴不明。常陸大宮市やすらぎの里公園内にあるバンガローエリア西側の山頂。	
		本文掲載	
		本文掲載	
		来歴不明。	
		本文掲載	
		本文掲載（「千田高内城跡」の項）	
		本文掲載	
		長倉氏の一族大沢弾正が大倉氏を名乗り居住。金井城跡の西約600ｍ、国道123号の北側、那珂川左岸の標高約93ｍ・比高さ約30ｍの山上。	
		本文掲載	
		来歴不明。関連地名「西古屋」「コヤノ沢」。御前山ダムの東側、下伊勢畑北要害の約300ｍ西側の標高約159mの山上。	
		来歴不明。栃木県境付近の那珂川南岸、県道212号（赤沢茂木線）沿いの、片倉山から北東に張り出す尾根上。	
		来歴不明。三王山から派生する山塊の尾根上標高126m。	
212-116		本文掲載	
212-117		本文掲載	
212-118		本文掲載	
212-119		本文掲載	
212-120		本文掲載	
212-121		本文掲載（「小野崎城跡」の項）	
212-122		本文掲載	12
212-123		本文掲載（「小野崎城跡」の項）	
212-124		本文掲載	
212-125		本文掲載	
212-126		南北朝時代に佐竹氏8代行義の子小三郎景義が築館したといわれている。東西、南北ともに約100ｍの広さがあったといわれているが、現存する遺構はない。	
212-127		本文掲載	
212-128		佐竹氏家臣幡氏の館であるというが来歴は不明である。南北約70ｍ、東西約50ｍの広さがあり、土塁、堀や帯曲輪が確認できる。	
212-129		本文掲載	11,13
212-130		文禄4年（1595）佐竹義宣宿老和田昭為の山崎修理あて書状があるため、築館は、山崎氏か。遺構は不明である。	
212-131		昭和44年5月に湮滅。遺構は存在せず、伝承もなく記録もない。	
212-132	市	本文掲載	

No.	名称	ふりがな	別称	所在地	座標		地図番号	立地				現況					残存遺構				
					北緯	東経		平地	丘陵台地	山地	その他	山林	水田	畑地	宅地	その他	曲輪	堀	土塁	切岸	その他
0141	藤田館	ふじたやかた		常陸太田市藤田町上合前	36.5199	140.4887	25				自然堤防			○	○			○			
0142	河合館	かわいやかた	河合城	常陸太田市上河合町江向	36.5074	140.5150	26				自然堤防			○	○				○		
0143	岡田館	おかだやかた	西岡田館	常陸太田市岡田町台	36.5276	140.5561	26		○					○	○		○			○	
0144	高井館	たかいやかた	後岡田館	常陸太田市小目町高井	36.5236	140.5608	26		○					○	○			○	○		
0145	小目館	おめやかた	東岡田館	常陸太田市小目町宮西	36.5208	140.5631	26		○			○					○	○	○		
0146	瀬谷館	せややかた		常陸太田市真弓町中城	36.5313	140.5844	26		○					○	○						
0147	薄井館	うすいやかた	大森館	常陸太田市大森町用心小屋	36.5244	140.5861	26		○			○						○	○		
0148	岡部館	おかべやかた		常陸太田市大森町清水	36.5217	140.5897	26		○			○				高速道路	○	○	○		土橋
0149	丹奈館	たんなやかた	小葉屋敷	常陸太田市大森町丹奈下	36.5165	140.5859	26		○					○	○				○		
0150	大橋城	おおはしじょう		常陸太田市大森町栗下	36.5136	140.5863	26		○			○					○	○			
0151	久米城	くめじょう		常陸太田市久米町かぶれ山	36.5500	140.4826	25		○			○					○	○	○	○	
0152	御陣屋城	ごじんやじょう		常陸太田市大里町前宮	36.5311	140.4850	25		○			○							○		
0153	竜貝城	りゅうがいじょう		常陸太田市久米町かぶれ山	36.5510	140.4825	25		○			○					○	○	○		
0154	高柿城	たかがきじょう	御城	常陸太田市高柿町御城	36.5546	140.4694	25		○			○				工場敷地		○	○		
0155	利員竜貝城	としかずりゅうがいじょう	龍階城	常陸太田市中利員町外城	36.5868	140.4499	20		○			○				墓地		○			
0156	金砂城	かなさじょう	西金砂城	常陸太田市上宮河内町蜂巣	36.6563	140.4517	20			○				○				○	○		
0157	大里荒谷城	おおさとあらやじょう		常陸太田市大里町目久保内	36.5340	140.4895	25		○			○			○			○	○		
0158	武生城	たきゅうじょう	高倉城	常陸太田市下高倉町竜害	36.6875	140.4640	15			○		○					○				
0159	山入城	やまいりじょう	国安城	常陸太田市国安町久保小屋	36.5999	140.4786	20			○		○					○	○	○		
0160	松平城	まつだいらじょう		常陸太田市松平町平	36.5917	140.4889	20		○			○		○	○	寺社境内地	○	○	○		
0161	町田城	まちだじょう		常陸太田市町田町天神台	36.6217	140.4853	20			○		○					○	○	○		
0162	天下野館	けがのやかた		常陸太田市天下野町館	36.6650	140.4696	20			○		○		○	○	墓地	○	○			
0163	林の下城	はやしのしたじょう	曽目城	常陸太田市中染町遠山	36.6347	140.4836	20			○		○					○	○			
0164	西染城	にしぞめじょう		常陸太田市西染町見上	36.6278	140.4739	20			○		○					○	○			
0165	棚谷城	たなやじょう		常陸太田市棚谷町鹿ノ場	36.5925	140.4811	20			○		○					○	○	○		
0166	和田小屋城	わだごやじょう		常陸太田市松平町和田小屋	36.5844	140.4792	20			○		○					○				
0167	十郎山館	じゅうろうやまやかた		常陸太田市東連地町御城	36.5816	140.4790	25			○		○					○				
0168	舘館	たてやかた	大中館	常陸太田市大中町	36.7344	140.5014	16			○		○				公共施設地		○	○		土橋
0169	小里城	おざとじょう	うす葉城	常陸太田市小妻町	36.7545	140.4894	9		○				○	○				○	○		
0170	上の台館	うえのだいやかた		常陸太田市徳田町	36.7905	140.4812	9			○		○		○				○	○		
0171	行石館	なめしやかた	荒蒔城	常陸太田市小妻町	36.7678	140.4858	9		○					○	○			○	○		
0172	木の上館	きのかみやかた		常陸太田市折橋町	36.7154	140.5042	16		○			○						○			
0173	十殿坂館	じゅうどのさかやかた		常陸太田市上深荻町	36.6603	140.5264	21			○		○							○		
0174	館の台館	たてのだいやかた		常陸太田市小妻町	36.7579	140.4917	9			○		○									武者走り
0175	和台館	わだいやかた		常陸太田市徳田町	36.7846	140.4778	9		○					○						○	
0176	羽黒山館	はぐろさんやかた		常陸太田市中小町	36.7493	140.4938	15			○		○				寺社境内地	○	○	○		土橋
0177	愛宕山館	あたごやまやかた		常陸太田市大中町	36.7289	140.4890	15			○		○				寺社境内地		○	○		
0178	茅根城向館	ちのねむかいやかた		常陸太田市常福地町	36.5786	140.5368	26		○			○				寺社境内地	○				土壇
0179	八百岐館	やおきやかた		常陸太田市瑞龍町北屋敷前	36.5595	140.5270	26		○			○				墓地			○		
0180	上宮河内愛宕館	かみみやかわちあたごやかた		常陸太田市上宮河内町	36.6392	140.4263	20			○		○					○	○	○		
0181	赤土圷館	あかつちあくつやかた		常陸太田市赤土町	36.6254	140.4539	20			○		○					○	○	○		
0182	小里富士山城	おざとふじやまじょう		常陸太田市小中町	36.7576	140.5057	10			○	-	○					○				
0183	中染要害山城	なかぞめようがいやまじょう		常陸太田市中染町釜ノ上	36.6415	140.4821	20			○		○					○	○	○	○	
0184	花房城	はなふさじょう		常陸太田市花房町陳ヶ峰	36.5311	140.4603	25		○			○					○	○			虎口
0185	西河内館	にしごうとやかた		常陸太田市西河内上町	36.6358	140.5192	21			○		○					○		○		
0186	白羽要害	しらわようがい		常陸太田市白羽町	36.5728	140.5575	26			○		○					○	○			土橋
0187	堀の内館	ほりのうちやかた		那珂市菅谷字堀ノ内	36.4347	140.5004	31	○							○			○			
0188	加藤安房館	かとうあわやかた	鷺内館	那珂市菅谷字鷺内	36.4670	140.4882	30	○				○					○	○	○		
0189	額田城	ぬかだじょう	久慈見城	那珂市額田南郷	36.4882	140.5224	31		○			○		○	○		○	○	○	○	
0190	戸村城	とむらじょう		那珂市戸	36.4572	140.4228	30	○				○	○	○	○		○	○	○	○	
0191	江戸城	えどじょう		那珂市下江戸字城之内	36.4959	140.4025	30			○		○									平場
0192	南酒出城	みなみさかいでじょう		那珂市南酒出字蔵本	36.4802	140.4950	30		○			○		○	○		○	○	○	○	
0193	北酒出城	きたさかいでじょう		那珂市北酒出字関内	36.4837	140.4874	30	○				○		○	○				○		
0194	藤咲丹後館	ふじさきたんごやかた	一の関館	那珂市菅谷字一ノ関	36.4518	140.4878	30	○							○						
0195	福田中坪館	ふくだなかつぼやかた	福田氏館	那珂市福田字中坪	36.4460	140.4822	30	○				○		○	○		○	○	○		
0196	高野氏館	たかのしやかた	中宿東館	那珂市菅谷字中宿東	36.4476	140.4967	30	○						○	○						
0197	宮田掃部助館	みやたかもんのすけやかた	高内館	那珂市菅谷字高内	36.4492	140.5093	31	○				○	○	○	○		○	○	○		
0198	軍司筑後守館	ぐんじちくごのかみやかた	仲の房東館	那珂市菅谷字仲房東	36.4431	140.5064	31	○							○						
0199	平野小六館	ひらのころくやかた	小六内館	那珂市菅谷字小六内	36.4393	140.5027	31	○							○						
0200	平野館	ひらのやかた	寄居館	那珂市菅谷字寄居	36.4379	140.5122	31	○				○	○	○	○	墓地	○	○	○		
0201	島崎館	しまざきやかた		那珂市後台字駒潜	36.4425	140.4772	30	○				○		○	○		○	○	○		
0202	大学原館	だいがくばらやかた		那珂市本米崎字大学原	36.4770	140.5387	31	○								研究所敷地					
0203	本米崎館	もとこめざきやかた		那珂市本米崎字久保前	36.4838	140.5476	31	○				○					○		○		
0204	神生館	かのうやかた	加納館	那珂市本米崎字海後	36.4894	140.5564	31		○			○		○		寺社境内地		○	○		平場
0205	坊の内館	ぼうのうちやかた		那珂市横堀字坊の内	36.4700	140.5129	31	○						○	○				○		

県包蔵地番号	指定	概要	発掘調査報告書番号
212-133		伝承によれば、館主は萩谷氏とあり、その子孫も館跡に居住するが記録がなく不明である。	
212-134		本文掲載	
212-135		本文掲載	
212-136		本文掲載	
212-137		本文掲載	
212-138		「水府志料」よると人見筑後守の居城と伝える。遺構は不明である。	
212-139		本文掲載	
212-140		本文掲載	
212-141		『新編常陸国誌』によると、小野小三郎高長の居館である。一部に土塁跡が残るのみである。	
212-142		本文掲載	
361-015		本文掲載	
361-017		来歴不明。	
361-019		久米城域の一部	
361-023		本文掲載	
361-027		本文掲載	
361-029		本文掲載	
361-047		来歴不明。	
362-001		本文掲載	
362-003	市	本文掲載	9,10
362-004		本文掲載	
362-006		本文掲載	
362-007		本文掲載	
362-011		本文掲載	
362-012		本文掲載	
362-013		本文掲載	
362-014		本文掲載	
362-015		本文掲載	
363-010		本文掲載	
363-011		本文掲載	
363-012		本文掲載	
363-013		本文掲載	
363-014		来歴不明。	
363-015		築城時期は不明だが、山入の乱で佐竹氏が弱体化した時期、文明17年（1485）頃里美地方は岩城氏に占拠され、延徳元年（1489）奥州の伊達・葦名・結城の連合軍が里美に侵攻した。その頃太田城を守る佐竹方の最前線基地として築かれたと推定される。	
363-016		本文掲載（「小里城と周辺城館跡」の項）	
363-018		大森病院の西側に切岸あり、過去に土塁もあった。	
363-040		本文掲載（「小里城と周辺城館跡」の項）	
363-066		来歴不明。	
		本文掲載（「茅根城跡」の項）	
		本文掲載（「小野崎城跡」の項）	
		本文掲載（「金砂城と周辺城館跡」の項）	
		本文掲載（「金砂城と周辺城館跡」の項）	
		本文掲載（「小里城と周辺城館跡」の項）	
		本文掲載	
		本文掲載	
		本文掲載	
		本文掲載	
342-035		本文掲載	14,15
342-036		本文掲載	
342-037	市	本文掲載	16
342-038		本文掲載	
342-039		年代不明。藤原秀郷の五世の孫公通の二子通直が那珂郡川辺郷に住み川辺太夫と称し、その子通資が初めて那珂氏（那珂太郎）を名乗った。南北朝の動乱に際しては、那珂通辰が南朝方として、瓜連城の楠木正家に味方して敗れ、通辰以下３６人が増井正宗寺脇の独松峰で切られたが、通辰の一子通泰だけがその難を逃れ、後に足利尊氏に下ったとされる。通泰は石見国鼓崎城の佐和善四郎を討ち取る武功をあげ、その軍忠により那珂東郡江戸郷を賜ったとされる。通泰の子通高の時、初めて江戸氏を称したという。明確な遺構は確認できないが、城之内など城郭関連地名が残る。	
342-040		本文掲載	
342-041		本文掲載	
342-077		年代不明。城主は藤咲丹後であり、竹ノ内館の城主藤咲丹後の父と伝わる。（「水府志料」）	
342-078		本文掲載	
342-079		本文掲載	17
342-080		本文掲載	18,19
342-081		本文掲載	20,21
342-082		年代不明。城主は平野小六と伝わる。平野美良氏所蔵「平野氏系図」では、平野氏は源満政から分かれた一族とされ、満政から十代後の重隆の次男満義が菅谷に居住し、平野小六を称したという。満義の孫忠満は江戸通房に属し、応永三十年（１４２３）の水戸城攻めに参加し、平野氏一族は、その後も代々江戸氏に属したとされる。忠義（忠満の六代後）の代には、天正十八年（１５９０）の佐竹氏による水戸城攻めに際して、江戸重通に属して防戦した。忠義は菅谷庄に二百三十貫もの知行地を有したとされ、平野小六は江戸氏家臣中で高い位置を占めていたと考えられる。水戸城の落城後は菅谷へ土着したという。現在は住宅地となっており、遺構は確認できないが、城域南端に当時の地形が一部残っている。	
342-083		本文掲載	
342-092		来歴不明。字名としては残っていないが、城館跡のあたりの土地を「島崎（の土地）」と、現在でも呼ぶらしい。島崎館の土地を所有する峯島氏は、五代前の先祖までたどることができ、近世後期からこの地の有力者であったことが分かっている。この峯島氏は天文七年（１５３８）や文禄二年（１５９３）と記された位牌を所蔵していたが、年号と干支の組み合わせに齟齬があり、おそらく後世の写しと思われる。しかし、これらの位牌の記述のもとになった伝承等の存在が想定でき、峯島氏が中世後期からの由緒を持つ可能性を示している。城館跡に隣接する水田には、「城主」の首切り伝承がある。水田には昔池があり、稗蔵破りをした「殿様」がその池で斬首されたという。稗蔵とは、おそらく菅谷みの内にあったとされる水戸藩の稗蔵のことと考えられ、近世初頭にこの地の武士が起こした事件が、城館跡と結びついて伝承となったのであろうか。「殿様」と峯島氏との関係は不明である。	
342-094		来歴不明。近世には秣場になっていたが、かつて大井大学という者の居所があったという（「水府志料」）。現在、量子科学技術研究開発機構那珂核融合研究所の敷地となっているため、調査・確認は不可。	
342-095		来歴不明。額田氏家臣の居住伝承。土塁が四周する曲輪が一つ確認できる。単郭か複郭かは確認できない。	
342-098		来歴不明。「神生の乱」の際に小野崎昭通がこの地に神生氏を匿ったという伝承。台地上の平坦地にはほとんど遺構が見られないが、斜面には土塁や堀を確認することが出来る。	
342-103		来歴不明。	

No.	名称	ふりがな	別称	所在地	座標		地図番号	立地				現況					残存遺構				
					北緯	東経		平地	丘陵台地	山地	その他	山林	水田	畑地	宅地	その他	曲輪	堀	土塁	切岸	その他
0206	堤館	つつみやかた	笹葉御殿	那珂市堤字御所堀	36.4564	140.5204	31	○						○	○	雑種地					
0207	森戸館	もりどやかた		那珂市額田北郷字森戸前	36.4926	140.5114	31	○						○							
0208	小堤館	おづつみやかた		那珂市額田南郷字小堤	36.4851	140.5149	31	○				○		○	○	寺社境内地		○	○		
0209	仲の房館	なかのぼうやかた		那珂市菅谷字仲の房	36.4449	140.5032	31	○				○		○	○	寺社境内地		○	○		
0210	竹の内館	たけのうちやかた		那珂市菅谷字竹の内	36.4510	140.4991	30	○							○						
0211	柏村越前守館	かしむらえちぜんのかみやかた	みの内館	那珂市菅谷字みの内	36.4440	140.4898	30	○							○						
0212	地天館	じてんやかた	飛田氏館	那珂市菅谷字地天	36.4416	140.5091	31	○				○		○	○		○	○	○		
0213	向坪館	むかいつぼやかた	海野氏館	那珂市福田字向	36.4481	140.4840	30	○						○	○			○			平場
0214	東崎館	とうざきやかた		那珂市福田字東崎	36.4389	140.4853	30	○							○						
0215	原坪館	はらつぼやかた		那珂市福田字原屋敷	36.4544	140.4818	30	○				○		○	○		○	○	○		
0216	稲荷宮館	とうかみややかた	武平山館	那珂市福田字稲荷宮	36.4519	140.4761	30	○				○		○	○		○	○	○		
0217	西木倉館	にしきのくらやかた	植田城	那珂市西木倉字追戸	36.4178	140.4640	30		○			○							○		
0218	桧山館	ひやまやかた		那珂市戸字檜山	36.4700	140.4184	30	○					○	○							
0219	田崎館	たさきやかた		那珂市田崎字八幡	36.4733	140.4253	30			○		○				太陽光発電					
0220	真土館	まづちやかた		那珂市田崎字檜山後	36.4720	140.4174	30	○					○	○							
0221	大内館	おおうちやかた		那珂市大内字十郎内	36.4834	140.4100	30			○		○		○	○				○		
0222	掛札館	かけふだやかた		那珂市飯田字寄居	36.4596	140.4622	30	○				○		○		寺社境内地		○			
0223	東風谷館	こじややかた		那珂市鴻巣字東風谷	36.4602	140.4833	30	○						○	○						
0224	稲荷山館	いなりやまやかた		那珂市鴻巣字稲荷山	36.4676	140.4795	30	○				○		○	○		○	○	○		
0225	備前山館	びぜんやまやかた		那珂市飯田字備前山	36.4622	140.4512	30	○				○		○	○			○			
0226	戸崎鹿島館	とざきかしまやかた		那珂市戸崎字台	36.4775	140.4428	30			○		○				寺社境内地					
0227	内後館	うちごやかた		那珂市戸崎字内後	36.4742	140.4385	30	○						○	○			○	○		
0228	門部館	かどべやかた		那珂市門部字中組	36.4901	140.4797	30	○				○		○	○			○	○	○	
0229	小屋場館	こやばやかた		那珂市門部字小屋場	36.4878	140.4731	30	○				○		○	○		○	○	○		
0230	要害城	りゅうがいじょう		那珂市門部字西組	36.4939	140.4717	30	○				○		○	○			○	○		
0231	木戸館	きどやかた		那珂市鴻巣字木戸	36.4784	140.4642	30	○				○		○	○			○	○		
0232	白河内台坪館	しらこうじだいつぼやかた		那珂市門部字白河内台坪	36.4801	140.4775	30	○				○		○				○	○		
0233	薬山館	くすりやまやかた		那珂市鴻巣字薬山	36.4718	140.4773	30	○				○		○			○	○	○		
0234	根城内館	ねぎうちやかた		那珂市鴻巣字根城内	36.4728	140.4747	30	○				○		○		太陽光発電	○	○	○		
0235	玄蕃山館	げんばやまやかた		那珂市福田字上福田道東	36.4528	140.4699	30	○				○		○		企業敷地		○	○		
0236	吽野氏館	うんのしやかた		那珂市鴻巣字中條	36.4594	140.4737	30	○				○		○	○			○	○		
0237	城菩提城	じょうぶだいじょう		那珂市瓜連字城菩提	36.5077	140.4192	25			○		○						○	○		
0238	瓜連城	うりづらじょう		那珂市瓜連字入門前	36.5038	140.4520	25		○			○			○	寺社境内地	○	○	○	○	
0239	古徳城	ことくじょう	丁字の城	那珂市古徳字小屋	36.4941	140.4345	30			○		○					○	○	○	○	
0240	御城山城	おしろやまじょう	背踏城　名古曾舘	北茨城市関本町関本上字背踏	36.8624	140.7576	7		○			○					○	○	○		
0241	車城	くるまじょう	群馬城、郡馬城、牛淵城	北茨城市華川町車字下宿	36.8172	140.7264	11		○			○				寺社境内地	○	○	○	○	
0242	館山城	たてやまじょう	名古曾城	北茨城市関本町関本上字石倉	36.8639	140.7611	7		○			○					○	○	○		塚阜
0243	山小屋城	やまごやじょう		北茨城市関本町富士ヶ丘字槻木下	36.8512	140.7326	6		○			○				寺社境内地	○	○			
0244	湯之網城	ゆのあみじょう		北茨城市関南町神岡下字大高	36.8376	140.7545	7		○			○				寺社境内地	○	○			土橋他
0245	島崎城	しまざきじょう	巴城	北茨城市中郷町松井字中城	36.7834	140.7223	11		○			○		○		寺社境内地	○	○	○		塚阜他
0246	石岡城	いしおかじょう	リウガイ古屋敷	北茨城市中郷町石岡字竜ガイ	36.7777	140.6857	11		○			○					○	○	○		
0247	菅股城	すがまたじょう		北茨城市磯原町大塚字菅又	36.7967	140.7025	11		○			○					○	○	○		
0248	梅現山館	ごんげんやまやかた	小野矢指館	北茨城市中郷町小野矢指字城ノ腰	36.7567	140.7214	11		○			○					○	○	○		塚阜他
0249	小山館	こやまやかた		北茨城市中郷町栗野字小山	36.7656	140.7192	11		○			○					○			○	
0250	笠松古屋鋪	かさまつふるやしき		北茨城市磯原町大塚字笠松	36.7899	140.7067	11	○					○	○	○	寺社境内地				○	
0251	岩淵古屋鋪	いわぶちふるやしき		北茨城市中郷町石岡字岩淵	36.7827	140.7047	11	○				○					○	○	○		
0252	豊田城	とよたじょう	古館	北茨城市磯原町豊田字古敷田	36.7917	140.7285	11		○					○	○		○	○	○	○	
0253	才丸城	さいまるじょう		北茨城市関本町才丸	36.8751	140.6544	6			○		○					○	○	○	○	
0254	車伊豆堂城	くるまいずどうじょう		北茨城市華川町車	36.8194	140.7186	11			○		○					○	○	○	○	
0255	臼場下ノ内城	うすばしものうちじょう		北茨城市臼場	36.8086	140.7314	11			○		○				アンテナ敷地	○	○	○	○	
0256	豊田鹿島城	とよだかしまじょう		北茨城市豊田	36.7975	140.7342	11			○		○				寺社境内地	○	○	○	○	
0257	大津三峰城	おおつみつみねじょう		北茨城市大津	36.8334	140.7872	7			○		○					○	○		○	
0258	関本下岩塙城	せきもとしもいわばなじょう		北茨城市関南町岩塙	36.8478	140.7683	7			○		○					○	○	○	○	

県包蔵地番号	指定	概要	発掘調査報告書番号
342-104		来歴不明。住谷尾張の館とされる。別称「笹葉御殿」は南酒出氏の隠居所とも言われている。	
342-121		来歴不明。	
342-127		年代不明。佐竹義直が額田城築城以前に居住したという伝承を残す。城域に所在する鱗勝院は額田義直が開基となり、父佐竹義重の菩提所としたという。境内には佐竹義直のものと伝わる供養塔がある。部分的に遺構は残っているとされるが、判然としない。	
342-128		年代不明。かつてこの地の領主である壬生左近尉正春の屋敷地であったという。正春の兄壬生弾正忠浄春が比叡山延暦寺二世慈覚大師の阿弥陀如来を携え諸国巡行していた際、途中で弟正春の屋敷に逗留し、承和五年（８３８）に光祥院（天台宗）を建立した。親鸞の弟子如信上人が諸国行脚の際に光祥院に立ち寄り、壬生正春の子孫である壬生姓関口左衛門尉春政を弟子とした。正安二年（１３００）、如信が常陸国金沢道場（大子町）で入寂すると、春政はその菩提を弔うため、光祥院を浄土真宗に改宗し、徳寿山光祥院浄讃房（のちに徳寿山慶乗院浄讃房）に改めた。文安年中（１４４４～４９）に、かつて如信が布教の拠点とした陸奥国願入寺は、戦乱を避け常陸国那珂郡大根田（常陸大宮市）へ、文亀三年（１５０３）には仲の房館の地へと移り、浄讃房とは別堂を建て那賀房と号し、如賢・如了の二代にわたって居住した。これが現在の字名「仲之房」の由来であり、この時に浄讃房は寺号を正覚寺と改めたという。	24
342-131		年代不明。城主は藤咲丹後であり、藤咲丹後館の城主の嫡子と伝わる。（「水府志料」）	
342-132		「柏村氏系図」によれば、柏村越前守吉良という者が、播磨国から菅谷みの内に移ってきた際に構えられたというが、年代は不明である。その後、宍戸合戦（年次不詳）において柏村氏の当主は戦死し、天文年中（１５３２～５５）にその子孫は百姓となり、城域に居住し続けたという。慶長年中（１５９６～１６１５）には、伊奈備前守がこの城地を所望したため、原山一町二反と交換したとされる。伊奈備前守は、ここに初代水戸藩主武田信吉の御殿を築いたが、信吉が慶長八年に死去したため、その跡に陣屋を置いた。ここに鈴木金大夫が住み、のちに稗蔵が建てられたという。	
342-133		本文掲載	22
342-135		年代不明。城主は海野日向である。もとは甲州大井を本拠とする大井氏であったが、この地に移って母方の姓海野に改めたとされる（「水府志料」）。また、海野一成氏所蔵の寛政三年（１７９１）の先祖書上には、「先祖は甲州の浪人海野日向と申すもので、当村に落ち付き、堀囲をを築き居住したという。さらに同氏所蔵の系図によれば、海野氏の先祖は清和天皇十二代の後胤・大井太郎朝光で、信濃大井庄を知行していたという。朝光の子は大井六郎光盛で、光盛の子は大井六郎左衛門尉盛遠と称した。この盛遠の母が、海野志摩守達房娘であった。その数世の後、大井源太道軒信守は甲州を浪人し、常陸国那珂郡福田郷に移り住んだという。大井信守は海野日向と改名し伊奈備前守に仕え、父子とも菅谷に住み郷士となり、後にもとの屋敷に戻ったという。（「信濃源氏大井系図」）海野日向のものと伝わる五輪塔が仲福田共有墓地にある。	
342-136		年代不明。城主は圷縫殿之介と伝わる（「水府志料」）。「圷（あくつ）」の名前が見られる史料としては、①来迎院大般若経に、寄進者として「佐竹郡小靄之住人アクツ治部」の名前②弘治三年（１５５７）の「佐竹義昭奉加帳」に「阿久津縫殿允」③天文十八年（１５４９）銘の小瀬白幡八幡宮社壇修造棟札に「あくつ」④天正七年（１５７９）銘の小瀬西目大明神社殿修造棟札に「阿久津大すみかみ」など、周辺地域に圷氏は散見されるが、東崎館館主圷縫殿之介との関係は不明。圷氏は近世において、福田村金光寺の檀家となっている。下福田共同墓地に五輪塔がある。	
342-137		本文掲載。	
342-139		来歴不明。	
342-148		来歴不明。「水府志料」には、「古屋鋪たての山といふ字の所にあり。何人の居住せしを知らず。」の記述あり。『那珂郡郷土史』（大正十二年）には、「木倉城跡　舘の山は佐竹の支族北左衛門義斯の居りし所なり」と記されているが、この記述以外に北義斯の居城伝承を示すものは無い。遺構はほぼ確認できない。	
342-162		年代不明。檜山正考氏所蔵「古文書写」には、戸村上総介義易三男の檜山主水正義忠が、戸村檜山平城に住し、地名を以て檜山氏を名乗ったことが記されている。『水戸旧臣記』を見ると、元禄期にはすでに開墾され、檜山権現のみが残っていたらしい。	
342-165		年代不明。佐竹氏の世臣田崎式部少輔を祖とする田崎氏は、那珂郡田崎村を出自としており（『新編常陸国誌』）、この田崎式部少輔が居住した館と考えられる。田崎式部少輔の子新三郎、その子遠江守は天正年中の人で、佐竹義宣に仕えて奥州東館の城代となった（『新編常陸国誌』）とあることから、田崎式部少輔から三代遠江守廉親が東館に移るまで利用した可能性がある。	
342-170		来歴不明。、遺構確認できず。	
342-173		来歴不明。佐竹行義三男大内与次郎義高の居館か。（『那珂町史』）	
342-177		年代不明。掛札氏と大和田氏の城主伝承があるが内容に齟齬がある。（①江戸氏の家臣掛札駿河が居住し後に大和田伊賀守貞宗が入ったが、額田氏によって滅ぼされた（「水府志料」）、②江戸氏家臣であった掛札氏が額田氏に滅ぼされたのち、大和田伊賀守が来往した（「掛札系図」）。）城域内に掛札氏の末裔とされる横山氏の墓地があり、中世のものと推定される宝篋印塔や五輪塔の部材が集められている。	
342-180		来歴不明。「ゆうげ」「ゆうがい」という俗称あり。	
342-182		来歴不明。地形の改変が多いが、土塁や堀を確認することが出来る。「中丸」という俗称地名が残る。	
342-183		来歴不明。「備前山と称す。何人の居住するところを知らず」（「水府志料」）	
342-185		来歴不明。遺構の判断が困難。	
342-188		年代不明。戸島弾正という者が居住する古屋鋪があった（「水府志料」）。「久慈郡薩都宮奉加帳」に「戸志間弾正」の名が見られる。戸村家家臣として禄八貫文の所領を持ち、戸村義国に従い秋田へ移り、のちに浪人となったという（『水戸旧臣記』）。	
342-195		本文掲載	
342-198		本文掲載	
342-201		本文掲載	
342-206		来歴不明。「木戸左衛門尉」の城主伝承（『那珂町史』）。	
342-209		来歴不明。白石志摩守の居館と推定。（川崎春二）	
342-255		本文掲載	
342-256		本文掲載	
342-257		永禄年間に「吽野玄蕃」が居住し、天正年中に鴻巣村に移り子孫は農民になった（「水府志料」）。吽野氏の先祖は清和天皇皇子繁ノ井親王の庶流・信州海野の住人海野小太郎尚章十三代の孫で、信州吽野城主大井玄蕃尚方といいい、永禄年中に常陸国福田郷に来往し、館を構え海野玄蕃守道宗と改名、佐竹義重に仕えたという（『那珂町史』（「鴻巣吽野氏由緒書上」「吽野悦郎氏所蔵位牌」））。	
342-258		永禄年間に「吽野玄蕃」は玄蕃山に居住していたが、天正年中に鴻巣村に移り子孫は農民になった（「水府志料」）。	
343-005		来歴不明。老猫退治の伝承。	
343-011	県	本文掲載	23
343-017		本文掲載	
215-030		本文掲載	
215-038		本文掲載	25
215-071		本文掲載	
215-072		本文掲載	
215-073		本文掲載	
215-074		本文掲載	
215-075		本文掲載	
215-076		本文掲載	
215-081		本文掲載	
		本文掲載	
		「是モ大塚掃部助屋敷鋪跡也ト云伝フ、或曰、菅股城ヨリ砦ヲ構ヘシ地ナルヘシ」（「松岡地理誌」）。	
		「是モ大塚掃部助屋敷鋪跡也ト云伝フ、或曰、菅股城ヨリ砦ヲ構ヘシ地ナルヘシ」（「松岡地理誌」）。	
		現在は城山団地となり遺構の大半は失われたが、「松岡地理誌」所載の図から、南を崖に面した辺りが主郭で、東西約100m・南北約30mの規模であったという。当城は加藤氏の居城と伝わり、近世以降も麓に住み続けたという（「松岡地理誌」）。城跡の北西には昭和57年（1982）に建立した瀬谷義彦氏の撰文による記念碑が立つ。関連地名に、「古敷田」「館ノ腰」「館ノ下」が残る。	
		本文掲載	
		本文掲載	
		臼場城伝承が伝わる堀ノ内集落の北側、標高43mの山上に所在。臼場城の可能性あるが確証ないため別城館とする。	
		天正年間に佐竹氏と車氏の合戦場になり、その際社殿が炎上したと伝わる。神社に天文年間の棟札があると伝わる。標高53mの独立した山上。	
		来歴不明。三峰神社境内に有機的に配置された数段の平場が見え、切岸や一部堀切のような跡があり、城郭遺構の可能性がある。	
		来歴不明。標高45mの山上。	

No.	名称	ふりがな	別称	所在地	座標		地図番号	立地				現況					残存遺構				
					北緯	東経		平地	丘陵台地	山地	その他	山林	水田	畑地	宅地	その他	曲輪	堀	土塁	切岸	その他
0259	関本中栗野城	せきもとなかあわのじょう		北茨城市関本町関本中	36.8553	140.7736	7			○		○					○	○	○	○	
0260	龍子山城	たつこやまじょう	松岡城	高萩市下手綱字館の内	36.7410	140.7049	17	○		○		○	○	○	○		○	○	○	○	井戸
0261	舘の坊古舘	たてのぼうふるだて		高萩市下手綱字館の坊	36.7274	140.7120	17		○			○		○			○				
0262	西館屋敷	にしだてやしき	西垂屋敷	高萩市上手綱字西垂	36.7344	140.6888	17	○	○			○		○			○	○	○	○	
0263	中の館	なかのだて	寺山館	高萩市上君田字宮の沢	36.7970	140.5764	10			○		○				寺社境内地	○			○	
0264	内の草古館	うちのくさふるだて		高萩市上君田字内の草	36.8032	140.5799	10			○		○					○	○		○	
0265	田の草古館	たのくさふるだて		高萩市上君田字田の草	36.7919	140.5844	10			○		○					○	○		○	
0266	明神山古館	みょうじんやまふるだて		高萩市字上君田字井戸沢	36.7933	140.5727	10			○		○				寺社境内地	○	○		○	
0267	小川崎古館	おがわざきふるだて		高萩市下君田字坂の上	36.8069	140.5868	10			○		○					○			○	
0268	安良川城	あらかわじょう	塙古館	高萩市安良川字殿畑	36.7123	140.7059	17		○			○				公共施設地	○		○	○	
0269	島名城	しまなじょう	小屋古館	高萩市島名字陣小屋	36.7058	140.6924	17		○			○			○		○	○	○	○	
0270	山小屋古館	やまごやふるだて		高萩市秋山字山小屋	36.7105	140.6789	17			○		○				寺社境内地	○		○	○	
0271	丸山城	まるやまじょう	一心防山	高萩市下手綱	36.7402	140.7083	17		○			○					○	○	○	○	
0272	上宿	わじゅく		高萩市赤浜	36.7436	140.7079	17		○					○	○			○	○		
0273	弾正屋鋪	だんじょうやしき		高萩市赤浜	36.7425	140.7085	17		○			○					○	○	○	○	
0274	リウガイ古屋鋪	りゅうがいふるやしき	リウガイ遺跡	高萩市下手綱	36.7276	140.7107	17		○						○						
0275	滑川浜館	なめかわはまだて	小幡館	日立市東滑川町二丁目	36.6078	140.6757	22		○					○				○			
0276	蓼沼館	たてぬまたて	介川城	日立市助川町五丁目	36.5920	140.6405	22		○						○	公園					
0277	新城館	しんじょうたて	会瀬館（相賀館）の一部	日立市相賀町字新城	36.5818	140.6613	27	○				○			○		○	○	○		櫓台
0278	車城館	くるまじょうたて	会瀬館（相賀館）の一部	日立市会瀬町一丁目字相賀浜	36.5797	140.6576	27	○				○		○	○						
0279	大窪天神山城	おおくぼてんじんやまじょう		日立市大久保町	36.5538	140.6141	26			○		○					○	○	○		
0280	大窪城	おおくぼじょう		日立市大久保町四丁目	36.5531	140.6181	26	○				○		○	○			○	○		
0281	大窪愛宕山城	おおくぼあたごやまじょう		日立市大久保町字愛宕山	36.5512	140.6135	26			○		○				配水場	○	○	○		
0282	金沢館	かねさわたて		日立市金沢町二丁目	36.5440	140.6157	26		○			○		○	○						
0283	要害城	ようがいじょう	孫沢館	日立市国分町二丁目	36.5528	140.6429	27	○							○	企業施設地	○	○	○		
0284	大橋城	おおはしじょう		日立市大和田町字天神山	36.5135	140.5862	26		○			○					○	○	○		
0285	南高野館	みなみこうやたて	清水城	日立市南高野町二丁目	36.5055	140.6032	26	○						○	○	商業施設					
0286	久慈城	くじじょう		日立市久慈町四丁目	36.4900	140.6113	31		○			○			○		○	○			
0287	櫛形城	くしがたじょう		日立市十王町友部字八反	36.6793	140.6766	17		○			○					○	○			
0288	山尾城	やまのおじょう	山直城、山能城	日立市十王町友部字新舘	36.6747	140.6792	17		○			○				公共施設地		○			
0289	友部城	ともべじょう	古館	日立市十王町友部字古舘	36.6702	140.6827	17		○			○			○	公園	○	○			
0290	城の内台城	じょうのうちだいじょう		日立市十王町山部字小屋場	36.6859	140.6586	17			○		○					○	○			
0291	小豆洗館	あずきあらいたて		日立市鮎川町四丁目字小豆洗	36.5697	140.6439	27		○			○									
0292	塙館	はなわたて		日立市河原子町二丁目字新宿・本宿	36.5441	140.6442	27		○						○						
0293	平館	たいらたて	日野屋敷	日立市諏訪町二丁目	36.5720	140.6257	27		○						○						
0294	宮田館	みやたたて	宮田城	日立市若柴町二丁目字高松台	36.5981	140.6572	22	○							○						
0295	田尻館	たじりたて	小木津相田城	日立市田尻町三丁目字立下	36.6274	140.6751	22		○						○						

県包蔵地番号	指定	概要	発掘調査報告書番号
		本文掲載	
214-028		本文掲載	26,27,28,29,30
214-029		リュウガイ遺跡の北東に隣接。	
214-030		本文掲載	
214-031	市	本文掲載	
214-032		本文掲載（「中の館と周辺城館跡」の項）	
214-033		本文掲載（「中の館と周辺城館跡」の項）	
214-034		本文掲載（「中の館と周辺城館跡」の項）	
214-035		本文掲載（「中の館と周辺城館跡」の項）	
214-036		本文掲載	
214-037		本文掲載	31
214-038		承殿神社の背後に削り残しの大規模な土塁が残る。	
		本文掲載（「龍子山城跡」の項）	
		本文掲載（「龍子山城跡」の項）	
		本文掲載（「龍子山城跡」の項）	
		本文掲載	32
202-076		「水府志料」滑川村の項に「館跡　岩城道より東拾町余、海浜にあり。四方弐町余の地なり。小野崎山城憲道の第二子亦三郎直道、後筑後守と申せし人、延徳の頃住し、相賀浜迄兼領したりと云ふ。」とある。小野崎氏一族の介川通満の弟通本は滑川出羽守を名乗り滑川氏の祖となっている。この滑川氏の発祥地は、同氏が助川郷（日立市助川町）を本拠とする介川氏の一族であること、常陸国奥七郡内で「滑川」地名は日立市滑川町以外で見出しえないことから、滑川浜館を中心とする地域であったと考えられるので、滑川浜館跡と滑川氏には深い関わりがあったことになる。発掘調査報告書によると、中世の住居跡、掘立柱建物跡、土坑、溝、道路跡、柱穴跡が確認され、15～16世紀にかけてのものと推定されている。小幡館と別の可能性もあるが、「滑川浜館」に指定されている小字「館」と小字「小幡」は小字「清水」を挟んだ近い場所にあり、滑川浜館と小幡館は同一のものである可能性が高い。	36
202-082		『多賀郡史』によれば「佐竹の幕下なる坂上の城主、舘持」として「助川蓼沼舘主新城七郎」がいたという。『茨３』では「日立市助川町のいまの助川小学校と日製病院敷地が天文弘治（一五三二-五七）の戦国時代に、介川将監通定の居館のあった場所である。」とし、「（天保十年にできた山野辺義観の）助川城は、戦国期にあった介川城の廃絶した跡を改修したものである。」「初代の介川城主であった介川将監通定の家系は、多賀の大豪族といわれた十王町の山尾城主小野崎通綱の二男で、助三郎通定が初めてこの介川に山城を築いて住んだといわれている。」包蔵地として登録されてはいるが、遺構は近世末の助川海防城築城のために湮滅してしまったと考えられる。	
202-085		本文掲載。「水府志料」p339～40：会瀬村の項「館跡三ヶ所　一は車城と唱ふ所にあり。東西五拾四間、南北四十弐間あり。小野崎新衛門と云人の居所なりと云。或云、小野崎筑後守直道、初名は又三郎と称せし人、佐竹氏の麾下にて、永楽七十貫を領し、此所に居たりと云。新衛門と同人なるや否を知らず。又坊の上と云所に、東西三拾八間、南北五十弐間の地あり。是は矢須藤七と申者の居所と云。又新城と云所にあり。東西五拾四間、南北六拾弐間あり。高須源七と云者居たりと申伝ふ。此二人は皆新衛門の家臣也。」	
202-092		本文掲載（「新城館跡」の項）。「水府志料」会瀬村の項（新城館に同じ）。『新編ふるさと会瀬』では「国道二四五号線、鮎川方面から南高台を経て会瀬十文字の北側の丘に在った「車館」（旧鹿島神社付近）と正門橋の東で崖上の「坊の上館」、そして初崎津神社上の「新城館」、この三つの館を総称したのが「相賀の館」である。延徳年間（一四八九～一四九二）に築かれ、山尾城主の次男小野崎直通の居館であった。「車館」が地形から見て最初の館と思われる。標高約二十メートルの丘陵の南麓に急流の舟入り川があり東は海、西は狭間であり見通しもよい所だ。現在はわずかに土塁跡があるが、土塁から北の平地に本丸、二の丸が在ったのだろうか。村の鎮守の鹿島神社（権現）が土塁の東南縁にあった所以か、小字名は「権現上」である。」p64「相賀の館と地続きにある坂の上墓地に小野崎家の墓所があり、車城主藤原直道（ママ）が建立した小野崎筑後守墓がある」（『新修日立市史上』『図説日立市史』『日立の伝説続』『日立の風土』）。『日本城郭大系』p147の一覧に「２８　会瀬館（日立市会瀬町）　小野崎新衛門が居城」と記載されているが、これは車城の説明である。会瀬館という名称は、『新編常陸国誌』（p429）が「水府志料」を引用した上で、車、坊の上、新城を一まとめにして「会瀬館址」と呼称したことが初出とみられる。「会瀬館」は上記三館の総称であって、『日本城郭大系』のように車城だけを「会瀬館」と呼称するのは誤りである。現「相賀館跡遺跡」は小字名や史料上の名称によらず、「相賀館」と名付けられてしまったため、大きな誤解が生じてしまった。遺跡番号092が文献に登場する「相賀館」と同じかはなお慎重を要する。	
202-104		本文掲載（「大窪城跡と周辺城館」の項）	
202-105	市	本文掲載	
202-106		本文掲載（「大窪城跡と周辺城館」の項）	
202-108		「水府志料」金沢村の項では「館跡　金沢長助と云者居ると云。長清寺に古牌あり。樹西金石居士と題す。年月なし。何時の人なるを知らず」。『日立市史』では「金沢館には金沢長介が居館したと伝えられている。」「金沢長介については、多賀郡史によれば、天正一三年岩城親隆南侵の際、多賀の諸領主とともに破れ去ったとあるが、これは東国太平記の記事を採用したものと思われる。」「金沢に金沢長門国元という武士が居住したとの記録がある。平貞盛後胤にて先年より代々金沢に住す。治承年中度々武功あり、先祖より永楽六貫五百文を賜り代々佐竹に仕う（佐竹家軍賦）。と、これが金沢長介とどんな関係をもつかは詳かでない。」	
202-111		本文掲載	37,38,40 41
202-131		「水府志料」大橋村の項「館跡　竪四拾七間、横三拾四間、四方の堀八間。西に塚あり。三間四方。何の故を知らず。土人の説に、佐竹氏の家臣茅根弾正と云者の居所也と。今に茅根氏の民数人あり。」	
202-140		『大甕より久慈浜あたり』では「石名坂につゞいて南高野がある。佐竹幕下清水但馬の一族が住んでゐた。但馬は那珂郡足崎高野に城してゐたもので、南高野はその一族の住む所であつた。東西八十一間、南北八十六間、内外二条の溝をめぐらしてゐて、今僅かにこの俤を偲ばす土堤が所々見えてゐる」。『日立みなみ風土記』では「字城の内には城館があったといわれ、住んでいたのは清水氏とされている。」とし、佐竹義宣に仕えた清水但馬守正重の子但馬守某が「南高野城主」と記されている清水氏の系図を引用している。また、「現在この地の一部に、日立市立南高野幼稚園があるが、館の跡を偲ぶ最後の土塁も昭和５８年度の道路新設工事によって壊滅した。」という。遺構はすでに湮滅しているというが、川崎春二が調査しており、天保期の絵図もあるので、ある程度復元は可能である。『茨城の城館三』では「佐竹の被官としてこの城によった赤須雅楽之介の居館である。土地の人は清水但馬守の住んだ城といっているが、これはこの城内西崖下に清水という地名があるところから、混同したものらしい。」と清水氏城主説を否定している。	
202-157		本文掲載	
381-069		本文掲載	33,34
381-071		本文掲載	39,42
381-072		本文掲載	
381-091		本文掲載	
		『多賀郡史』に「佐竹の幕下なる坂上の城主、舘持即ち友部城主小野崎山城守、田尻舘主伊藤和泉守、小幡舘主小野崎左衛門、宮田薩埵寺舘主小野崎立鹿、助川蓼沼舘主新城七郎、相賀舘主小野崎筑後守、油縄子小豆洗舘主佐藤右馬之亮、下孫舘主（要害城）孫沢権太夫、大窪城主大久保伊賀守、金沢舘主金沢長介、久慈舘主宇佐美三九郎、大森舘主岡部五郎等・・・」とある。『油縄子学区コミュニティマップ資料集』には「小豆洗館址は鮎川町四丁目、鮎川の南岸にある。少し低くなった処に約五〇〇〇平米の平地がある。これが館のあったところと伝えられている。館主佐藤右馬亮の名がでてくるのは、天正八年（一五八〇）四月の佐竹家軍賦の山直付備事に、鮎川の間、五館主の一人としてでている。佐藤右馬亮については、佐竹家軍賦によれば、明徳元年（一三九〇）より油縄子に住し永楽銭二七貫文を賜り代々佐竹に仕う、とあるので二〇〇年近く居住していたことになる。」とするが、『茨３』では「元来鮎川口は田那辺左衛門の持場であるのに、同じ場所にいくら山屋小野崎家（ママ）といえども、佐藤という城主を住まわしたとは思われない。」「佐藤とは（行方嶋崎本系図の）坂藤馬之助の坂藤がなまって言ったのではなかろうか。」とされる。	
		『日立市史』によると「河原子の塙館には、朝日主膳正義輝がいた。朝日氏は佐竹義人に仕えて文明年間に度々武功があり、永楽三貫文を賜わって河原子に住し、明応九（一五〇〇）年三月から塙館に住したという（『佐竹家軍賦』）。」関連する小字として、館主との関連を思わせる「朝日前」「朝日後」があり、その北に「馬場ノ内」、南に「木ノ下」（城の下に通じるか）がある。	
		『諏訪散歩』p14～16：小野家住宅は「要害の山城として平安の昔より人々が住んでいた」、「西暦八九五年（寛平七年）　高望王平朝臣一門（このころ平館と称す）」、「西暦一二一九年（承久元年）　新鷺（ママ）上人、藤原氏日野有口子口このころから日野屋敷と称す」、「西暦一二四九（建長元年）藤原一門祠官藤原高利（万年太夫）」、「西暦一四二〇年（応年二七年）（ママ）佐竹一門佐竹氏（介川隼人正義通）（ママ）」、「西暦一六〇二年（慶長七年）佐竹氏支族小野丹波守義誠」。「p18「介（助）川隼人正義通が住み、佐竹義重に仕え永楽二五貫文を賜わり、代々平館に住んでいたといわれている。館主は、文明一七年（一四八五年）の岩城常隆や永禄五年（一五六二年）相馬盛胤の侵入によって滅亡した。館跡のようすは裏側の崖や東側にうかがわれる程度になってしまった」、「庭中央の祠の近くには、かって、藤田幽谷の碑と諏訪平館跡の碑が建立されていたが、或時、工事人に砕かれて採石とし使用されてしまったという」。県指定文化財「小野家住宅」（建造物第四八号）の敷地が平館跡でもあり、『諏訪散歩』p16に見取り図が掲載されている。『ふるさと諏訪』p95だと、介川義通が平館（こちらの読みは「ひら」）を築いたことになっている。	
		『日立の風土』p11「宮田の城は宮田川と橋場川の落ち合う、天王町から日立一高へ行く橋の西側がそれである。国司、郡司時代、すなわち奈良、平安朝時代の国司であり、後の郡司であった藤原南家武智麻呂の子、巨勢麻呂、その子豊麻呂が京都へ赴任して多賀の守護職となって、ここに館を構えて住んでいて、姓を宮田と称したのである。従って、この宮田の館は、攻防を主とした城郭ではなく、居館としての小規模な城館である。宮田川と橋場川の深い断崖が、東と南北を守っていて、大手口が東京電力側で、西側は桐木田と称している低い昔の沼地が天然の要害をなしている。いまは僅かに天理教会の東側と、大窪喜太郎氏宅前に空濠の跡が残っている。」。『茨城の古城』p206：「城跡は、日立市のほぼ中心である日立一高の南側の高松台が本郭で、天理教会辺りは二の郭、飯村電線辺りは三の郭という。橋場川と宮田川に挟まれた合流点となっているだけに、要害堅固な高台の山城である。この城の築城年代と城主については詳かではないが、鎌倉末、建武中興の時代（一三三四～　）に築城されたという。初代城主は、宮田三河介通好という豪族（応永六年死）で、その祖は、藤原巨勢麿といわれ、その叔父の黒麿が常陸の国司となって来た時、これに随行、国庁の役人となり、やがて藤原家が衰え、武家政治となってからも、神領の領家となり、大洗磯前神社の神領田なども宰領した。建武中興以降も、宮田氏は他の豪族と同様に佐竹の被官となり、四代百余年栄えた。しかし、城は佐竹の秋田移封前に廃城になった。」。『日本城郭全集３』：「城址は高台にあり、現在は宮田川の断崖と塁、堀の一部を残すだけである。」。	
		『日高郷土誌』p118「田尻館　現在田尻宿と田尻浜との中間である鉄道線路附近にある。応永の頃佐竹氏の被官相田藤八郎の居館と伝えている。今に其の跡を明瞭にとどめて小松山となっている。」 同p12-13「現在相田の台から指呼の所田尻の宿と、浜との中間の山岳で中央を鉄道線路に横断された北東側前方を「タテ下」と呼んでいる。東方は大手で小じんまりした要害地で北側の搦手の谷あい、丁度左手の五本の指の四本をにぎって、親指を右に開いたような地形である、南側は深い断崖でどうしても寄せ手が攻め入るとすれば北と東とである。道端の塚阜は物見の丘で、攻防の利を助けるために築かれたもの（中略）主将の籠る本部を人呼びの丘と呼んで、側面と正面の敵の防備を厳重にしたのである。後方の裏山が割合に簡単なのは、裏手から攻め入る寄せ手を予想しない大将の拠点として（中略）」「（築城時期は）その構築から見て年代は少くとも、正平、文和の頃と推定できる。『多賀郡史』p52「佐竹の幕下なる坂上の城主、舘持」「田尻舘主伊藤和泉守」。	

No.	名称	ふりがな	別称	所在地	座標		地図番号	立地				現況					残存遺構				
					北緯	東経		平地	丘陵台地	山地	その他	山林	水田	畑地	宅地	その他	曲輪	堀	土塁	切岸	その他
0296	入四間館	いりしけんやかた		日立市入四間町字竹ノ内	36.6436	140.5731	21			○		○					○	○			
0297	坊の上館	ぼうのうえたて	会瀬館（相賀館）の一部	日立市相賀町	36.5813	140.6589	27		○						○						
0298	要害山城	ようがいさんじょう		日立市城南町・助川町の境（小字要害）	36.5901	140.6339	22			○		○						○			
0299	高原妙見館	たかはらみょうけんやかた		日立市十王町高原	36.6768	140.6200	16			○		○				寺社境内地	○		○		
0300	水瀬愛宕館	みつせあたごやかた		日立市東河内町	36.6258	140.5376	21			○		○				寺社境内地	○	○			
0301	真崎城	まさきじょう	天神山城	東海村村松字舘岸	36.4485	140.5916	31		○			○		○			○	○	○		土橋
0302	石神城	いしがみじょう		東海村石神内宿字本城	36.4827	140.5781	31		○			○			○	公共施設敷地	○	○	○		虎口
0303	白方城	しらかたじょう		東海村白方	36.4696	140.5954	31		○						○	寺社境内地			○		
0304	照沼氏館	てるぬましやかた	照沼蔵人館	東海村照沼	36.4356	140.5973	31		○							企業敷地					
0305	奥山館	おくやまやかた	奥山城、足崎地頭館	ひたちなか市足崎字北根	36.4257	140.5698	31		○			○							○		
0306	多良崎城	たらさきじょう	多良崎要害、多良崎館、足崎城	ひたちなか市足崎字館	36.4324	140.5723	31		○	○		○				公共施設地	○	○	○	○	物見櫓
0307	清水館	しみずやかた	清水城、源衛門屋敷	ひたちなか市高野字富士山	36.4289	140.5553	31	○				○		○				○	○		
0308	勝倉城	かつくらじょう	勝倉館	ひたちなか市勝倉字富士山	36.3775	140.5246	37		○							公共施設地			○		物見塚
0309	小山城	こやまじょう	小山館	ひたちなか市高野字塙	36.4277	140.5606	31		○			○					○	○	○		
0310	中根城	なかねじょう		ひたちなか市中根字中城	36.3775	140.5560	37		○			○		○	○		○	○	○		薬研堀
0311	勝倉台館	かつくらだいやかた		ひたちなか市勝倉字地蔵根	36.3762	140.5305	37	○				○		○							
0312	武田館	たけだやかた		ひたちなか市武田字石高	36.3808	140.5190	37		○					○							
0313	堀口館	ほりぐちやかた		ひたちなか市堀口字表坪	36.3882	140.5124	37		○			○		○	○			○			
0314	市毛館	いちげやかた		ひたちなか市市毛字上坪	36.3932	140.5031	37		○					○	○	寺社境内地					
0315	天神山館	てんじんやまやかた		ひたちなか市津田字天神山	36.4008	140.4890	36		○						○						
0316	大山館	おおやまやかた		ひたちなか市馬渡字後谷津	36.3974	140.5657	37		○						○	工場敷地					
0317	藤佐久館	ふじさくやかた		ひたちなか市田彦字寄居新田	36.4248	140.5145	31		○						○	工場敷地			○		
0318	新地館	あらちやかた	天道山	ひたちなか市佐和字新地	36.4453	140.5250	31		○		谷頭	○		○					○		井戸跡
0319	篠根沢館	しのねさわやかた		ひたちなか市佐和字篠根沢	36.4487	140.5336	31		○				○			工場敷地			○		
0320	雄害城	ゆうがいじょう	要害城、雄外城	ひたちなか市佐和字篠根沢	36.4457	140.5401	31		○			○		○				○	○		井戸
0321	内城	うちしろ		ひたちなか市高野字内城	36.4329	140.5637	31		○					○		墓地		○	○		薬研堀
0322	金上城	かねあげじょう	金上館	ひたちなか市金上字登城	36.3697	140.5377	37		○			○		○		寺社境内地		○	○		
0323	枝川城	えだかわじょう	枝川館	ひたちなか市枝川	36.3824	140.4923	36	○							○						
0324	菊池隼人館	きくちはやとやかた	新平館	ひたちなか市三反田字小山	36.3663	140.5514	37		○					○	○						
0325	深茂内館	ふかもうちやかた		ひたちなか市足崎字深茂内	36.4230	140.5665	31	○				○		○	○	寺社境内地		○	○		
0326	甚兵衛屋敷	じんべえやしき		ひたちなか市足崎字北根	36.4268	140.5663	31		○					○				○	○		井戸
0327	大夫屋敷	だいぶやしき		ひたちなか市高場四丁目字上高場	36.4295	140.5354	31	○						○			○	○	○		井戸
0328	清水館西館	しみずやかたにしやかた	清水西城	ひたちなか市高野字荒谷	36.4310	140.5515	31	○				○		○			○	○	○		
0329	鹿志村館	かしむらやかた		ひたちなか市稲田字圓明	36.4333	140.5304	31		○			○		○							
0330	稲田館	いなだやかた		ひたちなか市稲田字西坪	36.4366	140.5236	31		○			○		○							
0331	東原館	ひがしはらやかた		ひたちなか市高野字東原	36.4346	140.5529	31		○			○		○							
0332	富士ノ上館	ふじのうえやかた		ひたちなか市富士ノ上	36.3457	140.5966	37		○							寺社境内地			○		
0333	尼ヶ祢館	あまがねやかた	尼ヶ祢遺跡	ひたちなか市部田野字尼ヶ祢	36.3647	140.5778	37		○			○		○				○		○	
0334	館山城	たてやまじょう		ひたちなか市館山	36.3500	140.5881	37		○							寺社境内地			○	○	
0335	館出遺跡	たてだしいせき		ひたちなか市中根	36.3695	140.5669	37		○					○		寺社境内地					
0336	石塚城	いしつかじょう		城里町石塚	36.4867	140.3766	30		○			○		○	○		○	○	○		
0337	那珂西城	なかさいじょう		城里町那珂西字海道東	36.4580	140.4088	30		○			○		○	○	寺社境内地	○	○	○		
0338	八幡館	はちまんやかた		城里町春園字仲野田	36.4870	140.3507	29		○					○	○				○		
0339	作内館	さくうちやかた	御館山	城里町那珂西字作内	36.4666	140.3905	30		○						○						
0340	勝見沢館	かつみさわやかた		城里町勝見沢字小場谷津	36.4609	140.3494	29		○			○				ゴルフ場					
0341	越後館	えちごやかた		城里町小坂字越後	36.4727	140.3454	29		○			○					○	○	○		
0342	龍崖城	りゅうがいじょう	上入野城　入野城	城里町上入野字滝ケ谷	36.4376	140.3608	29			○		○					○	○	○		
0343	大山城	おおやまじょう		城里町阿波山字古城	36.5142	140.3631	24		○			○		○	○		○	○	○		
0344	高久館	たかくやかた	八幡館	城里町高久字館	36.4924	140.3617	29					○		○		墓地	○	○	○		
0345	下圷館	しもあくつやかた	樫山	城里町下圷字堀ノ内	36.4944	140.3810	30	○				○			○	墓地	○	○	○		
0346	平治館	へいじやかた		城里町北方字這坂前	36.5039	140.3654	24		○			○		○		墓地	○		○		
0347	孫根城	まごねじょう		城里町孫根字御城	36.5119	140.3466	24		○			○		○	○	墓地	○	○	○		
0348	御前山城	ごぜんやまじょう		城里町御前山字皇都	36.5434	140.3289	24			○		○				墓地	○	○	○		
0349	二反田城	にたんだじょう		城里町小勝字二反田	36.4679	140.2780	29			○		○				墓地		○			
0350	荻原屋敷遺跡	おぎわらやしきいせき	荻原長者屋敷	城里町徳蔵字岩ノ入	36.4527	140.2547	29		○							公共施設地		○	○		土橋
0351	四方とや城	しぼうとやじょう		城里町小勝字高田	36.4670	140.2820	29		○					○		公共施設地	○				
0352	戸倉館	とくらやかた		城里町徳蔵字西沢	36.4558	140.2495	28		○			○				公共施設地 寺社境内地		○	○		

県包蔵地番号	指定	概要	発掘調査報告書番号
		本文掲載	
		本文掲載（「新城館跡」の項）。「水府志料」会瀬村の項（新城館に同じ）。『新編ふるさと会瀬』p63（車の説明の続き）「その東北にある絶壁の上が「坊の上」館である。現在の会瀬青少年の家や会瀬交流センター西の崖上であるが遺構はない。海岸への急坂は「かんしょの坂」と今でもいわれており、由来については監視所が在った坂の説もあるが、海の監視は時代的に不自然である。同じ場所の小字名は「木の内」であり「城の内」と同語であることから、この一帯は「車の館」の敷地内と考えられる。ここに館主小野崎直通の閑居（隠居と同義）が在ったとすると、閑居に通じる坂（かんきょの坂）が「かんしょの坂」に変化したのではないかと推察される。	
		本文掲載	
		本文掲載	
		本文掲載	
341-030		築城は、佐竹氏の５代義重の三男義澄の子義連と言われ、この地名をとり、真崎氏を名乗ったとされる。現在は干拓により水田へ姿を変えているが、城があった当時は細浦と真崎浦に囲まれた、あたり一面を水に囲まれていた城だった。慶長７年（１６０２）、真崎氏は佐竹氏とともに秋田に移り、廃城となった。２０１７年度に当時茨城大学大学院生であった須貝氏を中心に縄張調査を行った。それらの成果を含め、真崎氏・真崎城に関する論文を、今年度東海村で発行する紀要に掲載予定。	
341-106	県	作られた時期は諸説あるが，永享４年（１４３２）足利持氏感状に「常州石上城合戦」とあるため，この時期には作られていたと思われる。城主は石神小野崎氏である。天文１５年（１５４６）頃，額田小野崎氏との間で合戦になり，その結果石神小野崎氏は敗北し，城から退去した。しかしその後，佐竹氏への戦功により領地の維持と帰城が認められる。慶長７年（１６０２）佐竹氏の秋田移封に従ってこの地を去り，廃城になった。	43,44,45
		平安時代末期頃、白方の地には、常陸平氏吉田広幹の次男である興幹（白方次郎）が配置された。この吉田興幹の館は現在の豊受皇大神宮の境内地にあったとされ、今でも社殿の周囲に高さ約３ｍの土塁が残っている。	46,47
		照沼蔵人という者の館と伝わる。茨城東病院の南東にある「三国屋建設」の地が館址。北東方向に突き出た尾根状台地であったが、台地が削平され湮滅している。	
221-049		本文掲載	
221-055	市	本文掲載	
221-060		本文掲載	
221-082		本文掲載	55
221-087		本文掲載	
221-098		本文掲載	
221-123		吉田俊幹（勝倉四郎）が構えた館である。永禄年間の城主は飯島七郎とされる。	
221-127		吉田勝盛（武田七郎）により築城された。発掘調査実施済み。現在は土砂採取により，ほぼ湮滅している。	49,50,51 52,57
221-128		鎌倉時代～南北朝時代において、吉田盛家（堀口八郎）により築城された。堀口という地名はムナセ堀の「堀口」にあたるところから名付けられた。	54,61
221-132		鎌倉時代～南北朝時代において、吉田茂幹（市毛六郎）により築城された。かつては、市毛溜があり、ため池の東側に位置していたようだが、　昭和37～38にかけての筑波台団地造成のため埋められた。	59,60,62
221-138		詳細は不明だが、江戸氏に属した館と考えられる。天神山南側の地「立下」は「館下」の当て字と思われる。付近に若宮という五輪塔が並ぶ中世の墓地があった。戦国時代の五輪塔とされ、天神館の土豪の墓地にたてられたものと考えられる。若宮の崖縁あたりからは五輪塔の空、風輪が出土するらしい。現在は団地造成のため、湮滅している。	
221-150		来歴不明。伝説として、大山四郎左衛門の居宅であり、八幡太郎義家が奥州征伐のさいに宿泊したとされている。通称大山とよばれる馬渡の字西向野に存在していたとされる。かつてはクヌギ林があり、開墾の際には大量の土器が出土したらしい。また、台地の先端部付近からは金くそが大量に出土している。方形単郭の館跡。現在は整地されているため、湮滅している。	53
221-166		鎌倉時代初期に吉田為幹（藤佐久五郎）が構えた館と考えられる。寄居団地の敷地内にあったとされるが、東側にあった湧水と溜池は昭和41、42年の寄居団地造成により破壊され、館跡も同道路に沿ってわずかに土塁が残っているにすぎない。方形に土塁をめぐらした内郭（二重の土塁）と、その周囲に大きく方形に土塁をまわした複郭方形館であったとされる。	
221-168		来歴不明。おそらく室町時代のものと考えられる。複郭の館跡である。低い土塁をめぐらす土壇状の突き出しが二つある。内一つに宝篋印塔がある。かつては、沢下宿の人々によって、宝篋印塔のまわりを真言をとなえてまわる天道念仏が行われていたらしい。	
221-169		本文掲載	
221-170		本文掲載	
221-173		来歴不明。室町時代の明応6年（1497）（南側にあった青龍寺が建立される前）以前に築城されたと考えられる。遺構の形からは、南北朝時代のものとうかがえる。高野共同墓地の北側に突き出た標高19ｍほどの立ち先端を内城とよぶ。現在は平坦な畑になっている。「内城」という小字が残ることから、確認された土塁や堀といった遺構は城館跡に関連するものと考えられる。1977年11月教育委員会により発掘調査を実施。薬研堀、両端が曲尺手に構築された堀が確認された。内耳土器、陶器、すり鉢が出土している。	48
221-272		本文掲載	
221-275		本文掲載	
221-276		天正のころ菊池隼人（江戸但馬守に仕えていた菊池内膳の子）が居住していたとされる。鎌倉時代初期に常陸大掾一族の新平氏が、新平溜の北側の小山とよばれる地に構えた館の跡に築いたものであろう。かつては方形単郭に土塁をめぐらした館跡があったが、現在は整地作業のため湮滅した。包蔵地名は「新平館跡」。	
221-277		本文掲載	
221-278		来歴不明。有力農民の屋敷跡とされる。土塁状の草むらから小花文の刻印のある甕やすり鉢などが出土している。屋敷跡西側の谷には、井戸跡がある。	
221-279		神主の居館であった。南北朝時代から室町時代において、高場は村松明神の神領となっていた頃に当屋敷を構えたとされる。永禄5年（1562）に江戸但馬守が当屋敷の近くに八幡宮を建立した際、村松明神の神領が押領され、神職の寧の太夫も村松に引き上げていったものと思われる。一部湮滅している。西隣の地には、神田前東、神田前西、神田屋敷、神田跡などの小字が残る。神田とは、村松明神の神田をさす。	
221-280		清水城の約500m西方の県道をこえた字荒谷に位置する。「西の郭」ともよばれる。この地は「二軒屋」ともよばれる。	
221-281		来歴不明。土塁状の高まりが残る。	
221-282		来歴不明。	
221-322		来歴不明。「東原遺跡」として発掘調査されているが、城館に関連する遺構は確認されていない。	
221-323		来歴不明。櫃原神宮境内に所在。城館に関連する遺構が土塁以外存在しないことから、城館とする根拠は少ない。	
221-324		本文掲載	
		本文掲載	
		931～973年（承平年間）に浄光寺を城塞化し、小泉重幹が城主となった。1400年頃には江戸但馬守の家臣である館右京亮が、佐竹氏の時代には田中刑部が居住していたとされる。方形の館があったが、戦後の農地開発で失われた。中根城に係る館と思われる旨の記載あり。縄文時代の館出遺跡、笠谷古墳群と重複。	
306-003		本文掲載	65,66,67
306-007	県	本文掲載	
306-029		本文掲載	
306-040		伝承では作内丹波守が居館という。「水府志料」では作内丹波という刀鍛冶の有し所とする。『茨城県地名大事典』には戦国期に作内氏広の「作内館」があったとする。宅地開発により湮滅	
306-041		本文掲載	
306-042		本文掲載	
306-056		本文掲載	
307-009	町	本文掲載	
307-011	町	本文掲載	64
307-016	町	本文掲載	
307-017	町	『桂村の文化財』によると、南北朝時代の正慶元年（１３３２）当地方を治ていた常陸大掾高幹のとき、佐貫氏がはじめて築き、のち一族の穂高平治が居住したことからヘイジ（平氏）館といわれたという。（『桂村史』）	
307-018	町	本文掲載	
307-020		本文掲載	
323-002		本文掲載	
323-003		本文掲載	
323-006		来歴、時代不明。原野，一部畑地に利用。俗称の四方山から方形の館跡の可能性あり。（『七会村の歴史』）	
323-007		本文掲載	63

No.	名称	ふりがな	別称	所在地	座標		地図番号	立地				現況					残存遺構				
					北緯	東経		平地	丘陵台地	山地	その他	山林	水田	畑地	宅地	その他	曲輪	堀	土塁	切岸	その他
0353	阿波山堀ノ内館	あわやまほりのうちやかた		城里町阿波山字堀ノ内	36.5169	140.3675	24	○							○			○	○		
0354	穴沢館	あなさわたて	阿野沢館	城里町上阿野沢字堀之内	36.5332	140.3485	24	○						○	○			○	○		
0355	古内城	ふるうちじょう		城里町下古内	36.4519	140.3317	29			○		○						○			
0356	笠間城	かさまじょう	桂城	笠間市笠間字城山	36.3826	140.2660	35			○		○				公園 寺社境内地	○	○	○	○	石垣
0357	麓城	ふもとじょう		笠間市笠間字新町	36.3880	140.2545	35	○							○	寺社境内地		○	○		
0358	飯田城	いいだじょう		笠間市飯田字御城	36.4152	140.2691	35			○		○					○	○	○		
0359	本戸城	もとどじょう	本殿城　田利城	笠間市本戸字御城	36.3603	140.2164	34			○		○					○	○	○		
0360	福原城	ふくはらじょう	福原館	笠間市福原字堀ノ内	36.3524	140.1851	34	○				○						○	○		井戸
0361	岡ノ宿城	おかのしゅくじょう	岡の宿館　　大橋城	笠間市大橋字裏山	36.4228	140.3174	29			○		○					○	○	○		
0362	上加賀田城	かみかがたじょう		笠間市上加賀田字御城	36.3403	140.2661	35			○		○					○	○	○		
0363	金井前東館	かないまえひがしたて		笠間市金井字金井前	36.3982	140.2592	35			○					○			○	○		虎口
0364	福田館	ふくだたて		笠間市福田字寄居	36.4106	140.2847	35	○								寺社境内地		○	○		
0365	大淵館	おおぶちたて		笠間市大淵字堀ノ内	36.3995	140.2645	35		○					○				○	○		
0366	飯岡館	いいおかたて		笠間市飯合字打手248	36.3816	140.2253	34			○		○						○	○		
0367	稲田城	いなだじょう	稲田館	笠間市稲田字表	36.3654	140.2038	34	○		○		○			○			○	○		
0368	下市毛館	しもいちげたて	竹ノ内遺跡	笠間氏下市毛字竹ノ内	36.3696	140.2480	34	○							○	雑種地		○			
0369	金井前西館	かないまえにしたて		笠間市金井	36.3970	140.2578	35	○							○			○	○		
0370	市原城	いちはらじょう	市原館	笠間市下市原	36.3691	140.2989	35	○				○		○							
0371	小原城	おばらじょう		笠間市小原	36.3617	140.3226	35	○						○	○	寺社境内地	○	○	○		
0372	宍戸城	ししどじょう		笠間市平町	36.3424	140.2889	35	○					○	○	○	寺社境内地	○	○	○		
0373	古館	ふるだて		笠間市橋爪	36.3423	140.2926	35	○					○	○	○						
0374	佐藤氏館	さとうしやかた	佐渡屋敷	笠間市大古山	36.3179	140.2897	42	○				○						○	○		
0375	住吉城	すみよしじょう	住吉館	笠間市住吉	36.3135	140.3227	42	○						○	○				○		
0376	湯崎城	ゆざきじょう	湯崎住吉城	笠間市湯崎	36.3038	140.3234	42	○				○		○			○	○	○		
0377	長兎路城	ながとろじょう		笠間市長兎路	36.3024	140.3338	42		○			○				墓地		○	○		
0378	下安居堀之内館	しもあごほりのうちやかた	安居堀之内館	笠間市安居字宿	36.2910	140.3447	42	○				○			○			○	○		
0379	泉古市館	いずみふるいちたて	古市城	笠間市泉字古市	36.2890	140.2775	42	○				○			○			○	○		
0380	花園館	はなぞのたて	花園館跡群	笠間市上郷字花園	36.3102	140.2651	42		○			○			○			○	○		
0381	泉城	いずみじょう		笠間市泉字山本	36.2783	140.2550	42		○			○						○	○		
0382	難台山城	なんだいさんじょう		笠間市上郷字難台	36.3045	140.2224	41			○		○									
0383	館岸城	たてぎしじょう		笠間市上郷字館岸	36.3138	140.2500	41			○		○					○	○	○	○	
0384	石井館	いしいたて		笠間市石井字竹山	36.3852	140.2374	34		○							公共施設地		○			
0385	山尾館	やまおたて		笠間市平町	36.3427	140.2842	35	○						○	○				○		
0386	住吉堀ノ内	すみよしほりのうち		笠間市住吉堀の内	36.3131	140.3264	42	○				○			○				○		
0387	長峰城	ながみねじょう		笠間市矢野下字長峰	36.3296	140.2988	42	○						○					○		
0388	下郷館	しもごうたて		笠間市下郷	36.2981	140.2749	42	○							○			○	○		
0389	長者山城	ちょうじゃやまじょう	渡里の長者屋敷、一盛長者伝説地	水戸市渡里町長者山	36.4124	140.4335	36		○			○		○		雑種地	○	○	○		
0390	吉田城	よしだじょう		水戸市元吉田町	36.3575	140.4896	36		○			○		○	○	寺社境内地	○	○	○		
0391	河和田城	かわわだじょう		水戸市河和田町	36.3676	140.4142	36	○				○	○	○	○	公共施設地	○	○	○		
0392	武熊城	たけくまじょう	武熊館、武熊故城	水戸市東台一丁目	36.3668	140.4927	36	○							○	公共施設地					
0393	加倉井館	かくらいやかた		水戸市加倉井町	36.3913	140.3773	36	○				○		○	○	寺社境内地		○	○		
0394	神生館	かのうやかた	大部城、神生遠江守館、神生長塁	水戸市飯富町塙	36.4377	140.4072	30		○			○		○	○			○	○		
0395	平須館	ひらすやかた		水戸市平須町山中	36.3176	140.4261	43	○						○		寺社境内地		○	○		
0396	水戸城	みとじょう	馬場城、馬場館	水戸市三の丸一丁目～三丁目	36.3734	140.4805	36		○						○	公共施設地	○	○	○		
0397	見川城	みがわじょう	春秋氏館	水戸市見川三丁目	36.3678	140.4437	36		○			○			○	寺社境内地	○	○	○		
0398	川又館	かわまたやかた		水戸市川又町字篠平	36.3348	140.5709	37	○					○			公共施設地					
0399	椿山館	つばきやまやかた		水戸市東前町字金山	36.3399	140.5321	37	○				○				工場敷地			○		
0400	和平館	わへいやかた		水戸市栗崎町字和平	36.3433	140.5226	37	○						○		寺社境内地					
0401	加倉井忠光館	かくらいただみつやかた		水戸市成沢町堀ノ内	36.4325	140.3985	30	○				○			○				○		
0402	大部平太郎屋敷	おおぶへいたろうやしき	飯富長塁	水戸市成沢町小田倉～飯富町台坪	36.4268	140.4097	30	○				○		○	○			○	○		
0403	白石遺跡	しらいしいせき	田谷白石台城	水戸市田谷町白石	36.4282	140.4580	30	○				○		○		公共施設地					
0404	中河内館	なかがちやかた	宍戸館	水戸市中河内町中坪	36.4057	140.4571	36	○							○				○		
0405	伊豆屋敷	いずやしき		水戸市栗崎町	36.3462	140.5164	37	○						○		墓地					
0406	大串原館	おおくしはらやかた		水戸市大串町字原	36.3382	140.5327	37	○				○		○				○	○		
0407	久保山館	くぼやまやかた		水戸市森戸町字久保山、塙	36.3199	140.5147	44		○			○				寺社境内地		○	○		
0408	堀の内館	ほりのうちやかた	城ノ内館	水戸市鯉淵町字一ノ割	36.3494	140.3719	35		○							寺社境内地		○	○		
0409	鯉淵城	こいぶちじょう		水戸市鯉淵町根古屋	36.3475	140.3744	35	○				○		○	○	寺社境内地		○	○		
0410	田島城	たじまじょう		水戸市田島町字柊巷	36.3962	140.3700	35		○						○	雑種地					
0411	大足城	おおだらじょう		水戸市大足町字大城	36.3854	140.3654	35	○						○					○		
0412	塚原城	つかはらじょう		水戸市有賀町字塚原	36.3915	140.3520	35	○				○		○	○						
0413	中原館	なかはらやかた		水戸市中原町字喜多	36.3839	140.3570	35	○						○					○		
0414	江川館	えがわやかた	荏原城、荏柄城	水戸市内原町	36.3674	140.3635	35	○						○	○						
0415	赤尾関館	あこうぜきやかた	赤尾関城	水戸市赤尾関町字上宿	36.3651	140.3722	35	○						○	○			○	○		
0416	三湯館	みゆやかた	湯網城	水戸市三湯町字宮前	36.3732	140.3437	35	○				○				寺社境内地		○	○		
0417	高田館	たかだやかた	舘脇館	水戸市高田町字舘脇	36.3330	140.3980	43	○						○	○				○		
0418	小林館	こばやしやかた		水戸市小林町字堀ノ内	36.3615	140.3476	35	○				○			○			○			
0419	大鋸町遺跡	おがまちいせき		水戸市元吉田町	36.3556	140.4830	36		○					○	○						
0420	遠台遺跡	とおのだいいせき		水戸市中原町	36.3848	140.3515	35	○				○		○	○						
0421	寺内遺跡	てらうちいせき	大足館	水戸市大足町字寺内	36.3881	140.3662	35	○				○				寺社境内地			○		

県包蔵地番号	指定	概要	発掘調査報告書番号
		堀ノ内の地名残る。航空写真から50mほどの区画が館跡のように見える。東側に水堀跡らしきもの、低い土塁も残る。地名から城館があったことは間違いない。（余湖氏HP要約）	
		川野辺氏か。『御前山郷土誌』にある記載によると、川野辺次郎の子である某が、佐竹氏に降って、野口城の出丸から穴沢に移ったという。この穴沢がこの阿野沢の事を指すのであれば、川野辺氏が城主となるかもしれない。ただし、この『御前山郷土誌』の記述については不明な点があり、川野辺資明の子である基通は延元元年(1336)に那珂通辰にしたがって独り松峰で戦死したとあり、川野辺次郎は吉野で戦死したとある。この次郎は資明と同一人物なのか、別人物なのかははっきりしない。	
		本文掲載	
216-021	市	本文掲載	70
216-042		本文掲載	
216-043		本文掲載	76
216-044		本文掲載	
216-045		宇都宮一門笠間氏族である福原氏の居城。築城年代については、不明であるが、南北朝期から戦国期まで機能していたと推測される。福原氏は、福原字関戸にある曹洞宗源慶院は、弘治2年(1556)に福原城主福原善九郎が堂宇を建立したとあり、熊野山願文には、明徳2年(1391)に笠間郡住人福原常陸介朝宗という名が見える(『新編常陸国史』)（『笠間市史　上巻』より）。宅地化等の影響により、城跡の詳細を示すのは困難である。御城、館下、堀の内の地名あり。	
216-046	市	小宮山楓軒「水府史料」には、「古館　りうがいと呼ぶ　外岡美濃守といふもの居しという」とあることから、江戸氏家臣の外岡氏が関連している城郭である。築城年代については不明。館の前、中内、古館、要害の地名あり。	
216-047		本文掲載	
216-048		本文掲載	
216-070		城主として伝わっている福田氏は、「秋田家諸士文書」の「福田氏系図」によると、下野国芳賀出身であり、鎌倉時代末頃に笠間に住し、福田氏を名乗った。境内地に堀などの遺構がみられ、城郭として考えられるが、全体としては不明な点も多い。寄居、寄居前の地名あり。	
216-089		築城年代、城主ともに不明。『笠間市遺跡分布調査報告書』では、土塁の存在が報告されているが、全体像については不明な点が多い。堀の内の地名あり。	
216-093		築城年代、城主については不明。土塁と堀が残存しているといわれている。打出の地名あり。	
216-114		稲田館跡は稲田頼重からはじまる稲田氏の居城である。西念寺所蔵絵図の中に「稲田館」の表記がみられる。明確な築城年代については不明。堀の内の地名あり。	
216-120		築城年代は古代末から中世初期と推定している。方形館をしているようだが、詳細については不明。館が転訛して竹となったことから、竹ノ内遺跡がそれに該当するのではないかとしている。館の内、表の地名あり。	
216-170		本文掲載	
214-008		本文掲載	
214-020	市	本文掲載	74,75
214-042	市	本文掲載	71,72
214-043		本文掲載	
214-062		本文掲載	
214-070		本文掲載	
214-084	市	本文掲載	
214-085		本文掲載	
322-066		本文掲載	
322-099		本文掲載	
322-165		築城年代、城主の伝承は不詳。所々に土塁と堀が残存している。河岸段丘から低地に向かう傾斜地に位置していることから、防御を主眼においている構えではないとし、近世初期の上層農民の屋敷構えの跡であると推測している(『岩間町史』)。周知の埋蔵文化財包蔵地「花園古墳群」も同範囲に位置している。	
322-167		本文掲載	
322-168	県	本文掲載	
322-169	市	本文掲載	
		築城年代については不明。『大日本国誌』によると、旧笠間市役所の台地を字竹山と呼び、安藤氏館と伝えている。『笠間城記』によると、笠間時朝による笠間侵攻の際に、石井邑に軍営を置いたという。 旧市役所南側のスロープ建設時の試掘調査によって、溝跡の存在が確認され、計画道路建設時には、切り土した法面に、溝跡の断面をみることができた。	
		本文掲載	
		本文掲載	
		詳細な築城年代については不明であるが、「藤姓中里系図」によると、横田綱俊の三男綱利が永享12年（1440）の結城合戦で武功を挙げたことから、将軍義教より宍戸の長峰に領地を構え、居住したとある（『友部町史』）。地名として、駒形、窪、館端、源平蔵、宝蔵が残る。	73
		具体的な築城年代については不明。在地領主の館もしくは、戦国期の臨時的な陣所であるとの推測がされている(『岩間町史』)。明治の「迅速図」には、土塁が記載されている。	
201-100		本文掲載	78,79,80
201-101		本文掲載	77
201-102		本文掲載	80,81
201-103		本文掲載	
201-104		本文掲載	
201-105		本文掲載	
201-158		大掾氏一族の矢田部大蔵大夫の居館とされる。天正18(1590)年の佐竹氏侵攻により、平須館の城主も佐竹氏と戦い、討ち死にを遂げたいう。	
201-172	県市	本文掲載	83,84,85 86,87,88
201-173		本文掲載	
201-200		来歴不明。周知の埋蔵文化財包蔵地の名称は「仲東遺跡」(201-200)	
201-201		来歴不明。	
201-202		愛宕山古墳を含むこの辺り一帯には、中世和平の館があったと伝えられる。現在、館跡を示す明確な遺構はないが、北面東面ともに崖になった要害地となっており、昔は抜け穴もあったという。山林中には一部土塁が残され往時をわずかに偲ばせる。なお、東面崖下には種子田（タネダ）と呼ばれる泉があり、当時の生活用水であったと思われる。（石柱解説文）	
201-207		本文掲載	89,90
201-208		本文掲載	
201-225		本文掲載	91
201-232		本文掲載	
201-251		本文掲載	
201-261		本文掲載	
201-268		本文掲載	
305-045		鯉淵城との関連性が指摘されている。国指定建造物「中崎家住宅」外周に存する。	
305-046		本文掲載	
305-055		隠井豊後守が城主という（『内原町史』より）。	93
305-056		本文掲載	92
305-057		有賀神社の由来には「当国鹿島の城主、鹿島氏の臣小峯小四郎という者当村塚原という地に居館する。世に塚原四郎という。天正18(1590)年、佐竹氏のために陥落する。」とある。（『内原町史』より）	
305-058		天正末期の江戸氏支城砦の一つで『新編常陸国誌』によると館主は国井善之輔となっている。（『内原町史』より）	
305-059		本文掲載	
305-060		本文掲載	
305-061		本文掲載	
305-189		「館主は大高氏と考えられ，中世時代那珂族の一人で茨城町馬渡付近から舘脇館に移り，佐竹氏の家臣として当地域を支配した豪族とみられる。」（『内原町史』より）	
305-190		本文掲載	
201-011		本文掲載	
305-002		本文掲載	
305-071		安国寺境内に土塁が遺存する。寺内遺跡第２地点（平成20年度試掘調査）において、中世の堀跡が検出された（水戸市教委2011）。	

No.	名称	ふりがな	別称	所在地	座標		地図番号	立地				現況					残存遺構				
					北緯	東経		平地	丘陵台地	山地	その他	山林	水田	畑地	宅地	その他	曲輪	堀	土塁	切岸	その他
0422	全隈城	またぐまじょう		水戸市全隈町字寺山、馬場	36.4183	140.3802	30		○			○					○		○		
0423	有賀北館	ありがきたやかた		水戸市有賀町	36.3950	140.3542	35		○			○		○			○	○	○	○	
0424	御局屋敷	おつぼねやしき		水戸市藤井町字小坪、堀の内、堀の外	36.4410	140.4057	30	○				○			○			○	○		
0425	田谷城	たやじょう		水戸市田谷町字外城、宿	36.4215	140.4442	30	○						○	○			○	○		
0426	安川城	あがわじょう	国井城	水戸市上国井町	36.4462	140.4366	30		○					○							
0427	平戸館	ひらとやかた	平戸氏旧宅	水戸市平戸町字大道添	36.3249	140.5593	44	○								寺社境内地		○	○		
0428	森戸館	もりとやかた		水戸市森戸町	36.3199	140.5161	44	○								太陽光発電					
0429	有賀城	ありがじょう		水戸市有賀町字宿	36.3878	140.3569	35	○						○				○			
0430	大平豊後守館	おおひらぶんごのかみやかた	大平館	水戸市杉崎町字瀬戸山	36.3880	140.3370	35	○				○						○			
0431	藤井城	ふじいじょう		水戸市藤井町	36.4552	140.4013	30		○			○					○	○	○		
0432	牛伏城	うしぶしじょう		水戸市牛伏町字宮脇	36.3894	140.3627	35		○					○	○			○			
0433	小泉堀ノ内	こいずみほりのうち		水戸市小泉町	36.3427	140.5685	37	○					○	○	○				○		
0434	塩崎新屋敷	しおがさきしんやしき		水戸市塩崎町	36.3340	140.5551	37	○						○	○				○		
0435	大塚鯉渕民部館	おおつかこいぶちみんぶやかた		水戸市大塚町	36.3871	140.3912	36	○							○				○		
0436	下大野堀ノ内	しもおおのほりのうち		水戸市下大野町	36.3493	140.5430	37	○					○	○	○			○	○		
0437	成沢要害	なるさわようがい		水戸市成沢町	36.4329	140.3849	30	○				○					○		○		
0438	小幡城	おばたじょう		茨城町小幡	36.2648	140.4051	43	○				○		○			○	○	○		土門ほか
0439	飯沼城	いいぬまじょう	桜井館	茨城町上飯沼字館ノ内	36.2892	140.3835	43	○				○				公共施設地	○		○		
0440	石崎城	いしざきじょう	親沢城、上石崎城	茨城町上石崎字親沢	36.2795	140.4780	43		○			○						○	○		櫓台
0441	宮ケ崎城	みやがさきじょう	天王城	茨城町宮ヶ崎	36.2675	140.4753	43		○			○		○		道路敷地	○	○	○		
0442	海老沢館	えびさわやかた		茨城町海老沢字城中	36.2581	140.4478	43	○				○		○				○	○		虎口
0443	鳥羽田城	とりはたじょう		茨城町鳥羽田	36.2492	140.4251	51		○			○		○				○	○		土橋
0444	網掛館	あがけやかた		茨城町網掛字御林	36.2639	140.4914	43	○				○		○					○		虎口
0445	天古崎城	てございきじょう		茨城町南島田	36.2700	140.4353	43		○			○				寺社境内地	○	○	○		
0446	宮ケ崎館	みやがさきやかた	きゅうでん堀、古館	茨城町宮ヶ崎字荒井前	36.2622	140.4771	43	○				○		○				○	○		
0447	谷田部城	やたべじょう		茨城町谷田部字鳩内	36.2906	140.4460	43	○				○				公共施設地		○	○		
0448	山ノ崎城	やまのさきじょう		茨城町小幡字山ノ崎	36.2614	140.4061	43	○				○		○	○			○	○		
0449	奥谷城	おくのやじょう		茨城町奥谷	36.2849	140.4169	43		○					○		道路敷地					
0450	神宿城	かみやどじょう		茨城町神宿	36.2695	140.4394	43		○					○							
0451	内手館	うちでやかた		茨城町海老沢字内手	36.2599	140.4472	43		○			○		○			○	○	○		
0452	小堤城	おづつみじょう		茨城町小堤堀ノ内	36.2838	140.4235	43		○					○							
0453	大戸城	おおどじょう		茨城町大戸字馬場	36.3179	140.4194	43		○			○		○	○		○	○	○		虎口
0454	網掛中落館	あがけなかおちやかた		茨城町網掛	36.2618	140.4826	43	○						○					○	○	
0455	上石崎登城	かみいしざきとじょう		茨城町上石崎登城	36.2812	140.4589	43		○			○		○			○	○	○		
0456	福蔵城	ふくらじょう	福良館	茨城町中石崎字福蔵	36.2872	140.4883	43		○			○		○	○		○	○	○		
0457	野曾城	のそじょう	大高城	茨城町野曾字荒谷	36.3021	140.3834	43		○						○				○		
0458	下土師堀ノ内館	しもはじほりのうちやかた		茨城町下土師字堀ノ内	36.2914	140.4031	43	○				○			○			○	○		
0459	宮ケ崎祐善城	みやがさきゆうぜんじょう		茨城町宮ケ崎字祐善	36.2587	140.4640	43		○			○				墓地	○	○	○	○	
0460	猫崎館	ねこざきやかた		茨城町大字大戸字木戸	36.3189	140.4058	43		○					○				○	○		
0461	雨ヶ谷城	あまがやじょう	雨ケ谷長者屋敷	茨城町上雨ケ谷字長者屋敷	36.2388	140.3968	51		○			○		○			○	○	○	○	
0462	中石崎三条館	なかいしざきさんじょうやかた		茨城町中石崎	36.2831	140.4889	43		○			○		○	○			○	○		
0463	下座長者屋敷	げざちょうじゃやしき		茨城町下座字長者屋敷	36.2447	140.4045	51		○			○					○	○	○	○	
0464	小鶴館	こづるやかた		茨城町小鶴字倉作	36.2973	140.4185	43		○				○	○			○	○			
0465	前田城	まえだじょう		茨城町前田字堀ノ内後	36.3111	140.4267	43		○			○			○			○	○		
0466	鳥羽田堀ノ内館	とっぱたほりのうちやかた		茨城町鳥羽田	36.2436	140.4275	51		○							個人宅地					
0467	中山館	なかやまやかた		茨城町上石崎中山	36.2998	140.4582	43		○					○							
0468	越安館	こやすやかた	越安城	茨城町越安	36.3001	140.4062	43		○			○		○	○	公共施設		○	○		
0469	大戸館	おおどやかた		茨城町大戸字馬場	36.3175	140.4150	43		○			○		○	○			○	○	○	
0470	大戸ニシヤシキ	おおどにしやしき		茨城町大戸字宿ノ内	36.3206	140.4147	43		○					○							○
0471	一杯館	いっぱいだて		大洗町大貫町字一杯館	36.3052	140.5466	44	○								雑種地					
0472	登城館	とじょうやかた		大洗町大貫町字登城	36.2999	140.5517	44	○				○					○	○	○		
0473	龍貝館	りゅうがいやかた		大洗町神山町字龍貝	36.2984	140.5474	44	○				○					○	○	○		
0474	小館館	こだてやかた		大洗町成田町字小館	36.2712	140.5307	44	○				○					○	○	○		虎口
0475	大館館	おおだてやかた		大洗町成田町字大館	36.2697	140.5304	44	○						○			○	○	○		虎口
0476	館山館	たてやまやかた		大洗町成田町字館山	36.2667	140.5429	44	○				○					○	○	○		
0477	後新古屋館	うしろしんこややかた		大洗町神山町字後新古屋	36.2946	140.5487	44	○				○					○	○	○		犬走り
0478	古河公方足利成氏館	こがくぼうあしかがしげうじやかた	鴻巣御所、古河公方館	古河市鴻巣字古城跡	36.1765	139.7006	45	○								公共施設地	○	○	○		
0479	古河城	こがじょう		古河市桜町（渡良瀬川左岸河川敷）	36.1871	139.6961	45	○						○	○			○	○		河川堤防
0480	小堤城	こづつみじょう		古河市小堤字本田	36.2086	139.7667	46	○							○	寺社境内地	○	○	○		
0481	磯部館	いそべやかた		古河市磯部字浅間南	36.1685	139.7382	45	○							○			○	○		
0482	水海城	みずうみじょう		古河市水海字神明耕地	36.1424	139.7567	54	○						○							
0483	諸川西門城	もろかわにしもんしろ	諸川城	古河市諸川字中町	36.2038	139.8176	46	○				○			○				○		
0484	東の門西の門城	ひがしのもんにしのもんしろ		古河市山田字東ノ門	36.1682	139.8008	46	○						○							
0485	関根豪族屋敷遺跡	せきねごうぞくやしきいせき		古河市仁連字町並西側	36.1808	139.8093	46	○				○			○						
0486	結城城	ゆうきじょう	臥牛城	結城市結城字城跡	36.3080	139.8855	39		○			○	○	○	○	公共施設地	○	○			
0487	山川綾戸城	やまかわあやとじょう	山川城、あやどうのたて	結城市山川新宿字古城跡	36.2278	139.8660	46	○					○	○	○		○	○	○		
0488	山川館	やまかわやかた	東持寺境内遺跡、地頭屋敷	結城市上山川字我里内	36.2522	139.8838	39	○								寺社境内地	○	○	○		
0489	城の内館	しろのうちやかた	城の内遺跡	結城市結城字城ノ内	36.2851	139.8703	38	○				○					○	○	○		
0490	三蔵神社遺跡	さんぞうじんじゃいせき	三蔵館、権現城	結城市田間字権現	36.2587	139.8342	38	○				○				寺社境内地	○	○	○		池跡
0491	太田城	おおたじょう		八千代町太田字中城	36.1781	139.9080	47	○				○		○	○	寺社境内地	○	○	○		
0492	和歌城	わかじょう	和歌島城	八千代町若字向島	36.1801	139.9046	47	○				○		○	○				○		

県包蔵地番号	指定	概要	発掘調査報告書番号
		本文掲載	
		本文掲載	
		本文掲載	
		本文掲載	
		本文掲載	
		本文掲載	
		本文掲載	
		有賀城は天正末期、江戸城の支城の1つで、木村美濃守の居城という（内原町史より）。周知の埋蔵文化財包蔵地「有賀宿遺跡」（305-078）内に所在	
		江戸氏家臣の大平豊後守の居館跡という（内原町史より。）	
		本文掲載	
		牛伏城は、江戸氏家臣の浅野玄蕃頭正成が城主という（内原町史より）	
		常陸平氏小泉氏居館伝承あり	
		宅地を囲繞する土塁が認められるも、近世屋敷境の可能性もあり、中世遺構かどうかは不明	
		鯉渕民部の屋敷と伝わる。２０１８年２月までは土塁が残っていた	
		常陸平氏一族大野氏の居館跡という	
		本文掲載	
302-083	町	本文掲載	94,95
302-084	町	本文掲載	
302-085		本文掲載	
302-086		本文掲載	96
302-087		本文掲載	
302-136		本文掲載	
302-167		本文掲載	
302-200		本文掲載	
302-215		本文掲載	
302-229		本文掲載	97
302-232		江戸氏築城と思われる。小幡城を構成する長累。	
		本文掲載	
		本文掲載	
		本文掲載	
		本文掲載	
		本文掲載	
		来歴不明。	
		本文掲載	
		本文掲載	
		本文掲載	
		富裕仁か龍崎氏居館。常陸国富有仁注文に出てくる平次郎入道の屋敷か。付近の36.2922586588789, 140.39666983197213には、中世石塔がある。	
		本文掲載	
		吉田平氏一族大戸氏の分家猫崎氏居館跡。吉田平氏一族大戸氏の分家猫崎氏の居館跡と推定される。	
		本文掲載	
		本文掲載	
		井坂氏居館跡伝承。城の端の井坂氏墓地内に五輪塔が残存	
		本文掲載	
		本文掲載	
		戦国期以前の鳥羽田氏居館か。鳥羽田氏初期の館か？現在遺構は煙滅状態	
		吉田平氏一族中山氏居館。吉田平氏一族中山氏居館跡。遺構は不明	
		詰め城部分は公園敷地になり煙滅。麓には、民家の背後に高さ1.5mの土塁と幅１ｍの空堀跡が30m東西に伸びている。	
		大戸氏の館伝承を残す。かつては、城があった所を大城坪といった。	
		大戸城の支城か。かつて、ニシヤシキ（＝西屋敷）と呼ばれていた。かつては、土塁と曲輪があった。表面採集でカワラケなどが採集。	
309-072		『西光院由来記』には、「応永５（１３９８）年、下総千葉氏が大貫に城を構えた」と記されている。大貫池南岸の標高２０ｍ前後の舌状台地先端部の東西約１８０ｍ×南北約１２０ｍの範囲。土砂採取事業により完全に湮滅。しかし、南東側台地基部に連続する落神遺跡の発掘調査範囲より中世の堀状遺構を検出しており、関連が予想できる。	
309-073		本文掲載	99,101,102
309-076		本文掲載	
309-092		本文掲載	98
309-093		本文掲載	
309-099		本文掲載	
309-101		本文掲載	
204-037	県	本文掲載	104
204-074		本文掲載	114
541-018		本文掲載	105
541-043		築田貞助の館跡。築田氏は、野州築田邑の出身といわれ、古河公方足利氏の家臣であったが、古河に公方なきあと天正１８（１５９０）年の小田原の戦いに北条方として参戦し敗れている。その後、元和元（１６１５）年の大阪夏の陣に徳川方として参戦したが、子助吉とともに討死している。磯部館の創始については、天正１８年小田原の戦いに敗れ水海城に退いたあと、ここに館をかまえたことに始まるといわれる。築田氏なきあと、留守を預かった岩瀬豊前は帰農し館跡に土着している。現在、館跡は土塁と堀の一部を残し宅地になっている。館跡の北側に浅間塚があり、この館の物見台として築かれたものといわれる。	
541-073		古河公方足利氏の重臣築田氏累代の居城、創始は永享７（１４３５）年足利持氏への築田満助の斡旋によりゆるされた、佐竹義憲より領分のうち騎西郷と関宿７ヶ村を与えられ、水海に住したとされる。城の内、蔵屋敷、内城、堀の内などの城跡をしのばせる地名が残っている。	111
543-014		来歴不明。築城についてははっきりしないが、北部に土塁が残る。天保年間の絵図（屋敷図）あり西門、古屋敷の小字名が残る。	
543-015		古河公方家臣山田大蔵築城、天文年間（１５３２～１５５５）小山市に滅ぼされる。諏訪浦、香取浦、八幡浦、大杉浦、稲荷浦、諏訪前、香取東、香取西、八幡東、八幡前など神社に関係する小字名が残る。土塁などは確認できない。	103,113
543-016		来歴不明。構えの年代は不詳であるが、構堀を設けたところから相当の豪族であったと思われる。内堀跡、外堀跡があったが、宅地造成のため湮滅か。	
207-014	市	本文掲載	
207-015	市	本文掲載	
207-016	市	本文掲載	
207-017		本文掲載	115,117
207-053		生井大和守の屋敷跡とされるが詳細不明。内部には池状遺構が残り、今も水が湧き出ている。	
521-010		本文掲載	
521-020		本文掲載	120

No.	名称	ふりがな	別称	所在地	座標		地図番号	立地				現況					残存遺構				
					北緯	東経		平地	丘陵台地	山地	その他	山林	水田	畑地	宅地	その他	曲輪	堀	土塁	切岸	その他
0493	鷲宮砦城	わしみやとりでじょう		八千代町沼森字登戸	36.1840	139.9092	47	○				○			○	寺社境内地			○		
0494	尾崎城	おさきじょう	秋葉館	八千代町尾崎字屋敷下	36.1418	139.9090	55	○				○		○	○	寺社境内地	○	○	○		
0495	塩本本田遺跡	しおもとほんでんいせき	猿島兵衛基兼館	八千代町塩本字本田	36.2128	139.8622	46	○				○			○	寺社境内地		○			
0496	堂山遺跡	どうやまいせき	八丁目砦	八千代町八町字堂山	36.1951	139.8984	47	○						○	○	寺社境内地			○		
0497	法戸氏館	ほっとしやかた		八千代町仁江戸字間々下	36.1608	139.9334	55	○				○				寺社境内地		○			
0498	館沢館	たてざわだて		八千代町新地字館沢	36.1723	139.9148	47	○				○			○	寺社境内地		○			
0499	笹目館	ささめだて		八千代町佐野字笹目館	36.2038	139.8807	47	○				○		○	○			○			
0500	下妻城	しもつまじょう	多賀谷城	下妻市本城町二丁目	36.1844	139.9661	47	○						○	○	寺社境内地	○	○	○		
0501	大宝城	だいほうじょう	下妻城	下妻市大宝	36.2051	139.9726	47	○				○	○	○	○	寺社境内地		○	○		
0502	駒城	こまじょう	駒館　駒楯城	下妻市黒駒字奥内	36.2203	139.9206	47	○				○		○	○			○	○		
0503	伝野手代官屋敷	でんのでだいかんやしき	加養条里遺跡	下妻市加養	36.1704	139.9848	47	○						○	○	寺社境内地			○		
0504	江村館	えむらやかた	神明両社遺跡	下妻市江字神明前	36.2308	139.9260	47	○					○	○	○	寺社境内地		○	○		
0505	白井全洞居館	しらいぜんどうきょかん	鯨砦、中廓遺跡	下妻市鯨字中廓	36.1454	139.9949	55	○						○	○	寺社境内地			○		
0506	桐ケ瀬城	きりがせじょう	正法寺遺跡	下妻市桐ケ瀬	36.2028	139.9233	47	○						○	○	寺社境内地			○		
0507	村岡館	むらおかやかた	仲道遺跡	下妻市村岡字仲道	36.1647	139.9235	55	○						○				○			
0508	五箇館	ごかやかた	西山遺跡	下妻市五箇字西山	36.1371	139.9238	55	○						○	○				○		
0509	下栗城	しもぐりじょう	時枝下遺跡	下妻市下栗字時枝下	36.1652	139.9616	55	○						○	○	寺社境内地					物見台
0510	袋弾正居館	ふくろだんじょうきょかん	鹿島遺跡	下妻市見田字鹿島	36.1559	139.9824	55	○					○	○	○	寺社境内地					
0511	唐崎修理居館	からさきしゅりきょかん	唐崎遺跡	下妻市唐崎字唐崎	36.1517	139.9825	55	○					○	○	○	寺社境内地		○			
0512	長萱大炊居館	おさがやおおいきょかん	加道田遺跡	下妻市長萱字加道田	36.1495	139.9796	55	○						○	○	寺社境内地		○			
0513	伊古立掃部居館	いごたつかもんきょかん	久根添遺跡、伊古立四反田遺跡	下妻市伊古立	36.1470	139.9839	55	○						○	○	寺社境内地		○			
0514	肘谷城	ひじやじょう		下妻市肘谷	36.1716	139.9957	47	○						○	○	寺社境内地			○		
0515	袋畑館	ふくろはたやかた		下妻市袋畑	36.1788	139.9859	47	○						○	○	寺社境内地			○		
0516	久下田城	くげたじょう	城山	筑西市樋口字城山・字内宿・字戸張	36.3740	139.9740	32		○			○		○	○		○	○	○		
0517	下館城	しもだてじょう	螺城、法螺貝城	筑西市甲（本城町）	36.3157	139.9772	39		○						○	公共施設地					
0518	伊佐城	いさじょう		筑西市中舘字本田	36.3327	139.9762	39		○						○	寺社境内地		○	○		
0519	布川館	ぬのがわやかた		筑西市布川字本宿	36.2776	139.9272	39	○				○		○	○	寺社境内地					
0520	関城	せきじょう		筑西市関館字内館	36.2254	139.9638	47		○			○		○	○	寺社境内地		○	○		坑道跡
0521	井上城	いのうえじょう		筑西市井上字狭間	36.2542	139.9698	39		○			○		○	○				○		
0522	船玉城	ふなだまじょう		筑西市船玉字明神	36.2757	139.9079	39		○			○		○	○						
0523	小詰城	こづめじょう		筑西市関本下字小詰	36.2485	139.9148	47		○			○			○			○	○		
0524	東睿山承和寺	とうえいざんじょうわじ	堀ノ内遺跡、百間濠	筑西市中上野字堀の内	36.2132	140.0188	48	○						○				○			
0525	海老ヶ島城	えびがしまじょう		筑西市松原字城ノ内	36.2570	140.0318	40	○				○		○	○			○	○		
0526	小栗城	おぐりじょう	巴の城、城山	筑西市小栗字城山	36.3745	140.0172	33		○			○						○	○	○	
0527	御殿内遺跡	ごてんないいせき	御殿城、平城	筑西市小栗字御殿	36.3526	140.0109	33	○					○	○	○						
0528	関本館	せきもとたて		筑西市関本上	36.2543	139.9135	39	○						○	○			○	○		
0529	四保城	しほじょう		筑西市吉田字館	36.2668	140.0114	40		○					○	○		○		○		
0530	村田館	むらたやかた	御本丸、御前山	筑西市竹垣字杉ノ宮	36.2635	140.0069	40	○			微高地		○	○							
0531	真壁城	まかべじょう		桜川市真壁町古城字本丸	36.2753	140.1079	40		○				○	○	○	公共施設地	○	○	○	○	土橋
0532	平良兼館	たいらのよしかねやかた	リュウガイ城	桜川市真壁町羽鳥字北坪	36.2586	140.0980	40			○		○					○	○	○	○	
0533	椎尾城	しいおじょう	椎尾堀の内	桜川市真壁町北椎尾字堀の内	36.2534	140.0697	40	○					○	○	○		○	○	○		
0534	亀熊城	かめくまじょう		桜川市真壁町亀熊字南館	36.2854	140.0934	40	○				○	○	○	○	寺社境内地	○	○	○	○	
0535	谷貝城	やがいじょう		桜川市真壁町上谷貝字館	36.3007	140.0590	40	○				○	○	○	○		○	○	○		
0536	谷貝峯城	やがいみねじょう		桜川市真壁町下谷貝字峯	36.2895	140.0544	40	○				○	○	○	○		○	○	○		
0537	市村家	いちむらけ		桜川市真壁町下谷貝字辻	36.2841	140.0560	40	○							○		○		○		
0538	塙世城	はなわぜじょう		桜川市真壁町塙世字金砂	36.2792	140.0800	40	○	○			○	○	○	○		○	○	○	○	
0539	羽黒山城	はぐろさんじょう		桜川市西小塙字羽黒	36.3574	140.1667	34			○		○				寺社境内地	○	○	○	○	土橋
0540	富谷城	とみやじょう		桜川市富谷字城ノ内	36.3778	140.1031	33		○	○	尾根先端	○		○		工場敷地	○	○	○	○	
0541	橋本城	はしもとじょう		桜川市上城字古城跡下	36.3474	140.1232	33			○		○				寺社境内地	○	○	○	○	
0542	坂戸城	さかどじょう	城山城	桜川市西飯岡字伊勢代	36.3756	140.0706	33			○		○				寺社境内地	○	○	○		
0543	棟峰城	ぐしみねじょう		桜川市西小塙字富士峯	36.3614	140.1690	34			○		○					○	○	○	○	
0544	門毛城	かどげじょう	室町屋敷	桜川市門毛字前根	36.4035	140.1329	34		○	○		○		○	○		○	○	○		
0545	池亀城	いけがめじょう		桜川市池亀字五大力	36.3877	140.1601	34		○	○		○		○			○	○	○		
0546	松田城	まつだじょう		桜川市松田字中城	36.3467	140.1453	34	○					○	○	○		○	○	○		
0547	谷中城	やなかじょう	牙城、諏訪の峰	桜川市上城字北前田	36.3644	140.1247	33		○	○		○					○	○	○		
0548	岩瀬城	いわせじょう		桜川市岩瀬字十枚内	36.3675	140.1130	33		○	○		○		○	○	墓地	○	○	○	○	
0549	磯部城	いそべじょう		桜川市磯部字裏山	36.3683	140.1414	34		○			○			○	寺社境内地	○	○	○		
0550	富岡城	とみおかじょう	ユウギ山	桜川市富岡字龍迎	36.3619	140.0883	33		○			○	○	○	○	寺社境内地	○	○	○		
0551	雨引山城	あまびきさんじょう	竜蓋山の砦	桜川市本木字小河原	36.3363	140.1219	33			○		○					○	○	○		
0552	城山城	しろやまじょう	栗橋城	五霞町元栗橋字上宿	36.1100	139.7290	53		○			○	○	○	○	雑種地	○	○	○		
0553	山王山城	さんのうやまじょう		五霞町山王山	36.1062	139.7646	54	○								寺社境内地		○	○		
0554	長井戸城	ながいどじょう	長井戸遺跡群	境町長井戸	36.1310	139.7959	54	○						○	○	寺社境内地		○	○		
0555	堀江候館	ほりえこうやかた		境町若林字北原	36.0747	139.8350	61	○							○						
0556	田向城	たむかいじょう		境町長井戸	36.1270	139.7907	54	○				○	○					○			
0557	稲尾城	いなおじょう		境町稲尾	36.1400	139.7923	54	○							○			○			
0558	弓田城	ゆだじょう		坂東市弓田	36.0764	139.9131	62	○								ゴルフ場		○			
0559	大鳥館	おおとりやかた	大鳥遺跡	坂東市逆井字大鳥	36.1434	139.8483	54	○				○		○	○			○	○		

県包蔵地番号	指定	概要	発掘調査報告書番号
521-025		南北朝時代、北朝方の高師冬が、南朝方の駒城を攻略するための拠点として築いた砦の一つである。城跡の中心と思われる鷲神社境内に、土塁跡が一部が残されている。	
521-072		本文掲載	121
521-130		猿島48郷の領主であった猿島兵衛基兼(吉兵衛)の館跡と伝えられる。猿島兵衛基兼は、梁田河内守と共に結城合戦に関係し敗北している。跡地内の墓地に猿島兵衛基兼一族の墓石が残されている。	
521-162		南北朝時代、北朝方の高師冬が、南朝方の駒城を攻略するための拠点として築いた砦の一つである。周辺には、中館、堀畑、堀端等の小字が残る。	
		飯沼地方から下妻地方に進出した法戸氏の館跡と伝えられる。応安元年(1368)に法戸範遠が下妻正負から支配権を奪い、5代にわたって続いた。康正元年(1455)に、法戸道光は多賀谷氏家によって殺害された(法戸道光殺害事件)。跡地内には御所神社があるが、後の永禄10年(1567)、北条氏政が下妻に襲来した時に、本営を置いた「法戸山」は御所宮である。同地域は縄文時代の仁江戸西遺跡(521-001)としても登録されている。周辺には、御所宮、法戸、堤根の小字が残る。	
		10～11世紀にかけて当地方を領有した村岡氏により築城されたと伝えられる。隣接する下妻市(旧千代川村)に村岡の地名があり、村岡五郎良文の伝承がある。当地に新城を築いたときに新地の名が始まったといわれる。周辺には、新堤、馬場、の小字が残る。	
		天正6年(1578)に、北条氏堯が、結城・下妻地方に侵攻するための本営を置いた地と伝えられる。跡地北方に大山道南遺跡(521-127)から、中世の土器片が出土している。周辺には殿山、赤保家、古屋敷、丸山、堤上などの小字が残る。	
210-014	市	本文掲載	
210-015	国	本文掲載	122,123 124,125 126
210-016	県	本文掲載	
210-027		城主は多賀谷氏家臣、野手治部左衛門。	
210-055		来歴不明。	
210-071		城主は多賀谷氏重臣、白井全洞。中廓遺跡内には字「中廓」字「房廓」がある。複数の居館跡か。鯨の「四田（よんた）」として内田氏、安田（保田）氏、広田氏、国府田氏がある。『結城郡郷土大観』にある「鯨砦」は全洞塚古墳で、箱式石棺の古墳であった。中世の物見台であった可能性が高い。その他に遠見塚もあった。豊田氏との最前線に位置するため、物見台であった可能性が高い。	
210-086		城主は多賀谷氏家臣、桐ケ瀬弾正。桐ケ瀬天満宮周辺。	
522-002		村岡館住人仏師弁法眼。発掘調査によって、堀の一部が確認されている。断面は薬研掘り。鎌倉期の常滑焼や戦国期の内耳鍋などが出土している。	
522-014		小竹英夫家の西側と南側に土塁が残されている。西側の道路は馬場跡との伝承がある。	
522-038		法光寺の東側、歴代住職墓がある塚は物見である可能性が高い。多賀谷氏家臣の常楽寺氏の居館と伝える。多賀谷氏との合戦の伝承に「旗掛けの松」あり。その旗が同寺に保管されている。下妻市指定の石造五輪塔は南北朝期のもの。境内からは鎌倉期の板碑出土。1基は名号板碑であり、親鸞の門侶交名帖（光明寺所蔵：県指定）にある下栗の弟子と関連するかもしれない。	
522-054		城主は多賀谷氏家臣、袋弾正。居館跡の旧字名は「要害」。居館跡の南方から、埋蔵銭６ｋｇが出土している。（千代川村史編さん委員会2001）	
522-056		城主は多賀谷氏家臣、唐崎修理、唐崎新六。永伝字境内及び旧中島家跡地が居館の推定地。両者の境界に堀跡が残る。中島家は四ヶ村四天王の一人。居館二つ分の可能性あり。	
522-057		多賀谷氏家臣、長萱大炊の居館。天神社が候補地。長萱地内に字「堀ノ内」があった。四ヶ村四天王の杉田家からは板碑が出土している。複数の居館があった可能性もある。	
522-059 522-060		城主は多賀谷氏家臣、伊古立掃部、伊古立将監。鹿島神社周辺か、四ヶ村四天王の永瀬一男家の周りに囲い堀あり。集落移動元の四反田からは中世の遺物が多量に採取できる。	
		城主は多賀谷氏家臣、肘谷小次郎。	
		城主は多賀谷氏家臣、袋畑右京亮。	
206-004	県	本文掲載	
206-005	市	本文掲載	132
206-006	県	本文掲載	
206-039		鎌倉～室町か？結城氏の武将五郎友信なる者が置かれ、友信は地名の布川（氏）を称したという隣接する小字名は、山王北、久保、砂田、東原、天神、開など。	
501-004	国	本文掲載	127
501-105		城主、築城時期は不詳。自然地形を残した上に防御とする堀と土塁を配する城郭である。南北朝時代に関城・大宝城を攻めた北朝（足利方）の陣城とも考えられる。	128
501-106		天正10年頃、多賀谷重経が築城。城主は、渡辺壱岐守（多賀谷の家臣）。現地は、ほぼ全域が整地される。遺構等目視することはできないが、かつては、堀・土塁等が存在していたという。	
501-107		築城は永禄年間（１５５８～１５６８）頃。城主は多賀谷政経。結城領の関本を奪い取り、附城を築いたとの記事がある。	
502-006		本文掲載	129
502-016		本文掲載	130,131
505-009		本文掲載	
505-026		吾妻鏡よると、治承４年（１１８０）１１月８日、源頼朝、佐竹氏征討の帰途、小栗重成の八田館に入御する。字御殿内周囲の小字名には、東；東御前、西城戸、東城戸、西前地、東前地、南；亥の馬場、西；西の坊、長町、北；西舘、駒塚、ほか下小栗集落内に、熊野、上熊野、下熊野、河原宿、長井など。迅速測図や昭和20年代の航空写真に方形館跡が確認できる。昭和５０年代のほ場整備事業により土塁削平、周囲の塚も削平される。しかし、現地（字御殿）は、周囲の水田面より一段高いまま整地された。	
		復原推定で東西約120メートル、南北約150メートル規模の方形館跡。開発等により大部分が宅地、耕作地となるが、北端の竹林内に堀と土塁が遺存する。集落には館内、東館、西館の呼び名も残るが、城郭遺構とは考え難く前代に関郡を統治した関氏の館跡の可能性もある。	
		本文掲載	
		四保氏の館。四保氏が四保城に移った後は、出城として用いられたという。築城時期は未詳。内側に土塁を築いた長方形の単郭式居館（中世前期の堀之内的武家屋敷）。現在は、圃場整備事業により湮滅。周囲の水田面よりわずかに高い方形の区画を残すのみ。昭和２２～３０年代の航空写真等に方形館跡が写る。	
503-028	国	本文掲載	134,135 136,137 138,139 140,141 142,143
503-029		本文掲載	
503-030		本文掲載	
503-031		本文掲載	
503-032		本文掲載	
503-033		本文掲載	
503-043		市村家は真壁氏家臣の子孫と伝え、現在も居住する。保存状況は良好で地割、遺構とも全体復元可能である。戦国期の方形居館か。土塁が残存する。	
503-044		天文年間、榎戸氏の築城。地割、遺構とも全体復元可能だが、一部は開発で破壊され不詳。戦国末期の城館のうち、西方の一部が包蔵地（吉兵衛家付近）となっている。城主及び榎戸氏一族が現在も居住。一族は中世後期文書を伝える（近世中期絵図の太郎左衛門家、平左衛門家、吉兵衛家）。周辺は近世以降のかわらけ、土鍋等の土器生産地で、中世も生産地の可能性がある。１６世紀の瀬戸美濃産陶磁器、かわらけが採集される。古代伝路であり、中世基幹道の小栗道と桜川渡河点の字伊佐々橋に隣接する。	
324-025		本文掲載	
324-034		本文掲載	
324-035		本文掲載	
324-036		本文掲載	
324-037		本文掲載	
324-038		本文掲載	
324-039		本文掲載	
324-040		平安末期、中郡氏の居館と伝わり、中郡城跡の推定地の一つである。また、室町時代松田氏の居館とも伝わる。猪瀬家に松田次郎家久の史料が伝えられる。開発による破壊で土塁や堀の一部が残る。	
324-041		本文掲載	
324-042		戦国期・岩瀬氏の居城と伝わる。城跡の一部が残るのみだが城跡の北側集落には伝承の家臣団の子孫と思われる屋敷が残るなど、城と城下は広く北や西に広がる。城の東の岩瀬高校から長辺寺山にかけては城館の関連地区であった可能性がある。城と城下の間には笠間街道と呼ばれる東西道が通じ、長辺寺山（古墳あり）麓に延び、古代道と推定されている。城下西側には中世以前からあると思われる益子街道が通じ、東西道と交差する。古代以来の重要な交通開発地域にある城跡と推定される。	
324-043		本文掲載	
324-057		本文掲載	
		本文掲載	
542-008		本文掲載	149
		本文掲載	
546-017		本文掲載	150
546-036		来歴不明。	
		本文掲載	
		天文年間、稲尾加賀守の居城とも伝えられるが詳細は不詳。宅地化と土砂採掘等により湮滅。	
218-056		本文掲載	
544-004		本文掲載	

No.	名称	ふりがな	別称	所在地	座標		地図番号	立地				現況					残存遺構				
					北緯	東経		平地	丘陵台地	山地	その他	山林	水田	畑地	宅地	その他	曲輪	堀	土塁	切岸	その他
0560	逆井城	さかさいじょう	飯沼城	坂東市逆井字城ノ内	36.1429	139.8533	54	○								公共施設地	○	○	○		
0561	駒寄城	こまよせじょう	駒寄柿沢遺跡	坂東市山字柿沢	36.1184	139.8791	55	○				○		○	○		○	○	○		櫓台
0562	大生郷城	おおのごうじょう	馬場遺跡	常総市大生郷町字内久根	36.0615	139.9551	62		○					○	○	雑種地	○	○	○		
0563	弘経寺城	ぐぎょうじじょう	寿亀山遺跡	常総市豊岡町甲字	36.0441	139.9762	62		○							寺社境内地			○		
0564	大塚戸城	おおつかどじょう		常総市大塚戸町字松山	36.0105	139.9391	62		○			○		○	○	工場敷地	○	○	○		
0565	菅生城	すがおじょう		常総市菅生町字古谷	35.9950	139.9489	69		○			○		○			○	○	○		
0566	石毛城	いしけじょう		常総市本石下字御城	36.1204	139.9707	55	○			自然堤防上				○	寺社境内地			○		
0567	向石毛城	むこういしげじょう		常総市向石下字西館	36.1169	139.9627	55		○						○	寺社境内地			○		
0568	古間木城	ふるまぎじょう		常総市古間木字入	36.0992	139.9461	55		○						○	工場敷地	○	○	○	○	
0569	豊田城	とよだじょう		常総市本豊田字中城	36.1048	139.9985	55				自然堤防上		○	○		河川敷					
0570	蔵持城	くらもちじょう		常総市蔵持字浦山	36.1058	139.9526	55		○			○			○	寺社境内地	○	○	○	○	
0571	内守谷城	うちもりやじょう		常総市内守谷町字館	35.9898	139.9720	69		○					○	○	寺社境内地					
0572	坂手城	さかてじょう		常総市坂手町字本郷	36.0066	139.9639	62		○					○	○	寺社境内地					
0573	実城	みじょう	御城、水海道城	常総市水海道元町字台町	36.0271	139.9896	62	○							○	雑種地、河川					
0574	亀岡台城	かめおかだいじょう		常総市水海道亀岡町字亀岡	36.0186	139.9856	62		○							雑種地					
0575	横曽根城	よこそねじょう		常総市豊岡町乙字	36.0341	139.9786	62		○					○	○						
0576	羽生城	はにゅうじょう	羽生館	常総市羽生町字	36.0434	139.9833	62	○						○	○	寺社境内地					
0577	坂巻城	さかまきじょう		常総市豊岡町乙字坂巻	36.0225	139.9795	62		○						○						
0578	館城	たてじょう		常総市豊岡町乙字	36.0287	139.9815	62		○					○	○	寺社境内地					
0579	報恩寺城	ほうおんじじょう		常総市豊岡町丙字	36.0318	139.9687	62		○							寺社境内地					
0580	根当要害	ねあたりようがい		石岡市石岡	36.2247	140.2712	50	○				○					○		○		
0581	府中城	ふちゅうじょう		石岡市総社一丁目	36.1894	140.2656	50	○							○	公共施設地	○	○	○	○	虎口？
0582	外城	とじょう	石岡城	石岡市貝地一丁目	36.1818	140.2771	50	○				○		○	○		○	○	○		
0583	東大橋要害	ひがしおおはしようがい	堀之内山、長者屋敷	石岡市東大橋	36.1905	140.3153	50		○			○						○	○		
0584	小井戸要害	こいどようがい	弥陀ノ台遺跡	石岡市小井戸	36.1900	140.3415	50	○				○		○	○			○			
0585	高野浜城	こうのはまじょう	田中城、東田中遺跡	石岡市東田中	36.1722	140.3004	50	○				○		○	○			○	○		
0586	三村城	みむらじょう		石岡市三村	36.1523	140.2815	58		○			○		○	○	公共施設他	○	○	○		虎口
0587	高浜要害	たかはまようがい		石岡市高浜	36.1660	140.2993	58	○				○		○	○						
0588	仲丸土塁	なかまるどるい	仲丸館	石岡市石川1935	36.1402	140.3006	58	○				○			○			○	○		
0589	高友古塁	たかともこるい	高友城	石岡市柿岡字丸山	36.2519	140.1994	41		○			○						○	○		
0590	柿岡城	かきおかじょう		石岡市柿岡字館	36.2397	140.1913	49	○				○			○	公共施設地	○	○	○		
0591	片野城	かたのじょう		石岡市根小屋字城ノ内	36.2223	140.2144	49	○				○		○	○	墓地	○	○	○		
0592	猿壁城	さるかべじょう		石岡市小山田字石田	36.2722	140.1647	41			○		○					○	○	○		
0593	諏訪山砦	すわやまとりで		石岡市吉生	36.2319	140.1497	49	○				○					○	○	○		
0594	小幡堀ノ内館	おばたほりのうちやかた		石岡市小幡字堀ノ内	36.2242	140.1563	49	○						○	○		○	○	○		
0595	吉生砦	よしうとりで	吉生城、古久保砦	石岡市吉生字要害	36.2317	140.1617	49	○				○				公共施設地	○	○	○		
0596	菅間館	すがまやかた		石岡市須釜字堀ノ内	36.2233	140.1709	49	○				○			○	公共施設地		○	○		
0597	龍門寺館	りゅうもんじやかた	龍門寺城	石岡市上曽字山小屋	36.2608	140.1595	41		○			○		○				○			
0598	二条山館	にじょうやまやかた		石岡市宇治会字毬無山	36.2722	140.2019	41	○				○					○	○	○		竪堀
0599	厚茂砦	あつもとりで		石岡市山崎字厚茂上	36.2721	140.2357	41			○		○							○		馬場
0600	小塙館	こばなやかた	牧野館	石岡市小塙字牧野	36.2827	140.1930	41	○						○				○			
0601	長峰砦	ながみねとりで	手葉井山砦、二つ館	石岡市小幡字長峰	36.2110	140.1338	49			○		○		○					○		
0602	青柳要害	あおやなぎようがい	青柳城	石岡市上青柳字勇害	36.2051	140.1555	49			○		○		○			○	○	○		
0603	根古屋館	ねこややかた	鯨岡城	石岡市小山田字根古屋	36.2734	140.1710	41		○			○			○		○	○	○		
0604	上曽城（西館）	うわそじょう（にしだて）		石岡市小屋字館前	36.2583	140.1646	41	○							○						
0605	御蔵館	おくらやかた	御蔵屋敷、御蔵城	石岡市小屋字館	36.2601	140.1689	41	○							○	公共施設地		○			
0606	大増城	おおますじょう	八幡平城	石岡市大増字大沼	36.3055	140.1705	41			○		○		○		墓地	○	○			
0607	野田館	のだやかた		石岡市瓦谷	36.2626	140.2127	41	○				○				公共施設他	○	○	○		
0608	真家館	まいえやかた		石岡市真家字堀ノ内	36.2691	140.2536	42	○							○			○			墓地
0609	片岡館	かたおかやかた	片岡城	石岡市片岡字館	36.2450	140.2144	49		○			○					○	○	○		
0610	観音寺城	かんのんじじょう	古城	石岡市下林字村上山観音寺	36.2274	140.2104	49		○							寺社境内地	○	○	○		
0611	半田砦	はんだとりで	半田城	石岡市半田字要害	36.1994	140.2075	49		○					○			○	○	○		
0612	川又要害	かわまたようがい		石岡市川又字要害	36.2140	140.2033	49	○							○			○			
0613	青田館	あおたやかた		石岡市青田字内手	36.1985	140.1760	49	○							○			○			
0614	数俵砦	かずたわらとりで	赤坂砦	石岡市月岡字数俵	36.2048	140.1881	49	○				○					○	○	○	○	虎口
0615	山崎古館	やまざきふるだて		石岡市山崎字古舘	36.2445	140.2649	50	○				○					○	○	○		
0616	成井館	なるいやかた		石岡市東成井字古舘	36.2589	140.2714	42	○						○			○	○	○		
0617	厚茂城	あつもじょう		石岡市瓦谷・真家の境界付近	36.2787	140.2378	41			○		○					○		○		虎口
0618	立開城	りゅうがいじょう		小美玉市上吉影字沖向	36.2222	140.4047	51		○			○		○		寺社境内地	○	○	○		虎口
0619	山野城	やまのじょう		小美玉市山野字ソ子ノ木	36.1687	140.3740	50		○			○		○		寺社境内地					
0620	小河城	おがわじょう	小川城、園部城、薗部城	小美玉市小川字古城内	36.1713	140.3574	50		○							公共施設地	○	○		○	
0621	中根館	なかねやかた	中館	小美玉市中延字中舘	36.1808	140.3524	50		○			○		○							
0622	中根山館	なかねやまたて		小美玉市中延字宮久保	36.1849	140.3550	50		○			○					○	○	○		虎口
0623	下田館	しもだたて	枡形山	小美玉市中延字八幡後	36.1941	140.3644	50		○			○							○		
0624	井之上城	いのうえじょう		小美玉市川戸字糸城	36.1766	140.3820	51		○			○									
0625	宮田館	みやたたて		小美玉市宮田字古屋ノ山	36.1914	140.3458	50		○			○		○	○		○	○	○		

県包蔵地番号	指定	概要	発掘調査報告書番号
544-006	県	本文掲載	151
544-017		本文掲載	
211-030		本文掲載	
211-052		本文掲載	
211-100		本文掲載	
211-113	市	本文掲載	152
523-014		本文掲載	
523-015		本文掲載	
523-016		本文掲載	
523-017		本文掲載	
523-024		本文掲載	
		本文掲載	
		築城年は不明。城主は長策民部といわれる。天正末期下妻城主多賀谷政経が水海道周辺諸城に総攻撃をかけた際、三福寺と同時に兵火にあい落城。長策氏はそのまま帰農したと考えられる。	
		本文掲載	
		実城の支城であったと伝えられ、水海道勢は当城と実城で兵を分けて戦っていたとされる。	
		羽生村の地頭であった羽生氏経が、羽生から移動し築城したといわれている。元弘3年（1333）に文秀院(後の安養寺)が横曽根城主である氏経が開基したとされているので、それ以前に築城されたと考えられる。	
		本文掲載	
		羽生氏経が初めて城を構えたと伝わる。その子、氏貞が継いだが、子がいないため結城清明の三男彦八郎（のちの羽生経貞）を養子とした。多賀谷軍が本拠を弘経寺におき、八方を攻略中に当城も落ちたとされる。城主の経貞は小田に走ったが、のちに安養寺にて病死したと伝えられる。当城はそのまま廃城になったと考えられる。	
		本文掲載	
		本文掲載	
205-012		本文掲載	
205-096	市	本文掲載	160,161
205-100		本文掲載	155
205-123		大掾氏系の要害か。北方200ｍに香取神社が存在。台地の先端部に位置し、土塁・空堀と思われる遺構が残存する。	
205-135		本文掲載	
205-157 205-162		本文掲載	
205-176		本文掲載	153,154
205-179		城主は、行方氏（修理）、尾上氏（治郎）の大掾氏一族。天正13年に下妻城主・多賀谷氏に攻められ落城と伝わる。要害中央のウンゾウ谷津を挟んで東と西に分かれ、東に本丸、西に二の丸があったと推定されているが、判然としない。	
205-213		城主は、小田氏系の飯田某か。平成30年堀跡と思われる遺構を確認できたがそれ以外は詳細は不明。石岡市史では地名から城郭の存在を推定している。	
463-027		本文掲載	
463-028	市	本文掲載	
463-029	市	本文掲載	157
463-030		本文掲載	
463-044		本文掲載	
463-045		本文掲載	
463-046		本文掲載	
463-047		城主は、小幡氏。菅間地頭職館跡その後小幡氏が要害として利用。手這坂の戦いの折には太田資正が戦前に利用したという。付近で土師質土器・鍋が出土、堀と思しき遺構も確認されている。また、隣接地である須釜堀之内遺跡の発掘調査の際、土壙墓が調査され永楽銭が確認されている。	
463-048		城主には、上曽氏説と僧兵説がある。箱堀と掘りあげた土で築かれた土塁が200mにわたり続いている。猿壁城の支城説・上曽城説・僧兵の館説がある。地元では当地が山寺と呼ばれており、信仰心の厚かった上曽氏に関連する僧侶の館から僧兵の館へと変遷したものである可能性もある。	
463-049		本文掲載	
463-050		城主は、小田五郎または宍戸持里一族の真家氏。難台山の峰続きに馬乗馬場があったという。また、わずかに土塁の形跡も残る。難台山城との関係でいえば小田五郎の城ということになる。一方では上杉氏家臣・長尾正忠と宍戸持里が戦になった折に泉城に籠った宍戸氏に裏山から兵糧を送り込むために造られた支城という説もある。	
463-051		城主は、永禄・元亀の頃の柿岡城主の一族という。時期的には梶原政景や真壁房幹の領主時代であるが資料はなく不明。かつては堀と土塁が残っていたが、土塁を崩し堀を埋めたという。現在はわずかに窪みが残るがほぼ湮滅。	
463-066		本文掲載	
463-072		本文掲載	
463-081		本文掲載（猿壁城の項）	
463-082		城主は、上曽氏。猿壁城のこととする説と別の城とする説がある。かつては石垣があったとされるが後世の開発により遺構が消滅したという。上曽氏は西側に居宅を作り、東側200mほどの所に蔵屋敷を建てたとされている。	
463-083		城主は、上曽氏。上曽氏の蔵跡。一辺が100m程の方形を呈すると考えられている。南側を正面にし、他の３面に箱堀が築かれている。上曽氏は東西に居宅を構え、西の館が居宅跡、東の館が蔵屋敷だったという。	
463-087		本文掲載	
463-100		本文掲載	163
463-105		真家氏は元は宍戸氏の一族であり、家里氏を名乗っていた。その後、帰農し園部地域において土着している。氏神である春日神社は館の西側にあり、明治６年に真家村の村社となった。地名としては堀之内が残るがこれが館跡である。現在は水を含む箱堀・氏神・真家家墓地などが存在する。	
463-112		本文掲載	
463-113		城主は、地元の伝承として小田氏一族・友部氏、地元の有力者・林氏、地元の有力者・片野氏と３つの説がある。片野氏とする説では完成を待たずに片野城を造り居城としたため、ここが古城と呼ばれたとする。５つの曲輪が連なる連郭式の城である。これらの曲輪が堀切や土塁で区切られ虎口も見られる。横矢掛りや虎口など複雑な構造を呈することから戦国期の城であると思われる。片野城との距離や構造の比較から片野城の出城の可能性もある。	
463-122		志筑の地頭・下川辺氏の一族・益戸氏（与右衛門）が造成したとされる。益戸氏はその後、半田氏を名乗る。石岡と柿岡を結ぶ街道沿いに位置し、抑えとして戦国末期まで使用されたと思われる。主郭は５角形を呈し、その内２辺が段丘に接している。他の崖に面していない各辺は浅い堀が設置されている。北西には香取神社があり、その北いは土塁と堀が存在する。	
463-123		小田一族である川俣氏とされる。小田氏の没落とともに帰農したという。恋瀬川に突出した台地の上に存在したと思われるが現在は個人の住宅となっており判然としない。台地の下に薬研堀と思われる遺構が残る。	
463-124		城主は、小田氏家臣・関氏（刑部）とされる。館の東側台地の下に墓地が残る。台地の東側の小桜川低地から館跡を囲むように谷津が入り天然の水堀として機能していたという。明治時代までは土塁も残存していた。	
463-125		城主は、小田一族・月岡氏（玄蕃）。手這坂の戦い後は佐竹氏の配下に入ったという。月岡氏は石岡市史によると大掾家臣団にも名前を連ねている。地元ではカズダーラとも呼ばれている。城跡北側の谷津の上に東西150m程の薬研堀と土塁が残る。曲輪と曲輪の間に横矢掛かりで抑えられた土橋があり典型的な横矢掛かりの虎口を呈している。一族の一部が明治に至るまで地方豪族屋敷として使用していた。	
463-144		所在地の地名を石岡市山崎古舘という。東西には谷津を望み、南側が園部川の支流となる台地上に位置する。遺構は、約５０ｍ×約１５ｍの曲輪があり、西側以外は高さ最大で約１ｍの土塁が取り囲む。また、東側を除き幅約３ｍの堀が巡っている。	
		本文掲載	
		本文掲載	
303-191		本文掲載	
303-194		城主は、山野讃岐盛俊。小川城（園部氏)の支城。元亀2年（1571)、小高氏が園部（小川）城を攻めた際、山野讃岐盛俊は、山野城の北方に位置する真宮台の園部方本陣に詰めていた。その後、雫橋を挟んで激戦となり、双方に多数の犠牲者がでたが、園部方優勢の間に和睦（小川照明城園部公由来記/軍記物)。	
303-195		本文掲載	
303-196		館主は、大江広元を祖と称する皆谷城主海東定勝の孫である海東勝義（長太夫）。海東長太夫は、帰農して、中根にひそみ、財をなして「中根長者」にのし上がった。元禄16年（1703）に再建された駒形明神宮造営寄進覚の筆頭に「海東長太夫」の名が見える。屋敷跡周辺には、「枡形」、「花畑」、「庵跡」の地名、八幡宮の石祠と井戸跡がある。	
303-197		本文掲載	
303-198		本文掲載	
303-218		城主は、田内刑部重春。元亀2年（1571)、小高氏が園部城を攻めた際、田内刑部重春は、井上之城の南西方に位置する真宮台の園部方本陣に詰めていた。その後、雫橋を挟んで激戦となり、双方に多数の犠牲者がでたが、園部方優勢の間に和睦（小川照明城園部公由来記/軍記物)。	
303-219		本文掲載	174,176

No.	名称	ふりがな	別称	所在地	座標		地図番号	立地				現況					残存遺構				
					北緯	東経		平地	丘陵台地	山地	その他	山林	水田	畑地	宅地	その他	曲輪	堀	土塁	切岸	その他
0626	野田館	のだやかた		小美玉市野田字堀の内	36.1901	140.3717	50		○			○							○		
0627	山野館	やまのやかた		小美玉市山野字向山	36.1663	140.3839	59		○			○			○						
0628	蔦山遺跡	つたやまいせき	宮田出城	小美玉市宮田字蔦山	36.1889	140.3489	50		○			○					○		○	○	
0629	竹原城	たけはらじょう	中郷城、城山、竹原要害	小美玉市竹原字館	36.2029	140.3150	50		○			○		○			○	○	○		
0630	鶴田城	つるたじょう		小美玉市鶴田字要害	36.2218	140.3467	50	○						○	○		○	○	○		
0631	弓削砦	ゆげとりで		小美玉市竹原字弓削	36.2118	140.3145	50		○						○			○			
0632	富士館	ふじたて	富士平館	竹原中郷字富士平	36.1946	140.3304	50		○			○		○	○		○		○		
0633	高原城	たかはらじょう		小美玉市竹原中郷字堀之内	36.1974	140.3249	50		○			○		○	○			○	○		
0634	片倉砦	かたくらとりで	堅倉砦、片倉長塁	小美玉市堅倉字大山	36.2323	140.3562	50		○			○						○	○		
0635	羽鳥館	はとりたて		小美玉市堅倉字大山	36.2452	140.2873	50		○			○		○	○			○			
0636	高崎城	たかさきじょう	館山館、岡の内館、三河城、波塚館	小美玉市高崎	36.1536	140.3327	58	○				○		○	○	公共施設地		○	○		
0637	飯塚館	いいつかたて		小美玉市上玉里字飯塚	36.1721	140.3372	50	○				○		○	○	雑種地	○	○	○		
0638	愛宕館	あたごたて		小美玉市下玉里字アタゴ	36.1421	140.3479	58		○			○									
0639	取手山館	とりでやまたて	玉里砦、タマリ取出、玉里新城	小美玉市田木谷字鳥手	36.1690	140.3478	50	○				○	○	○	○	雑種地	○	○	○		虎口ほか
0640	要害館	ようがいたて	龍崖	小美玉市下玉里字古屋台	36.1503	140.3436	58	○				○		○		雑種地		○	○		馬場跡
0641	城之内館	じょうのうちたて		小美玉市川中子字城之内	36.1513	140.3526	58				自然堤防上	○	○	○	○	雑種地		○	○		
0642	原山館	はらやまたて		小美玉市上玉里字居藪	36.1691	140.3335	50	○				○	○	○	○	雑種地	○		○		
0643	笠松館	かさまつたて	四箇村館	小美玉市栗又四ヶ字笠松	36.1862	140.3326	50		○			○				雑種地	○	○			
0644	殿塚館	とのつかたて	四箇村館	小美玉市栗又四ヶ字堀崎	36.1838	140.3346	50		○			○				雑種地		○	○		
0645	富士峯館	ふじみねたて		小美玉市高崎字富士峰	36.1714	140.3166	50		○			○		○							
0646	小瑞陣屋	こばなわじんや	小平陣屋	小美玉市小瑞字楯の内	36.1587	140.3656	58		○			○		○							
0647	飯岡館	いいおかたて	掘之内遺跡、真家氏宅	小美玉市飯前字堀の内	36.2051	140.4072	51		○					○	○			○			
0648	小橋山館	こばしたて		小美玉市上合字小橋山	36.2025	140.4224	51		○			○		○							
0649	下吉影城	しもよしかげじょう	野口宇兵衛館、野口館	小美玉市下吉影字城之内	36.1971	140.4422	51		○			○		○							
0650	皆谷城	かいやじょう		小美玉市下吉影字貝谷	36.1898	140.4440	51		○			○		○							
0651	新堀館	にいぼりたて		小美玉市下吉影字新堀	36.1969	140.4393	51		○			○		○				○	○		
0652	一杯館	いっぱいたて		小美玉市中延字一パイ館	36.1807	140.3489	50		○			○				墓地	○		○		
0653	宍倉城	ししくらじょう		かすみがうら市宍倉字本丸	36.1160	140.3311	58	○				○	○	○	○		○	○	○		
0654	安食館	あんじきやかた		かすみがうら市安食字堀ノ内	36.1158	140.3477	58	○				○		○	○				○		
0655	西成井館	にしなるいやかた		かすみがうら市西成井字堀ノ内	36.1077	140.3233	58	○				○						○	○		
0656	上軽部館	かみかるべやかた		かすみがうら市上軽部字コブ屋敷	36.1117	140.3301	58	○				○		○					○		
0657	軽部前館	かるべまえやかた		かすみがうら市上軽部字軽部前	36.1098	140.3303	58	○							○				○		
0658	大和田城	おおわだじょう		かすみがうら市大和田字東山	36.0884	140.3256	58	○				○		○	○			○	○		
0659	田伏城	たぶせじょう		かすみがうら市田伏字太子入	36.0933	140.3744	58	○				○		○		墓地	○	○	○		
0660	坂寄居山館	さかよりいやまやかた		かすみがうら市坂字東	36.0822	140.3645	65	○				○				墓地	○	○	○		井戸
0661	要害館	ようがいやかた		かすみがうら市坂字要害峯	36.0745	140.3487	65	○				○							○		
0662	地岸羽成氏屋敷	じぎしはなりしやしき		かすみがうら市深谷字ほノ区	36.1034	140.2858	58	○							○			○	○		
0663	八坂神社遺跡	やさかじんじゃいせき		かすみがうら市深谷字ほノ区	36.0968	140.2935	58	○				○				寺社境内地		○	○		
0664	鷹巣館	たかのすやかた		かすみがうら市深谷	36.0948	140.2827	58	○						○		寺社境内地		○	○		
0665	八田館	はったやかた		かすみがうら市牛渡字天神・字八田	36.0656	140.3270	65	○				○						○	○		
0666	戸崎城	とざきじょう		かすみがうら市戸崎字戸崎字本丸	36.0805	140.2732	65	○				○	○	○	○		○	○	○		
0667	平後館	たいらうしろやかた		かすみがうら市加茂字平後	36.0867	140.2796	58	○				○						○	○		
0668	台山館	だいやまやかた		かすみがうら市加茂字台山	36.0812	140.2790	65	○				○							○		
0669	志筑城	しづくじょう		かすみがうら市中志筑字東	36.1925	140.2342	49	○						○		雑種地	○	○	○		
0670	笠松城	かさまつじょう	佐谷城	かすみがうら市中佐谷字笠松	36.1465	140.2208	57	○						○	○	雑種地	○	○	○		
0671	中根長者屋敷	なかねちょうじゃやしき		かすみがうら市下土田字平当	36.1681	140.2458	49	○				○		○		寺社境内地		○	○		
0672	向原遺跡	むかいはらいせき		かすみがうら市下稲吉字向原	36.1378	140.2357	57	○				○			○				○		

県包蔵地番号	指定	概要	発掘調査報告書番号
303-220		来歴不明。土塁および堀跡が所在したとの記録あり。「堀ノ内」の小字あり。	178
303-221		城主は、犬塚主計、山野肥前（同一人物かは不明）。	
306-238		来歴不明。	
304-024	市	本文掲載	171
304-026		本文掲載	
304-036		城主は、弓削出雲守猪右衛門。天正13年(1585）、江戸重房が片倉砦を築城したのに対抗して、大掾氏によって府中城北方の竹原弓削に砦を築いたのが始まりとされる。翌年、天正14年（1586)、江戸氏の軍勢の攻撃を受け、陥落したとされている。平成6年(1994）の発掘調査で1条の薬研堀を確認している。出土遺物から掘の存続時期は、16世紀末～17世紀初頭であると思われる。	168
304-044		本文掲載	
304-046		平安時代末～鎌倉時代初期の御家人、下河辺政義（南郡総地頭職）の子である景政が竹原中郷の地に高原城を築き、高原四郎と名乗り、子の重政と二代にわたって、地頭職となった。南北朝期になると、下河辺氏は、南朝方に属し、永徳年間（1381～1383）、下河辺一族の宍戸益戸氏の所領没収によって、高原氏も連座し、高原城も廃城となったとされている。戦国期には、竹原氏が再び入り、「中郷城」と称したとの伝承もある。南北182m、東西127mの方形居館とされる（美野里町史上巻）。現在は、東西方向の土塁が長さ34m、高さ1.8～2.5mの規模で残存している。平成20年の発掘調査では、現存する土塁と平行する幅４m、深さ1.7mの堀跡を検出している。堀跡を境にして、南西側には、「御門」、北西側に「掘之内」の小字がある。	172
304-047		本文掲載	
304-048		本文掲載	179
462-001		本文掲載	167
462-002		本文掲載	170
462-023		築城者、城主名は不明。玉里八館のひとつ。南北朝期、延元元年（1336）、本館周辺は、北朝方、佐竹義春と南朝方、春日顕国･楠木正家とが交戦した大枝の戦いの主戦場となった。帆立貝古墳である愛宕塚古墳の墳丘上に所在するとされるが、城郭施設等は確認できない。	
462-027		本文掲載	175
462-028		本文掲載	
462-029		本文掲載	
462-030		本文掲載	
462-031		本文掲載	
462-032		館主は、栗又左近政清。府中城主大掾清幹の近親とされ、中郷城主、竹原左大臣兼信の家臣。天正18年（1590）、佐竹氏は、中郷城攻略のため、その南に位置する殿塚館を額田四郎義房に攻めさせた。栗又左近は、中郷城に一時撤退する途中、園部氏の家臣、馬場山新兵衛と会い見まえることになった。そこに、流矢が左近の腹に当たり、落馬したのち、首を落とされ、討ち死にしたとされる。この戦いで、殿塚館も落城したと思われる。左近の妻、花園夫人は、額田四郎義房の陣に馬にまたがり、長刀で切り入って、即座に十二人を討ち取ったが、佐竹の郎党、渕瀬兵衛に生け捕りにされたという。近隣の極楽寺には花園夫人を供養したとされる石造の地蔵像がある。府中城の支城。北西に所在する笠松館が所在しており、一連の城館であると考えられる。館内には、土塁、堀跡および切岸などの城郭施設が残存している。	
462-033		築城者、城主名は不明。玉里八館のひとつ。永保3年（1083）から始まる、後三年の役の際、源義家が、清原氏を5万の兵を率いて攻めた際、要害の地として、人馬を休めたとの伝承がある。地内には、「富士峰」・「五万堀」の地名が残る。天正18年（1590）、佐竹義宣が府中城の支城、高野浜城を攻略するために富士峰に陣を置いたとされる。	
		城主は、小塙隼人入道道元。小川城の南方を守る支城。元亀2年（1571)、小高氏が園部城を攻めた際、小塙隼人は、北方に位置する真宮台の園部方本陣に詰めていた。その後、雫橋を挟んで激戦となり、双方に多数の犠牲者がでたが、園部方優勢の間に和睦（小川照明城園部公由来記/軍記物)。天正18年(1590)、佐竹氏に攻められ、小川城落城の際に小塙隼人は、近くの鹿島神社にて討ち死したとされる。	
		城主は、真家中務、奴多。天正19年(1591)、佐竹義宣が鹿島郡・行方郡に所在した「南方三十三館」の国人衆を太田城にて謀殺したが、芹沢氏は難を逃れた。芹沢氏の配下であった真家中務の子、奴多は、佐竹の仕打ちを怒り、南方三十三館の残党が芹沢に集結したことに呼応したが、途中で心変わりして、飯岡に引き返した。そこで、盟友であった小橋山館主、小橋大和の討ち死を知らされ、前原にて自決した。前原257番地の杉林に真家奴多の供養碑とされる石祠がある。また、奴多の妻の墓が「比丘尼塚」として、飯岡館の郭内にあったが、現在は削平されてしまった。平成27年に実施した発掘調査では、断面形が片箱薬研の堀跡1条を確認している。出土遺物から15世紀後半～16世紀に比定される。	177
		城主は、小橋大和。天正19年(1591)、佐竹義宣が鹿島郡・行方郡に所在した「南方三十三館」の国人衆を太田城にて謀殺したが、芹沢氏は難を逃れた。芹沢氏の配下であった小橋氏は、佐竹の仕打ちを怒り、南方三十三館の残党とともに芹沢に集結したが、討死した。	
		城主は、野口右京、宇兵衛、船尾山城守。野口氏は、江戸氏に属したが、のち、芹沢氏の配下となる。天正19年(1591)、佐竹義宣が鹿島郡・行方郡に所在する「南方三十三館」の国人衆を太田城にて謀殺しが、芹沢氏は難を逃れた。芹沢氏の配下であった野口氏は、佐竹の仕打ちを怒り、南方三十三館の残党ともに芹沢に集結したが、負傷を負い、のち、死亡した。佐竹の治世下では、船尾山城守が入城した。城内には、船尾山城守が普請したとされる八幡社が所在する。	
		南北朝期、大江広元の子孫と称する海東勝家を祖する12代定勝が築城したとされる。定勝は、貝谷、次田、宮内・館の越（上合）の4村を領した。天正年間には、芹沢氏の影響を受けたが、同族には、園部氏の重臣、海東越中守重定、中根山館主、海東長太夫がいる。佐竹氏の治世には、船尾山城守が下吉影城とともに支配下に置いた。	
		館主は新堀権守利氏。14世紀前半、下吉影の地頭となった鹿島権守利氏は、下吉影「アラジ」に居を構え、新堀権守利氏と名を改めた。鹿島権守の祖先は、鹿島神宮の社家、中臣鹿島氏。館内には、「お厩跡」の地名が残る。新堀館跡は、下吉影城の一部であると思われる。	
		本文掲載	
461-044	市	本文掲載	181
461-051		『海夫注文』によれば、南野荘安食郷は、小田氏四代の時知（1238－93）の子である安食越中守盛知が地頭とされ、弟盛知の子の兵部少輔知房が継承したと推測されている（『出島村史』）。また『小田系図』でも小田氏五代宗知の弟盛知が安食に住んだと記している。塙前集落と田子内・中道両集落との境近くに堀があり(畑中に黒土が深く入っており、それが一直線に続いている。）また「堀之内」という地名も残っている。それは堀から第二保育所までの範囲で面積約３㌶である。ここが本丸であろう。その西に大宮神社があり、堀之内との境には当時の土塁の名残りと思われる土手が一部残っていて、そこは土塁の形に地番も他と異なっている。この西側に屋号を二城内という家がある。二城内は二の丸の意味であり、地名が屋号となったものであろう（『出島村史』）。	182,184
461-130		（西成井）近世の書記録によれば、成井館は坂（佐賀）に本拠を置いていた坂氏一族の居館の一つと考えられる（『霞ヶ浦町遺跡分布調査報告書ー遺跡地図編ー』）。	
461-133		本文掲載	
461-147		来歴不明。	
461-208		本文掲載	
461-246		本文掲載	
461-290		本文掲載	
461-297		坂字折越にあり、大掾氏家臣要害氏の居館と伝えられる。『南城高家録』によると、三村城主大掾常春の家臣に龍界初太郎時直があり、元亀四年（1573）常春が小田氏治入道天庵に攻められたとき勇戦したことが見える。この龍界は要害の訛ったものと思われる（『出島村史』）。	
461-327		来歴不明。	
461-337		来歴不明。	
461-342		来歴不明。	
461-414		本文掲載	
461-466	市	本文掲載	
461-472		本文掲載	183
461-474		来歴不明。	
464-031	県	本文掲載	
464-032	県	本文掲載	
464-189	市	本文掲載	
464-265		来歴不明。	180

No.	名称	ふりがな	別称	所在地	座標		地図番号	立地				現況					残存遺構				
					北緯	東経		平地	丘陵台地	山地	その他	山林	水田	畑地	宅地	その他	曲輪	堀	土塁	切岸	その他
0673	権現山城	ごんげんやまじょう	権現山要害、権現山砦	かすみがうら市上志筑字権現下 石岡市半田字金山	36.1926	140.2181	49	○				○					○	○	○		虎口
0674	内出遺跡	うちでいせき		かすみがうら市下志筑字内出	36.1847	140.2450	49	○							○				○		
0675	西坪遺跡	にしつぼいせき		かすみがうら市東野寺字西坪	36.1716	140.2695	50	○						○	○		○	○	○		
0676	古館遺跡	ふるたていせき	古館	かすみがうら市西野寺字古館	36.1659	140.2562	58	○				○					○	○	○		
0677	願成寺	がんじょうじ	堀の内館、堀之内遺跡	かすみがうら市上志筑字堀ノ内	36.1845	140.2154	49		○							公共施設地		○	○		
0678	後庵城	ごあんじょう	不動山遺跡	かすみがうら市上稲吉字不動山	36.1407	140.2247	57		○					○	○	寺社境内地					
0679	山崎出城	やまざきでじろ		かすみがうら市戸崎字山崎	36.0733	140.2744	65	○				○		○			○	○	○		
0680	戸崎要害	やまざきようがい		かすみがうら市戸崎字流替	36.0779	140.2682	65	○				○		○			○	○	○		
0681	戸崎城西出城	とざきじょうにしでじろ		かすみがうら市戸崎字	36.0801	140.2676	65	○				○					○	○	○		
0682	右籾館	みぎもみやかた		土浦市右籾字小山	36.0488	140.1871	64		○			○						○	○	○	
0683	岩田館	いわたやかた		土浦市大岩田字廣見	36.0563	140.2077	64		○			○						○	○		
0684	南古屋敷館	みなみふるやしきやかた		土浦市小岩田東一丁目	36.0559	140.1949	64		○			○		○				○	○		
0685	高井城	たかいじょう		土浦市三高津入会地字古舘	36.0765	140.1773	64		○							寺社境内地					
0686	今泉城	いまいずみじょう		土浦市今泉字外山	36.1403	140.1890	57		○			○		○	○	寺社境内地		○	○		
0687	土浦城	つちうらじょう	亀城	土浦市中央一丁目	36.0850	140.1982	57	○								公共施設地		○	○		
0688	手野城	てのじょう		土浦市手野町字立	36.1019	140.2281	57		○			○		○				○	○		
0689	木田余城	きだまりじょう		土浦市木田余字中条	36.0927	140.2143	57	○					○	○	○	雑種地		○			
0690	沖宿堀の内館	おきじゅくほりのうちやかた		土浦市沖宿町字堀の内	36.0708	140.2559	65	○						○	○			○			
0691	神明・山川館	しんめい・やまかわやかた		土浦市常名字山川	36.1042	140.1842	57		○							雑種地					
0692	峯台城	みねだいじょう		土浦市上坂田字峯台	36.1101	140.1627	57		○			○						○	○	○	
0693	藤沢城	ふじさわじょう		土浦市藤沢字城内	36.1229	140.1537	57		○					○	○	雑種地	○	○	○		
0694	法雲寺城	ほううんじじょう		土浦市高岡字受庵	36.1292	140.1458	57		○			○				寺社境内地		○	○		
0695	永井城	ながいじょう		土浦市永井字大日	36.1547	140.1897	57			○		○						○	○		
0696	甲山城	かぶとやまじょう		土浦市大志戸字堂山上	36.1573	140.1678	57			○		○						○	○		
0697	田土部城	たとべじょう		土浦市田土部字村内	36.1282	140.1303	57	○							○			○	○		喰違
0698	上坂田館の内館	かみさかたたてのうちやかた		土浦市上坂田字タチノ内	36.1121	140.1651	57		○						○			○	○		
0699	下坂田屋敷内城	しもさかたやしきうちじょう		土浦市下坂田字屋敷内	36.1069	140.1728	57		○			○							○		虎口
0700	高岡丸ノ内館	たかおかまるのうちやかた		土浦市高岡字丸ノ内	36.1251	140.1376	57	○							○	雑種地			○		
0701	方穂故城	かたほこじょう	花畑城	つくば市花畑三丁目	36.1290	140.0940	56	○								公共施設地	○		○		虎口
0702	若森城	わかもりじょう		つくば市若森	36.1506	140.0869	56		○			○		○	○		○	○	○		
0703	長峰城	ながみねじょう	河上塔之台城、台豊田峰宿館、上郷城、台豊田城	つくば市上郷	36.1170	140.0035	56		○			○		○			○	○	○		
0704	手子生城	てごまるじょう		つくば市手子生	36.1056	140.0285	56	○						○	○		○	○			
0705	沼崎北遺跡	ぬまさききたいせき		つくば市沼崎	36.1177	140.0568	56	○				○		○	○		○	○	○		
0706	熊の山城	くまのやまじょう		つくば市高須賀	36.0709	140.0188	63		○			○		○							
0707	高須賀城	たかすかじょう	山田城	つくば市高須賀	36.0687	140.0175	63		○			○		○	○		○	○	○		
0708	谷田部城	やたべじょう		つくば市谷田部字田町	36.0345	140.0749	63	○	○			○		○	○	公共施設地	○	○	○		
0709	小野崎館	おのざきやかた	御城	つくば市小野崎字味城	36.0717	140.1087	63	○				○		○	○		○	○	○		
0710	吉館	ふるだて	熊倉館	つくば市吉館字神足	36.0150	140.0741	63	○				○		○	○			○	○		
0711	苅間城	かりまじょう		つくば市苅間字本屋敷	36.0857	140.0950	56	○				○		○	○			○	○		
0712	面野井城	おものいじょう		つくば市面野井字西ノ台	36.0747	140.0646	63	○				○		○							
0713	金田城	こんだじょう	強清水城	つくば市金田字館山	36.1010	140.1322	57		○			○		○			○	○	○		
0714	上ノ室城	うえのむろじょう	土佐山城	つくば市上ノ室字土佐山	36.0850	140.1357	57		○			○		○	○	公共施設地	○	○	○		
0715	花室城	はなむろじょう		つくば市花室字御城	36.0899	140.1339	57		○			○		○	○		○	○	○		
0716	古来館	ふるくやかた		つくば市古来字寺山	36.0921	140.1488	57	○					○	○	○		○	○			
0717	小田城	おだじょう		つくば市小田	36.1509	140.1105	56	○					○	○	○	公共施設地	○	○	○		櫓台ほか
0718	北条城	ほうじょうじょう		つくば市北条	36.1786	140.0945	48		○			○			○	公共施設地					
0719	多気城	たけじょう	城山城、多気故城	つくば市北条	36.1833	140.0895	48			○		○				寺社境内地	○	○	○		虎口
0720	筑波城	つくばじょう		つくば市筑波字東山	36.2105	140.1057	48			○		○		○							
0721	水守城	みもりじょう		つくば市水守	36.1703	140.0672	48		○			○		○	○	公共施設地	○	○	○		土橋、虎口
0722	前山城	まえやまじょう	舟ヶ城	つくば市小田	36.1569	140.1144	56			○		○					○	○			
0723	小泉館	こいずみやかた		つくば市小泉	36.1744	140.0836	48	○					○	○	○		○	○	○		
0724	小和田屋敷遺跡	こわだやしきいせき		つくば市小和田字屋敷	36.1675	140.1111	48		○		斜面	○		○				○	○		
0725	館宿城	たてしゅくじょう		つくば市吉沼	36.1426	140.0091	56		○			○		○	○		○	○	○		
0726	栗崎城	くりさきじょう	吉沼城	つくば市吉沼字坂本	36.1497	140.0100	56		○			○		○	○	寺社境内地	○	○	○		
0727	吉沼大坪館	よしぬまおおつぼやかた		つくば市吉沼	36.1471	140.0121	56		○			○		○	○	寺社境内地	○	○	○		

県包蔵地番号	指定	概要	発掘調査報告書番号
464-266 463-127		本文掲載	
464-272		「この館の主を考えると、鎌倉時代に活躍した益戸氏一族の居館ではなかろうか。」（『豊森山文殊院誌』）	
464-274		本文掲載	
464-275		本文掲載	
464-034		本文掲載	
464-234		本文掲載	
		本文掲載（「戸崎城」の項）	
		本文掲載（「戸崎城」の項）	
		本文掲載（「戸崎城」の項）	
203-062		伝承として、小田氏治頃の城主名に塚原内記（『東村誌』〔矢口豊司１９３４）より）と伝う。発掘調査では内郭（主郭）部全体の二分の一弱を調査。コの字状に廻る堀跡と土塁を発見する。平坦部では館跡に伴う遺構は検出されず。造成も不十分なことから調査者は未完成と推定する。花室川右岸の小支谷が入り込む舌状台地先端部に位置し、東西約１２０ｍ×南北約１４０ｍを測る。	185
203-147		本文掲載	
203-148		本文掲載	
203-160		桜川低地を北に望み、西から続く台地端部に位置する。現在八坂神社境内地（東西約９０ｍ×南北約６０ｍ）を残すのみで、国道６号バイパス建設に伴い大部分が隠滅する。明治１８年頃の迅速図では、既に台地と境内地は切断されている。境内裏には六騎塚と呼ばれる中世末の宝篋印塔が残る。南北朝時代に小田方（南朝方）の記録（康永３（１３４４）年「別府幸実軍忠状写」）が残る高井城跡といわれる。旧鎌倉街道に近接する。周囲の小字に「古館」「舘下」「下市場」「鍛治作」が残る。	
203-229	市	本文掲載	
203-266	県	本文掲載	186
203-434		本文掲載	
203-447	市	本文掲載	
203-454		本文掲載	
203-485		本文掲載	188,189 190,191 193,194
465-010		本文掲載	
465-019		本文掲載	
465-021		本文掲載	
465-064		本文掲載	
465-067		本文掲載	
465-074		本文掲載	
465-075		来歴不明。桜川北岸の標高約２９ｍの台地上に位置し、東西約７０ｍ×南北約５５ｍを範囲とする。幅３ｍの土塁と幅７ｍの堀跡がＬ字形に残る。土塁の曲がり部分に防空壕、西側に氏神２基がある。旧名称は上坂田館跡・上坂田館の内遺跡。小字で「りゅうげ（要害）」「堀の内」が残る。	
465-121		本文掲載	
465-134		本文掲載	
220-016		鎌倉時代には、『吾妻鏡』に記載のある片穂平五、片穂平六と、南北朝時代には『北畠分限帳』の片穂刑部少輔との関係が指摘されている（大穂町史）。暦応４年（1341）の小田城攻めに際して、高師冬などの北朝軍の本陣が、玉取に敷かれたとあり、本城が使用された可能性がある（『別府文書』『集古文書』）。室町の中頃に、小田氏の一族久保田氏の館として造られたとされる。天正８年（1580）久保田内匠助英孝が下妻多賀谷氏に滅ぼされる迄、小田氏の別邸として使われ、庭園には築山、泉水、花畑等があり、地方人は、「玉取の里」とか「お花畑」と呼んだといわれている（重要遺跡調査報告書）。江戸時代には、堀氏の陣屋として使用された。現在は、花畑近隣公園となっている。	
220-017		本文掲載	
220-031	市	本文掲載	
220-032	市	本文掲載	196,197
220-036		一帯の地名として、前山、内山、西山、溝添、大門先、門畑、房ノ下、小山などがある。確認調査では、城館に関係する遺構は確認できなかった。	
220-048		高須賀城より古い城で、高須賀の元屋敷といわれている。城館の痕跡や、中世遺物の散布は不明。	
220-049		建保２年（1214）豊田下総守治基の三男、山田遠江守が築城したとされる。中正路、経塚、堂山、古行屋、遠見塚の地名が残る。南東部分に経塚とされる一辺８ｍ、高さ1.5ｍの方形の高まりが遺存。東側の池も城館に関係する可能性がある。	
220-050		本文掲載	
220-074		本文掲載	
220-090		熊倉氏の館とされ、多賀谷氏との戦いに敗れて出奔したとされている。	
220-091		野中入道鈍斎の居城であったとされている。野中入道鈍斎は小田氏治の与党で、古河公方旗下柳橋豊前守の妹婿とされる。	
220-092		平井出伊賀が城主とされ、佐竹氏との争いに敗れ下妻の多賀谷氏に属した。かつては、土塁が遺存していたとされるが、現況では確認できない。	
220-122		本文掲載	257
220-123		本文掲載	198,199 251
220-124		本文掲載	215,246 249
220-125		本文掲載	223,225 245,248
220-139	国	本文掲載	200~213 236~243
220-196		長島尉信の絵図『郁子園雑記』に、「古城」として「道光ヤシキト云」「按ニコレトモト小田ノ支城、元亀中多賀屋ニ焚レシモコレナルヘシ」との註記がある。この城は伊賀守時家入道道国が築いたもので、同氏の子孫は小田氏に滅ぼされたとしている。また「道光ヤシキ」の「道光」とは大沢氏で阿波守を称しており、真壁氏の陣代として元亀・天正頃から慶長５・６年頃までの間、ここに居住したのではないかとする説がある。『小田家風記』には北条城主として「北条出雲守」とある。延元２年（1337）に、南朝方の城館として「北条城」あり。元亀３年（1572）、天正12年（1584）に北条で「辛労」を評価されており、北条城や多気城と関係があるか。北条の城山の南東の山裾に字古城という場所がある。三方を斜面に囲まれ、西側に城山がそびえる、平坦な台地の上で、現在は北条小学校の敷地になっている。昭和53年（1978）の改築の際に行なわれた発掘調査で、台地の軸線の方向に走る堀が確認されているが、これが城館に関するか否かは不明である。	
220-197		本文掲載	214,216 244
220-198		『筑波山流記綱要』によると、筑波八郎為氏（八田知家八男）の築城で、筑波家代々の居城であった。また『筑波誌』には「筑波字東山にあり」とあることから、筑波山南の山腹の標高２５０メートルほどのところにあったことになる。この付近には寺院跡や住居跡とみられるものはあるが明確な城の遺構は見当たらない。しかし、筑波氏は鎌倉～室町にかけて筑波神社の別当職を勤めていたため、この地に居館を構えた可能性もある。	
220-199		本文掲載	250,256
220-206		本文掲載	
220-208		本文掲載	217,218
220-211		来歴不明。『牛久市史　原始古代中世』では、北畠親房が住んだ城館の候補としている。斜面には低い段がいくつか作られており、段の上面は部分的に削平されている。先端部の北東側から南東側にかけて、地山を削り残して作ったらしい土塁が廻っている。土塁上と台地の裾との比高は約数メートルである。	
220-216		本文掲載（「栗崎城跡と周辺城館群」の項）	232,233
220-236		本文掲載（「栗崎城跡と周辺城館群」の項）	219
220-237		本文掲載（「栗崎城跡と周辺城館群」の項）	253

No.	名称	ふりがな	別称	所在地	座標		地図番号	立地				現況					残存遺構				
					北緯	東経		平地	丘陵台地	山地	その他	山林	水田	畑地	宅地	その他	曲輪	堀	土塁	切岸	その他
0728	吉沼大祥寺城	よしぬまだいしょうじじょう		つくば市吉沼	36.1415	140.0113	56		○			○		○	○	寺社境内地	○	○	○		
0729	吉沼笠根城	よしぬまかさねじょう		つくば市吉沼	36.1392	140.0072	56		○			○		○	○		○	○	○		
0730	大砂館	おおすなやかた		つくば市大砂	36.1420	140.0340	56	○						○	○			○	○		
0731	長高野城	おさこうやじょう		つくば市長高野	36.1385	140.0535	56	○				○		○	○	墓地	○	○	○		
0732	長高野岩崎館	おさこうやいわさきやかた		つくば市長高野	36.1320	140.0507	56	○				○		○	○	寺社境内地	○	○	○		
0733	篠崎館	しのざきやかた	堀ノ内館	つくば市篠崎	36.1283	140.0604	56	○				○		○	○		○	○	○		
0734	佐城	さじょう		つくば市佐	36.1592	140.0832	56		○			○		○	○		○	○	○		
0735	大曽根城	おおぞねじょう		つくば市大曽根	36.1395	140.0907	56		○			○		○	○	寺社境内地	○	○	○		
0736	玉取城	たまとりじょう		つくば市玉取	36.1301	140.1028	56		○			○		○	○		○	○	○		
0737	今鹿島館	いまがしまやかた		つくば市今鹿島	36.1236	140.0365	56	○					○	○	○	寺社境内地		○	○		
0738	野畑高野館	のばたこうややかた		つくば市野畑	36.1016	140.0405	56	○				○	○	○							
0739	前木館	まえきやかた		つくば市沼崎	36.1110	140.0504	56	○				○		○	○		○	○	○		
0740	沼崎城	ぬまさきじょう		つくば市沼崎	36.1223	140.0591	56	○				○		○	○		○	○	○		
0741	島名前野東遺跡	しまなまえのひがしいせき		つくば市島名字前野	36.0562	140.0596	63	○							○						
0742	大和田氏屋敷	おおわだしやしき		つくば市大白硲字和田山	36.0606	140.0726	63		○					○		工場敷地					
0743	手代木鷲ノ宮館	てしろぎわしのみやかた		つくば市手代木字鷲ノ宮	36.0651	140.0985	63	○				○		○		寺社境内地	○		○		
0744	柴崎片岡上館	しばさきかたおかかみやかた		つくば市柴崎字市之丞	36.1056	140.1185	56	○						○	○			○	○		
0745	中根屋敷附館	なかねやしきつきやかた		つくば市中根字屋敷附	36.1088	140.1386	57	○				○		○	○		○	○	○		
0746	寺具城	てらぐじょう	本田陣屋	つくば市寺具	36.1897	140.0294	48		○			○		○	○		○	○	○		
0747	大島城	おおしまじょう		つくば市大島	36.2235	140.0589	48	○			微高地			○	○		○	○	○		
0748	沼田竜替	ぬまたりゅうがい		つくば市沼田	36.2038	140.0866	48		○			○		○		寺社境内地		○			
0749	館城	たてじょう		つくば市神郡	36.1943	140.1022	48	○					○	○	○						
0750	小和田台城	こわだだいじょう		つくば市小和田	36.1654	140.1105	56		○			○		○	○		○	○	○		
0751	宝篋山城	ほうきょうさんじょう		つくば市小田	36.1676	140.1299	49			○		○						○			
0752	下岩崎館山館	しもいわさきたてやまやかた		つくば市下岩崎	35.9723	140.1050	70	○				○		○	○	寺社境内地	○	○	○		
0753	小山城	こやまじょう		つくば市小山	35.9873	140.0894	70		○			○		○		墓地		○	○		
0754	若栗御城	わかぐりみじょう	御城	つくば市若栗	36.0176	140.0965	63		○			○		○			○	○	○		
0755	高崎城	たかさきじょう	堀ノ内館	つくば市高崎	35.9921	140.1240	70		○			○		○	○		○	○	○		
0756	泊崎城	はっさきじょう		つくば市富士見台	35.9512	140.1166	70		○						○						
0757	九万坪館	きゅうまんつぼやかた		つくば市九万坪	36.0063	140.1005	63		○			○		○				○	○		
0758	上岩崎三角山館	かみいわさきさんかくやまやかた		つくば市上岩崎	35.9807	140.0939	70		○			○									
0759	下岩崎古館城	しもいわさきふるだてじょう	古館	つくば市下岩崎古舘	35.9674	140.1094	70		○			○		○			○	○	○		
0760	日輪寺城	にちりんじじょう		つくば市金田	36.1008	140.1425	57	○				○		○		寺社境内地			○		
0761	沼崎南館	ぬまさきみなみやかた		つくば市沼崎	36.1107	140.0650	56	○				○		○					○		
0762	足高城	あだかじょう		つくばみらい市城中字八幡山	35.9485	140.0960	70		○			○		○	○			○	○		
0763	三條院城	さんじょういんじょう		つくばみらい市板橋字大房地	35.9731	140.0555	70		○			○					○	○	○		
0764	板橋城	いたばしじょう		つくばみらい市板橋字本村	35.9796	140.0506	70		○					○	○				○		
0765	小張城	おばりじょう		つくばみらい市小張字城山	35.9824	140.0403	70		○			○		○	○	公共施設地			○		
0766	筒戸城	つつどじょう		つくばみらい市筒戸字馬場	35.9666	139.9929	69		○			○		○	○			○	○		
0767	守谷城	もりやじょう		守谷市本町字城内	35.9493	140.0050	70	○				○		○			○	○	○		
0768	高野館	こうややかた	今城、今城遺跡	守谷市けやき台３丁目	35.9313	139.9920	69		○						○						
0769	小文間城	おもんまじょう		取手市小文間字台道南耕地	35.8829	140.1060	77		○			○			○				○		
0770	大鹿城	おおしかじょう		取手市白山六丁目	35.9016	140.0567	77		○							公共施設地					
0771	下高井城	しもたかいじょう		取手市下高井字馬場	35.9302	140.0399	70		○						○	公共施設地	○	○	○		櫓台
0772	野々井城	ののいじょう	本能寺城	取手市小文間字台道南耕地	35.9146	140.0322	77		○						○	寺社境内地					
0773	岩井城	いわいじょう	文間城	利根町立木	35.8726	140.1691	78		○			○		○	○		○	○	○		
0774	布川城	ふかわじょう		利根町布川	35.8571	140.1399	78		○					○	○	寺社境内地	○	○	○		馬出
0775	奥山城	おくやまじょう		利根町奥山	35.8793	140.1655	78		○						○	寺社境内地	○				
0776	横須賀城	よこすかじょう	竜替城（新館）	利根町横須賀	35.8724	140.1615	78		○						○	公共施設地					
0777	龍ケ崎城	りゅうがさきじょう	龍が峰城	龍ケ崎市田町字古城	35.9092	140.1937	78		○			○		○	○	公共施設地	○	○	○		
0778	若柴城	わかしばじょう		龍ケ崎市若柴町字宿畑	35.9313	140.1508	71		○			○						○	○		
0779	馴馬城	なれんまじょう	馴馬沼田城、河内郡馴馬楯	龍ケ崎市馴馬町字山王台	35.9167	140.1738	71		○			○		○				○	○		
0780	屋代城	やしろじょう	八代城	龍ケ崎市城ノ内五丁目（旧八代町屋代）	35.9219	140.2075	71		○						○	公共施設地			○		
0781	貝原塚城	かいはらづかじょう	高井城	龍ケ崎市貝原塚町字城山	35.9429	140.2026	71		○			○		○				○	○		土橋
0782	泉城	いずみじょう	根小屋城、東条城、本郷カラメ遺跡	龍ケ崎市泉町字本郷・カラメ	35.9552	140.2108	71		○			○			○			○	○		虎口

県包蔵地番号	指定	概要	発掘調査報告書番号
220-239		本文掲載（「栗崎城跡と周辺城館群」の項）	254
220-242		本文掲載（「栗崎城跡と周辺城館群」の項）	
220-266		来歴不明。聞き取りでは、堀・土塁が確認できたようだが、1991年の分布調査時も未確認。第２次調査で、堀跡１条、溝跡５条などを確認した。	220
220-271		城主として、赤松氏が比定される。一帯には、後山、諏訪山、カウカ山、北山、新田山、沖、小鍋内、堀上、堂ノ入、清水井戸、御城、中城の地名が残る。1990年の分布調査時は、土塁・堀が良好に遺存したが、その後造成されてしまい確認できない。一部南の墓地で確認できるのみ。	
220-274		来歴不明。一帯には、堂ノ山、本田山、治平山、山ノ下、坊ノ下、中道、スク道、間先、本田間先、坪ノ内、大坊、堂ノ前、アガリ口、本田、延蔵堀、門先、堤崎、鳥井戸、折戸、西坪の地名が残る。	
220-287		城主として、信田氏が比定されている。一帯の地名として、堀ノ内、梶内、間々田、堂山、天神山、柳山、原山、向坪、西坪、古屋敷、表口、杭ノ下、鹿堀、堤添、一体道、中台が残る。	
220-300		本文掲載	
220-306		元亀元年（1570）に多賀谷政経が、大曽根に築城し、白井全洞をおいたとある（多賀谷家譜）そのほかの城主として大曽根氏、浅野氏が比定されている。一帯の地名として、中城、池ノ台、杉山が残る。聞き取りでは、県道西側の大曽根小学校付近にも土塁・堀があったとのことであるが、確認できない。	221
220-313		城主として、片穂氏、八田氏、小田氏、別府氏、結城氏、佐藤氏が比定される。暦応４年（1341）の小田城攻めに際して、高師冬などの北朝軍の本陣が、玉取に敷かれたとあり、本城が使用された可能性がある。一帯の地名として、谷津坪、東坪、西坪、北坪、中井台、旭台、八幡台、愛宕山、向山、大日山、御手洗、中井、鍋内、辰口、沓形、中新田、矢崎、妙見寺、代官屋敷、大膳屋敷、王松、仕置場、地蔵向などが残る。	
220-340		城主として、発智氏、上田氏、平沢氏が比定されている。一帯の地名として、古屋敷、嶋ノ内、十花山、小山、堀田、大堤、中坪、姥ガ淵、上屋敷、下屋敷、猫堤、新堤、溜井、中堀などが残る。鹿島神社を中心に堀・土塁が残る。	
220-348		城主は、横山氏が比定されている。一帯の地名として、中根山、迎山、前山、八幡山、神山、清水台、行人台、箕輪、新堀、本田、元屋敷などが残る。確認調査の結果、中世・近世に伴う遺構・遺物は確認できず、不明である。	
220-353		本文掲載	222,224 226,227
220-354		城主として、沼崎氏、北条氏が比定される。『豊里の歴史』には、沼崎城は当初前木にその後北八ヶ代に移転したとされるが、根拠不明である。一帯の地名として、本北谷ヶ城、北谷ヶ城、谷ヶ城、前山、裏山、門、門畑、台、台畑、筑戸、石橋、中道、熊野西、溝添、水入、郷山、大手前、馬場、関戸などが残る。	
220-389		本文掲載	228,229 230
220-422		現地には、大和田大膳亮屋敷址の碑がある。かつては下幅５m、高さ１mの土塁が遺存していたが、1980年の発掘調査で、堀が検出され無かったため、「館跡」ではなく、「屋敷跡」として削平された。	
220-445		来歴不明。神社境内の東に幅５m、高さ１～２mの土塁が遺存する。	
220-491		本文掲載	231,247
220-520		来歴不明。	
220-540		本文掲載	252,255
220-541		現在見られる遺構は真壁氏によって作られた可能性があり、慶長７（1602）年に佐竹氏が秋田へ移封のさいに廃城になったとされる。大島は小田-真壁、小田-下館を結ぶ交通の分岐点であり、約３キロ先に小田氏と佐竹氏が争奪戦を広げた海老ヶ島城がある。攻略拠点として、もしくは海老ヶ島城と小田城を結ぶ中継点としての軍事的要素が高まりなどから、早くから城が作られていた可能性もある。桜川とその支流大川に挟まれた、南北に長い舌状の微高地の先端部にあり、桜川が堀切となっている。現在は宅地や畑であるが、南北に３つの曲輪が並んでいたとされる。	
220-553		来歴不明。筑波山の南西の山裾から南方に延びる舌状台地を利用して築かれた城で、現在城内は雑木林と藪になっている。竜替とは城の西側に残る字名によるもので、要害（城郭の異称）が転訛したものである。	
220-554		筑波山神社の神職の一族である長戸家の居城跡といわれているが、明確な遺構は見当たらない。　付近に御城・中城・物見・館前などといった字が残っている。西側には十三塚という高さ２～３mほどの土手が南北に走っており、この土手が作られた時期や目的については不明であるが、ため池の土手、筑波山神社への参道などといった宗教施設、谷に囲まれた牧の囲いの一部、軍事施設とする説などがある。	
220-555		来歴不明。『牛久市史　原始古代中世』では、北畠親房が住んだ城館の候補としている。筑波山山塊の西側の山裾から、北西に延びる舌状台地の先端部の斜面に土塁が廻っている。土塁上と台地の裾との比高は約数メートルである。南東の台地続きに対しては、前述の土塁のへりにさらに土塁を作り、防御を強化しているが、その外側に堀切が見当たらない。もっとも本来堀切のあるべき位置の延長線上の西側斜面には、緩い竪堀が二重に掘られている。もしくは、堀切が後世に埋められた可能性もある。	
220-557		本文掲載	
220-565		小田治朝の六男岡野宮内少輔康朝が、応永３年（1396）に泊崎城に居住したとされ、その孫の岩崎勘解由がこの地を支配し、その岩崎家継子の岡野左衛門が築城したとされる。（茎崎町史）	
220-570		来歴不明。	
220-573		本文掲載	235
220-577		城主として、岡見氏の家臣である佐野内膳が居城したとされる。また、元亀・天正の頃に築かれ、城主は只越入道義尚とされ、天正16年（1588）に岡見忠正がここで自害したとされる（重要遺跡）。主要部分は城山団地内で、団地造成以前は要害と呼ばれていた場所であった。団地周辺に大手跡、土塁、空堀が残る。	
220-581		本文掲載	234
220-584		来歴不明。	
220-608		来歴不明。	
220-620		本文掲載	
		本文掲載	
		来歴不明。現況で土塁が一部遺存。	
		本文掲載	
482-015		本文掲載	
482-016		本文掲載	
482-017		本文掲載	258
483-012		本文掲載	
561-004	市	本文掲載	259~263
561-014		本文掲載	
217-010		来歴不明。取手市史には、土塁と堀の一部が確認できる、と記載されているが、現在は土塁の一部と思われる高まりが確認されるのみである。	
217-018		本文掲載	265
217-028		本文掲載	264,267 268
217-051		来歴不明。野々井地内にある白山神社には、この地が本能寺城の跡である、という伝承が残る。遺構が確認された記録はない。	
564-019	町	本文掲載	
564-024		本文掲載	
		『常総軍紀』によれば、布川の豊島紀伊守の次男半之丞が在城し、龍ケ崎の土岐氏に攻められ落城したとされる。（横須賀城の可能性もあり）	
		『常総軍紀』によれば、布川の豊島紀伊守の次男半之丞が在城し、龍ケ崎の土岐氏に攻められ落城したとされる。（奥山城の可能性もあり）	
208-002		本文掲載	
208-004		本文掲載	
208-008	県	本文掲載	
208-014		本文掲載	269~273
208-023		本文掲載	
208-025		本文掲載	

No.	名称	ふりがな	別称	所在地	座標		地図番号	立地				現況					残存遺構				
					北緯	東経		平地	丘陵台地	山地	その他	山林	水田	畑地	宅地	その他	曲輪	堀	土塁	切岸	その他
0783	長峰城	ながみねじょう		龍ケ崎市白羽三丁目（旧長峰町才ノ谷・宿）	35.9215	140.2305	71		○			○				公共施設地					
0784	登城山館	とじょうやまたて	登城山城、半田城	龍ケ崎市半田町字登城	35.9233	140.2360	71		○			○						○	○		土橋
0785	要害山館	ようがいやまたて	要害山城	龍ケ崎市半田町字要害	35.9285	140.2308	71		○			○						○	○		土橋
0786	大日山館	だいにちやまたて		龍ケ崎市塗戸町字富山	35.9232	140.2455	71		○			○						○	○		土橋ほか
0787	七曜城	しちようじょう	大塚城	龍ケ崎市大塚町字下ノ打	35.9468	140.2377	71		○			○		○	○			○	○		
0788	外八代城	そとやしろじょう	外八代遺跡	龍ケ崎市城ノ内五丁目（旧八代町新屋敷）	35.9218	140.2146	71		○						○	公共施設地					
0789	宝泉寺館	ほうせんじたて	宝泉寺城	龍ケ崎市泉町字宿屋敷	35.9542	140.2124	71		○			○		○	○	寺社境内地			○		
0790	羽原城	はばらじょう		龍ケ崎市羽原町字城ノ内	35.9256	140.1881	71		○			○		○	○			○	○		
0791	八幡台城	やわただいじょう		龍ケ崎市若柴町字八幡台	35.9410	140.1398	71		○			○		○		工場敷地	○	○	○		
0792	平野氏館	ひらのしやかた	北方平野館	龍ケ崎市北方町字根通	35.8805	140.1515	78		○			○			○			○	○		
0793	別所城	べっしょじょう		龍ケ崎市別所町字寺ノ内	35.9304	140.1817	71		○			○		○	○				○		
0794	白旗城	しらはたじょう		龍ケ崎市平畑	35.9158	140.1871	78		○			○				公共施設地					
0795	下高井城	しもたかいじょう	高井城下城	龍ケ崎市貝原塚町字向宿	35.9363	140.2034	71		○						○						
0796	屏風ヶ崎城	びょうぶがさきじょう		龍ケ崎市庄兵衛新田	35.9468	140.1395	71		○			○		○				○	○		
0797	牛久城	うしくじょう		牛久市城中町字城山	35.9530	140.1345	71		○			○			○	荒蕪地	○	○	○		土橋
0798	東林寺城	とうりんじじょう		牛久市新地町字身上	35.9623	140.1206	70		○			○		○			○	○	○		土橋
0799	岡見城	おかみじょう		牛久市岡見町字城山	35.9747	140.1728	71		○			○					○	○	○		櫓台
0800	久野城	くのじょう		牛久市久野町字延命寺山	35.9763	140.2165	71					○					○	○	○		
0801	小坂城	おさかじょう		牛久市小坂町字愛宕山	35.9665	140.1979	71		○			○				公共施設地	○	○	○		土橋
0802	桂城	かつらじょう		牛久市桂町字愛宕山	35.9797	140.2383	71					○					○	○	○		虎口
0803	遠山城	とうやまじょう		牛久市遠山町字湯崎	35.9518	140.1394	71		○					○			○	○	○		虎口
0804	願名字遺構	がんみょうじいこう	奥原城	牛久市奥原町	35.9471	140.2527	72		○							寺社境内地		○	○		
0805	下久野城	しもくのじょう		牛久市久野町	35.9698	140.2296	71		○							寺社境内地	○	○	○		
0806	正直城	しょうじきじょう		牛久市久野町	35.9529	140.2239	71		○							寺社境内地			○		
0807	立の越館	たてのこしやかた	真木後館	阿見町阿見字真木後	36.0453	140.2067	64		○			○						○	○		
0808	岡崎館	おかざきやかた	岡崎城	阿見町岡崎二丁目	36.0383	140.2212	64	○							○			○	○		
0809	大室城	おおむろじょう		阿見町大室字台	36.0398	140.2313	64	○							○				○		
0810	竹来館	たかくやかた	花ノ井館	阿見町竹来字花ノ井	36.0351	140.2359	64		○			○						○	○		
0811	掛馬館	かけうまやかた		阿見町掛馬字台山	36.0340	140.2426	64					○						○	○		主郭
0812	島津城	しまづじょう		阿見町島津字小作	36.0219	140.2593	65		○			○		○				○	○		
0813	塙城	はなわじょう	たて	阿見町塙字たて	36.0083	140.2617	65		○			○						○	○		本郭
0814	上条城	じょうじょうじょう		阿見町上条字城之内	36.0107	140.2399	64	○				○			○			○	○		
0815	若栗寄井館	わかぐりよりいやかた		阿見町若栗字寄井	36.0140	140.2310	64	○								雑種地		○	○		
0816	上長館	かみながやかた		阿見町上長字屋敷	36.0048	140.2072	64	○				○						○	○		
0817	上小池城	かみこいけじょう		阿見町小池字城ノ内	35.9930	140.1874	71	○				○		○	○			○	○		
0818	下小池城	しもこいけじょう		阿見町小池字御城	35.9867	140.1999	71	○				○				工場敷地	○	○	○		
0819	福田城	ふくだじょう		阿見町福田字古城	35.9799	140.2060	71	○				○		○	○			○	○		
0820	廻戸城	はさまどじょう		阿見町廻戸字東坪	36.0433	140.2231	64		○			○			○						
0821	篠崎館	しのざきやかた		阿見町吉原	35.9851	140.2325	71	○				○			○	寺社境内地		○	○		
0822	皿数館	さらかずやかた		阿見町竹来字皿数	36.0305	140.2353	64	○				○			○			○	○		
0823	陣屋敷遺跡	じんやしきいせき	陣屋敷城	美浦村牛込字陣屋敷	36.0229	140.3438	65		○							ゴルフ場					
0824	根本遺跡	ねもといせき	根本台城	美浦村根本字表口	36.0244	140.3468	65		○							雑種地					
0825	木曾ノ内遺跡	きそのうちいせき	大谷城（砦）	美浦村大谷字木曾ノ内	36.0014	140.3232	65		○							寺社境内地					
0826	御茶園館	おさえんやかた	御茶園遺跡	美浦村木原字御茶園	36.0169	140.3012	65		○			○				工場敷地					
0827	廣徳寺城	こうとくじじょう	木原門前遺跡	美浦村郷中字門前	36.0139	140.3013	65		○						○	寺社境内地	○	○	○		
0828	木原館	きはらやかた	楯縫館	美浦村郷中字岩久保	36.0109	140.2989	65		○			○		○	○		○		○		櫓台
0829	木原城	きはらじょう	城山	美浦村木原字本丸	36.0208	140.2900	65		○			○		○	○	公共施設地	○	○	○		
0830	舟子城	ふなこじょう	城ノ内遺跡	美浦村舟子字城ノ内	36.0259	140.2791	65		○			○			○			○	○		
0831	大谷根古屋城	おおやねごやじょう		美浦村大谷字根古屋	35.9977	140.3133	72		○			○					○	○	○		
0832	馬掛不動砦	まがきふどうとりで	馬掛城砦	美浦村馬掛字多古山	36.0244	140.3514	65		○			○				寺社境内地	○		○		桝形
0833	大須賀津根本台城	おおすかづねもとだいじょう	茂呂根本台城	美浦村宮地字天神	36.0187	140.3123	65		○			○			○						
0834	江戸崎城	えどさきじょう		稲敷市江戸崎甲字大宿	35.9543	140.3192	72		○					○	○	公共施設地	○	○	○		
0835	佐倉楯の台城	さくらたてのだいじょう	楯の台古墳群	稲敷市佐倉字楯の台	35.9768	140.3388	72		○			○				工場敷地					
0836	羽賀城	はがじょう	根小屋古墳	稲敷市羽賀字根小屋	35.9361	140.2929	72		○			○			○	寺社境内地	○	○	○		虎口等
0837	御城	おんじょう	高田須城、御城遺跡	稲敷市高田字御城	35.9556	140.3297	72	○					○	○	○	雑種地		○	○		
0838	森戸城	もりとじょう	二条城、君山城	稲敷市下君山字森戸代	35.9290	140.2740	72		○			○			○		○	○	○		虎口
0839	東条高田城	とうじょうたかだじょう		稲敷市高田字古ヤ	35.9539	140.3482	72		○			○			○		○	○	○		虎口
0840	椎塚城	しいづかじょう		稲敷市椎塚字台	35.9390	140.3433	72		○			○		○	○			○	○		
0841	神向寺城	じんこうじじょう	谷津遺跡	稲敷市下根本字谷津	35.9216	140.2673	72	○				○		○	○			○	○		
0842	東大沼城	ひがしおおぬまじょう		稲敷市東大沼字こや	35.9347	140.3542	72		○			○					○				
0843	二条城	にじょうじょう	竹内城、伊佐津城	稲敷市伊佐津字竹の台	35.9176	140.3052	72		○			○		○							
0844	東条城	とうじょうじょう	太田城	稲敷市下太田字城山	35.9222	140.3225	72		○			○		○		工場敷地					
0845	神宮寺城	じんぐうじじょう		稲敷市神宮寺字向道	35.9561	140.3684	72		○			○		○	○			○	○		
0846	浮島城	うきしまじょう	岡ノ内城	稲敷市浮島字岡ノ内	35.9718	140.4265	73		○			○		○		寺社境内地					

県包蔵地番号	指定	概要	発掘調査報告書番号
208-034		本文掲載	274,275 276
208-037		本文掲載	
208-038		城主は土岐氏家臣の半田九郎左衛門か。登城山城跡とひとつづきの台地に立地しており、城跡一帯に字要害という地名があることからこの名称で呼ばれることになったらしい。地元では「要害山館」と呼んでいる。東西100メートル、南北100メートルくらいの範囲に収まる小規模なもので、城というよりも防禦の強化された居館のようなものであったと思われる。合戦場という字名があるが、その由来は定かでない。	
208-039		本文掲載	
208-042		城主は土岐氏家臣の中島虎之助か。大塚という地名は，当地に七つの大塚があったことに由来する。これらの大塚は七曜星座にちなんで七曜塚とも呼ばれ，七曜城の名もこれによる。城跡というよりも方形館に付属施設がついた程度の土豪屋敷か。真福寺が天正年中，龍ケ崎城主土岐胤倫によって建立されたとの寺伝をもっており，大塚の地も龍ケ崎土岐氏の支配下にあったことが分かる。	
208-060		本文掲載	277
208-064		寺伝によれば、宝泉寺は弘治三年(1557)に土岐信濃守が建立したものであると伝えられており、宝泉寺に先立って居館跡が存在した可能性は十分にあるといってよい。この地が東条泉氏の本拠地の泉であることから、初めに東条泉氏の居館があり、16世紀半ばには廃館となっていた居館跡に、土岐氏の保護を受けた宝泉寺が新たに建てられたと考えられる。宝泉寺城跡は、泉集落の台地に北から入り込んでくる谷のすぐ東にあり、その周辺一帯には宿屋敷という地名がある。遺構は、その中心に建つ泉城城主東条氏の菩提寺である宝泉寺の境内周辺に残る。付近から中世の五輪塔・宝篋印塔約20基と大量の古銭が出土している。	
208-190		羽原の中心的勢力（土岐氏の家臣）の拠点となっていたところ。龍ケ崎城主土岐胤倫の家臣の中に、羽原村に住む増塩源左衛門・森田市左衛門・木村次郎左衛門らの名前が伝えられている。羽原城跡は、一番北側の「新地」の遺構群、中央の「城ノ内」の遺構群、一番南側の遺構群と大きく三つの部分に分けることができる。中心となっていたのが「城ノ内」の居館跡で、「新地」という地名からすると、北側の居館跡は「城ノ内」の館主の分家が新たに取り立てたところであると考えられる。	
208-217		牛久沼を東側から見渡せるという立地から、岡見側の拠点の一つと考えられる。	
208-270		家伝によれば、平野氏は下総の千葉氏の家臣であったが、千葉氏の没落後、この地に移り住んだという。平野氏の屋敷周辺の城郭遺構は、平野氏の移住後(16世紀末頃か)に形成されたと限定して考える必要はない。戦国期に布川豊島氏の家臣の居館が存在し、その跡に平野氏が移り住んだ可能性も十分ある。規模や立地などから見て、防御設備をもった土豪屋敷と考えられる。平野氏の屋敷内には、妙見菩薩がまつられており、そこに付近から出土したとされる武蔵型板碑(喜暦二年・1327年の銘がある)が収められている。	
		来歴不明。通常の舌状台地を利用した城の構造とやや異なり、台地上の緩斜面に方形館を並べたような印象を受ける。遺構が残存するところ一帯に「寺ノ内」という地名がついていることや、周辺には薬師堂や中世の五輪塔・板碑などが残っていることから、中世の寺院跡である可能性も考えられる。	
		1985年発行の『新版茨城県の歴史散歩』（山川出版社）では、「源頼朝の家臣下河辺政義の子孫が竜ヶ崎氏を称し、白旗城（竜ヶ崎城）を現竜ヶ崎一高のある高台に築き、その出丸を現竜ヶ崎二高のある古城に築いてこの地方を支配した。竜ヶ崎氏が結城合戦(1440年)で滅ぶと、江戸崎の土岐氏が竜ヶ崎地方に勢力をのばし、その出丸跡に城を構えた」とある。鈴木秀雄編『竜ヶ崎郷土史』では、下河辺政義の子孫が居館を構えた所は、「交通の要衝奈戸岡に近く、前面湿地帯を隔てて小貝川を眼下に見下す平畑の地、現竜一高の台地である」とし、下河辺氏の子孫が龍崎氏であったと述べている。	
		ここが東条荘内に属しているところから、東条氏の一族かその関係者か。貝原塚城跡と宿を挟んで向い側に位置する城郭。付近の水田から、鎌倉時代後期の紀年銘を有する大型の板碑が出土しており、その近辺に有力な在地領主とその居館が存在していたことをうかがわせる。『茨城県遺跡地図（平成2年版）』によると、「昭和55年に調査が行われたが、その後の住宅地の開発によって湮滅した」とある。	
		本文掲載	
219-003		本文掲載	282
219-012		本文掲載	
219-018		本文掲載	
219-019		本文掲載	
219-087	市	本文掲載	279,280 281
219-192		本文掲載	
219-193		本文掲載	
		来歴不明。	
		来歴不明。	
		来歴不明。	
443-009		本文掲載	
443-016		来歴不明。	
443-018		本文掲載	284
443-021		来歴不明。	
443-028		小田氏支配に始まって土岐氏支配で終っている。	
443-041		本文掲載	
443-052		本文掲載	
443-059		本文掲載	
443-060		ゴルフ場建設工事に伴い発掘調査を実施。遺構は、竪穴状遺構2基、空堀１条が検出された。遺物については、縄文・土器片と数点の磁器で、これに伴う住居址等の遺構も確認されなかった。	285
443-064		本文掲載	
443-072		岡見内記が城主といわれている。	
443-077		本文掲載	286
443-079		本文掲載	
443-099		来歴不明。	
		本文掲載	
		本文掲載	
442-003		1988年の発掘調査後ゴルフ場の造成により地形は改変された。測量調査により北南東の3つの台地とそれに挟まれた谷頭部がそれぞれ曲輪となっていたこと、空堀、溝・土塁、櫓台？等の遺構を確認し、随所に人為的に改変された地形が観察された。遺物は土器、陶器、古銭（熙寧元宝）等。陣屋敷はじめ小屋の前、根本台、表口、土手外等の地名が残る。縄張りは蛇行する痩せ尾根を活かした山城型。	289
442-005		開発に伴い発掘調査が行われたがその後開発が行われず現在は荒蕪地となっている。発掘調査では中世城館に関する遺構は検出されなかった。東の陣屋敷と谷を挟んだ東側に位置している。かつて台地上に郭・櫓台・土塁・堀・擂鉢郭・横矢掛り・虎口・腰・帯郭・古井戸・馬洗池などが確認されていた。表口、根本台、平、堀など城郭関連地名がみられる。山裾の低地にある集落は臣団の屋敷跡と思われ土塁や水堀跡に囲まれている。	290
442-045		大谷城砦の主は、伝承によると根古屋城主である秦野（波多野）刑部少輔秦治宗とされている。鹿島神社本殿裏に土塁、堀切状の遺構が観察される。神社北側台地は土取で消滅。	
442-059		本文掲載	291
442-060		本文掲載	
442-068		本文掲載	
442-073		本文掲載	292~295
442-076		本文掲載	
442-110		本文掲載	
		本文掲載	
		根本台は信太氏の家臣根本行信の居城（『日本城郭大系』P.152）とある。台地先端部から130m付近に堀切状地形がある。城域に重なる茂呂根本台古墳群第6号墳は監物塚と伝わる。台地北側部分の地名は根本台。	
441-001		本文掲載	296
441-022		南北朝時代には、佐倉楯または佐倉城が、南朝方に味方をした佐倉郷周辺の人々の戦いの拠点となっていて、楯の台が、佐倉楯の一部、または付属の防御施設であった可能性がある（『楯の台古墳群発掘調査報告書』）。楯の台古墳群として遺跡登録されているが、現在は西側の９割方は土取されて湮滅して、稲荷神社のある台地東端部が残るだけになっている。	
441-039		本文掲載（包蔵地番号は、城域と重複する「根古屋古墳」を指す。）	301
441-102		本文掲載	
441-127		本文掲載	
441-137		本文掲載	
441-147		本文掲載	
446-013		本文掲載	
446-034		南側斜面に段上の削平地が確認できる。西側には土塁状の高まりを残す。城館であれば北に位置する台地との区画があるはずであるが現状では確認されず。土塁状の痕跡についても氏神を祀る参道の痕跡とも解釈され城館跡ではない可能性も強い。東西に延びる大きな台地上には「西畑遺跡」（東大沼字西畑１３０外）が複合所在するが、当遺跡も東大沼城跡の一部と考えられる。	
446-035		本文掲載	
446-046	市	本文掲載	
448-001	県	本文掲載	
448-039		本文掲載	

No.	名称	ふりがな	別称	所在地	座標		地図番号	立地				現況					残存遺構				
					北緯	東経		平地	丘陵台地	山地	その他	山林	水田	畑地	宅地	その他	曲輪	堀	土塁	切岸	その他
0847	古渡城	ふっとじょう	古屋城、古谷城、小谷城、蔵前城	稲敷市古渡字古谷	35.9771	140.3520	72		○			○		○	○			○	○		
0848	堀之内リュウガイ城	ほりのうちりゅうがいじょう		稲敷市堀之内字舘	35.9683	140.3553	72		○			○			○		○		○		
0849	阿波竜貝城	あばりゅうがいじょう		稲敷市阿波字竜貝	35.9493	140.3850	73		○			○		○	○		○	○			
0850	笈ノ塚城	きゅうのつかじょう	笈ノ塚遺跡	稲敷市阿波字笈ノ塚	35.9516	140.3856	73		○			○					○	○	○		
0851	酒井城	さかいじょう		稲敷市四箇字酒井	35.9657	140.3855	73		○			○						○	○		
0852	阿波埼城	あばさきじょう		稲敷市阿波崎字天神台	35.9511	140.4162	73		○			○		○	○		○	○			
0853	大日城	だいにちじょう		稲敷市伊佐部字下台	35.9435	140.4179	73		○								○		○		
0854	殿山城	とのやまじょう		稲敷市伊佐部字中台	35.9428	140.4115	73		○												
0855	幸田城	こうだじょう		稲敷市幸田字台	35.9396	140.3802	73		○			○			○	雑種地	○		○		
0856	清水城	しみずじょう		稲敷市清水字立ノ内	35.9298	140.3488	72		○			○			○		○		○		
0857	古渡東城	ふっとひがしじょう		稲敷市古渡	35.9762	140.3569	72		○			○				寺社境内地					
0858	造谷館	つくりやたて		鉾田市造谷字舘久保	36.2340	140.5220	52		○			○				資材置き場		○	○		
0859	下太田館	しもおおたたて		鉾田市下太田字館	36.2644	140.5292	44		○			○						○			本丸、櫓
0860	天神山館	てんじんやまたて		鉾田市箕輪字天神道	36.2633	140.5215	44		○			○		○				○	○		
0861	畑田城	かまたじょう		鉾田市畑田字外城	36.1473	140.5251	60		○			○		○		寺社境内地	○	○	○	○	
0862	富士山館	ふじやまやかた		鉾田市畑田字えげ	36.1507	140.5307	60		○			○							○		虎口
0863	塙館	はなわたて		鉾田市畑田字塙館	36.1535	140.5348	60		○			○									
0864	馬場館	ばばやかた	小高根城	鉾田市畑田字堀之内	36.1546	140.5352	60		○			○		○			○	○	○		
0865	三階城	さんかいじょう	安房城	鉾田市安房字高野	36.1673	140.5132	52		○			○						○	○	○	
0866	鉾田城	ほこたじょう	御城、鉾田要害、鉾田館	鉾田市鉾田字御城	36.1533	140.5099	60	○			沖積地				○						塚
0867	徳宿城	とくしゅくじょう	龍替城	鉾田市徳宿字古城跡	36.1841	140.5201	52		○			○					○	○	○	○	
0868	野友城	のともじょう	要害	鉾田市野友字要害	36.1467	140.4852	59		○			○		○				○	○	○	
0869	郷士館	ごうしやかた		鉾田市串挽字後山	36.1427	140.5066	60		○			○				墓地					塚
0870	串挽砦	くしひきとりで		鉾田市串挽字新田	36.1451	140.5016	60		○			○						○	○		
0871	田山館	たやまたて	城がまえ	鉾田市徳宿字田山	36.1969	140.5083	52		○			○					○	○	○		
0872	関戸館	せきどやかた		鉾田市徳宿字関戸	36.1940	140.5065	52		○			○							○		
0873	稲子沢館	いなござわやかた	長者屋敷	鉾田市徳宿字稲子沢	36.1968	140.5015	52		○			○							○		
0874	高野城	こうやじょう		鉾田市安房字高野	36.1674	140.5208	52		○			○					○	○	○		
0875	要害城	ようがいじょう		鉾田市安房字要害	36.1698	140.5125	52		○			○					○	○	○	○	土橋
0876	堀ノ内砦	ほりのうちとりで	堀ノ内館、枡形	鉾田市青柳字大上	36.1751	140.4574	51		○			○							○		
0877	蕨砦	わらびとりで	蕨館、桝形山	鉾田市青柳字古尾台	36.1671	140.4630	51		○			○							○		
0878	母貝館	ははがいやかた		鉾田市畑田字母貝	36.1468	140.5402	60		○			○		○				○	○		
0879	龍ケ谷館	りゅうがや（りゅうがたに）やかた		鉾田市畑田字古鍬ノ上	36.1615	140.5499	60		○			○		○					○		
0880	勧請地館	かんじょうち（かんせいじ）やかた		鉾田市畑田字福寿寺	36.1598	140.5438	60		○			○							○		
0881	金色館	かなしきやかた		鉾田市畑田字金色	36.1570	140.5452	60		○			○							○		
0882	大樋上館	おおどうえやかた		鉾田市畑田字関場	36.1521	140.5372	60		○							太陽光発電					
0883	佐御城	さみじょう		鉾田市鉾田字佐御城	36.1583	140.5241	60		○			○		○					○		
0884	雑賀殿館	さいがどのやかた		鉾田市当間字新里	36.1641	140.4756	59		○			○			○			○	○		
0885	紅葉城	もみじじょう	御陣屋	鉾田市紅葉字真崎	36.2129	140.4256	51		○			○		○	○			○	○		
0886	冨田城	とみたじょう		鉾田市下冨田字香取	36.1953	140.4508	51		○			○				寺社境内地	○	○	○		土橋
0887	武田城	たけだじょう		鉾田市二重作字古屋山	36.1302	140.5494	60		○			○					○	○	○		
0888	梶山城	かじやまじょう		鉾田市梶山字峰	36.1096	140.5361	60		○			○		○				○	○		
0889	原山館	はらやまやかた		鉾田市梶山字原山	36.1139	140.5541	60		○					○	○			○	○		
0890	阿玉城	あだまじょう		鉾田市阿玉字寺後	36.0995	140.5462	60		○			○		○		寺社境内地		○	○		
0891	札城	ふだじょう		鉾田市札字城の内	36.0860	140.5473	60		○			○			○	寺社境内地	○	○	○	○	
0892	中居城	なかいじょう		鉾田市中居字城の内	36.0836	140.5664	60		○			○					○	○	○		土橋等
0893	新館館	にいだてやかた		鉾田市中居字新館	36.0774	140.5596	67		○			○					○	○	○		
0894	西山館	にしやまやかた		鉾田市飯島字西アラク	36.0877	140.5815	60		○			○					○	○	○		
0895	泉館	いずみやかた		鉾田市大蔵字泉道山	36.0929	140.5570	60		○						○			○	○		
0896	札館	ふだやかた		鉾田市札字立の峰	36.0881	140.5507	60		○			○					○		○		
0897	阿玉舘	あだまやかた		鉾田市阿玉字道祖神	36.1024	140.5521	60		○			○						○	○		
0898	金弓館	きんゆうやかた		鉾田市下太田	36.2581	140.5268	44		○			○					○	○	○		枡形
0899	館ノ久保城	たてのくぼじょう		鉾田市札	36.0784	140.5553	67		○							土砂採取場					
0900	相賀城	おうかじょう	根小屋城	行方市根小屋字入	36.0186	140.5358	67		○			○		○		寺社境内地	○	○	○	○	
0901	麻生城	あそうじょう	羽黒城	行方市麻生樓戸	35.9900	140.4803	73		○			○				公園	○	○	○	○	
0902	古屋城	こやじょう		行方市行方字古屋	36.0430	140.4644	66		○			○		○	○		○	○	○		
0903	島並城	しまなみじょう		行方市島並字登城	36.0156	140.4756	66		○			○				寺社境内地		○	○		
0904	小高城	おだかじょう		行方市小高字中城	36.0376	140.4751	66		○			○		○			○	○	○	○	
0905	中城	なかじょう	行方城、八甲城	行方市行方字内宿	36.0529	140.4625	66		○			○		○	○		○	○	○		
0906	船子城	ふなこじょう	要害城	行方市行方字居屋敷	36.0478	140.4518	66		○			○		○		寺社境内地		○	○	○	
0907	富田城	とみたじょう		行方市富田字霞	35.9861	140.4995	73		○						○						
0908	鴨山城	かもやまじょう		行方市矢幡字鴨山 潮来市大賀字ツツケ	35.9940	140.5391	74		○							ゴルフ場					
0909	二本木城	にほんぎじょう		行方市麻生字二本木	35.9987	140.4899	73		○							荒蕪地					
0910	城之内遺跡	じょうのうちいせき		行方市小牧字城之内	36.0450	140.5263	67		○							ゴルフ場					
0911	板峰砦	いたのみねとりで		行方市板峰	36.0404	140.5236	67		○			○		○		ゴルフ場					
0912	小屋ノ内城	こやのうちじょう		行方市麻生字古屋ノ内	35.9943	140.4853	73		○							荒蕪地					
0913	堀之内城	ほりのうちじょう		行方市南字堀之内	36.0275	140.4742	66		○			○		○				○	○		
0914	出し山館	だしやまやかた	出志山館	行方市矢幡字出し山	36.0043	140.5276	67		○					○				○	○		
0915	要害城	ようがいじょう	矢幡要害	行方市矢幡字上ノ台	36.0091	140.5337	67		○			○						○	○		
0916	石神城	いしがみじょう		行方市石神字上ノ久保	36.0173	140.5188	67		○			○		○				○	○		
0917	橋の台城	たてのだいじょう		行方市根小屋字発毛	36.0221	140.5278	67		○			○		○				○	○		
0918	龍田城	こもたじょう		行方市籠田字古屋敷	36.0511	140.5317	67		○			○		○			○	○	○		
0919	小牧館	こまきやかた		行方市小牧字城之内	36.0464	140.5270	67		○			○		○			○	○	○		
0920	石堂砦	いしどうとりで		行方市小牧字石堂	36.0429	140.5319	67		○			○					○		○		
0921	小屋下城	こやじたじょう		行方市麻生字小屋下	36.0011	140.4866	66		○			○					○	○	○		
0922	代田館	だいたやかた		行方市井貝字代田	36.0377	140.4687	66		○			○					○		○		
0923	山田城	やまだじょう		行方市山田字妙義台	36.0747	140.5269	67		○			○				寺社境内地	○	○	○	○	
0924	古舘遺跡	ふるだていせき		行方市山田字古舘	36.0764	140.5321	67		○			○		○							虎口
0925	前館	まえだて		行方市山田字前館	36.0752	140.5217	67		○			○		○				○	○		
0926	古屋敷遺跡	ふるやしきいせき		行方市山田字古館	36.0827	140.5230	67		○												
0927	神明城	しんめいじょう	武田城	行方市両宿字神明	36.1032	140.4902	59		○			○	○	○				○	○		
0928	木崎城	きさきじょう	武田城	行方市内宿字御城	36.0981	140.5084	60		○			○		○	○	寺社境内地	○	○	○	○	土橋
0929	小幡城	おばたじょう		行方市小幡字荒屋	36.0744	140.4831	66		○			○			○	寺社境内地		○	○		

県包蔵地番号	指定	概要	発掘調査報告書番号
448-052		本文掲載	
448-062		連郭式の城館跡と考えられる。台地上西縁辺部と直下の微高地を巧みに利用している。西側台地上に「内小屋遺跡」（堀之内字内小屋２５５外）が存在するが本城跡に伴う根小屋の可能性が考えられている。銚子街道（現国道１２５号）の通行を監視できる位置にある。	
448-067		神宮寺城の出城との伝承が残り、俗称「竜貝城」と呼ばれている。舌状台地の地形に沿って帯曲輪が残る。現況は荒地のため詳細不明。	
448-068		来歴不明。	
448-078		中世の連郭式城館跡を推定できる形状を留める。	
449-001	県	本文掲載	297
449-004		本文掲載（「阿波崎城跡と周辺城館群」の項）	
449-007		本文掲載（「阿波崎城跡と周辺城館群」の項）	
449-016		西側部分が主郭、土塁が良好な状態で遺存し、東に向け順次下位の郭を配置する。国道１２５号沿いの　集落は根小屋の痕跡と推考される。	
449-036		主郭とみられる部分は削平を受け湮滅している。	
		本文掲載	
401-024		来歴不明。土砂採取により一部湮滅。	
401-033		本文掲載	
401-140		本文掲載	
402-038		本文掲載	302
402-039		本文掲載	
402-040		来歴不明。烟田八館の一つ。単郭方形館。土砂採取により大半を湮滅。	
402-041		本文掲載	
402-042	市	本文掲載	
402-043		鹿島親幹又はその父、孝幹の築城とされる。市街地のため旧状不明。旧郭跡の人形塚と称する塚１基を残すのみ（包蔵地カード）。	
402-044	市	本文掲載	
402-045		本文掲載	
402-046		来歴不明。高さ１ｍほどの土塁がめぐっていたというが、旧串引小学校の裏山に塚状の高まりを残すのみ（包蔵地カード）。	
402-047		来歴不明。二重の土塁と土塁間に堀があるというが詳細不明（包蔵地カード）。	
402-075		来歴不明。主郭と馬出し、土塁、堀が残る（包蔵地カード）。	
402-076		来歴不明。高さ1.5mほどの土塁が南側の虎口部分を除き、五角形状にめぐる（包蔵地カード）。	
402-077		来歴不明。	
402-078		本文掲載	
402-079		本文掲載	
402-099		本文掲載	
402-100		本文掲載	
402-109		来歴不明。烟田八館の一つ。単郭方形館。湮滅。	
402-110		来歴不明。烟田八館の一つ。単郭方形館か。半分湮滅。	
402-111		来歴不明。烟田八館の一つ。単郭方形館。東西85m、南北57mの範囲に高さ1.5mの土塁が南側を除きめぐる。東辺中間部が3mほどの入口状の切通しとなっている（包蔵地カード）。北東面を除き湮滅。	
402-112		本文掲載	
402-113		来歴不明。東西60m、南北40mの範囲に、自然地形に沿って変則的な六角形の形に高さ２ｍほどの土塁がめぐっていた。平成9年の発掘調査では館内から柱穴等は確認されず、土塁も完成していない状況であったことから館は築造途中であったと考えられた。現在は土砂採取のため湮滅（包蔵地カード）。	305
402-114		来歴不明。遺構不明瞭。	
402-115		本文掲載	
402-116		城主は常陸大掾氏の持地氏。	304
402-118		本文掲載	
403-002		本文掲載	
403-004		城主は梶山時家。県道バイパス開通により大部分湮滅。	303
403-005		来歴不明。１辺100mほどの南北にやや長い方形館跡（包蔵地カード）。	
403-007		本文掲載	
403-009		本文掲載	
403-011	市	本文掲載	
403-012		来歴不明。開析谷に延びる舌状台地先端部に立地する。三つの曲輪からなる連郭式の城館。	
403-023		本文掲載	
403-034		来歴不明。昭和４０年代に宅地造成のため湮滅、高さ２ｍ幅１ｍの土塁、幅１ｍ深さ１ｍ程の空堀があったと言われる。	
403-035		来歴不明。小規模な土塁で二つの曲輪に分割される（包蔵地カード）。	
403-044		本文掲載	
		本文掲載	
		中居城の出城。湮滅。	
421-012		本文掲載	320
421-014		本文掲載	
421-015		本文掲載	
421-016		本文掲載	
421-024		本文掲載	
421-032		本文掲載	
421-038		本文掲載	
421-039		行方氏の支族、富田吉幹の居城とされる。大掾一族の動乱に巻き込まれ、天文年間に玉造氏に滅ぼされたという。また「水府史料」では、館跡は「中山」と「かすみ」の２ヶ所にあり、佐竹家臣斉藤三河守が５千石を領していたという。1961年当時三曲輪が認められていたが、現在町営霞住宅となっている。	
421-042 223-049		矢幡氏か土子氏の居館であったと推測される。城域は行方市と潮来市に広がる。四つの曲輪と出丸からなる連郭式。平成元年の発掘調査で土塁、堀、虎口、掘立柱建物、柵列などが確認されたが、ゴルフ場開発により湮滅（包蔵地カード）。	310
421-043		来歴不明。土砂採取に先行して発掘調査され、土塁、堀、土橋、掘立柱建物などが確認された。南西に突き出す台地の北側最高所に占地する単郭の砦とみられる。現在は湮滅（包蔵地カード）。	306
421-047		平成７年ゴルフ場開発に伴い調査したが来歴、遺構状況等不明。湮滅。	
421-049		平成７年ゴルフ場開発に伴い調査したが来歴、遺構状況等不明。	
421-054		来歴不明。平成9年に土砂採取に伴い発掘調査が行われた。三つの曲輪からなり、土塁、堀が確認されたが現在は湮滅（包蔵地カード）。	
421-092		来歴不明。土塁、空堀があり、地形に沿って曲輪を配する連郭式か。分布調査で内耳土器や陶器片の散布を確認した（包蔵地カード）。	
421-128		来歴不明。堀跡、土塁を確認。単郭式か（包蔵地カード）。	
421-132		来歴不明。土塁を確認。単郭式か（包蔵地カード）。	
421-142		下河辺忠長が築いたものだといわれている。城域は東西300m、南北350mほどの台地先端部全域に及ぶ。土塁、空堀があり、いくつかの曲輪からなる連郭式（包蔵地カード）。	
421-159		来歴不明。大部分が土採取により消失。土塁の一部、空堀、虎口等が一部現存するのみ。	
421-226		篭田氏の居館であったと考えられる。	
421-227		城主は小牧弥十郎であるといわれるが、詳細は不明である。	
421-243		来歴不明。台地先端部に位置し、土塁で南北を分け斜面に曲輪を２、３段配置する（包蔵地カード）。	
421-281		本文掲載	
421-287		本文掲載	
424-012		本文掲載	
424-013		古舘は、山田氏が、山田城を築いて移る前の古い館があった所であるという。	312
424-014		本文掲載	
424-015		古屋敷は山田城の山田太郎左衛門の持ち城の１つであったという。	311
424-016		本文掲載	314
424-017	市	本文掲載	313
424-018		本文掲載	

No.	名称	ふりがな	別称	所在地	座標		地図番号	立地				現況					残存遺構				
					北緯	東経		平地	丘陵台地	山地	その他	山林	水田	畑地	宅地	その他	曲輪	堀	土塁	切岸	その他
0930	古屋台館	こやだいやかた		行方市吉川字古屋台	36.0579	140.5371	67		○						○						
0931	西館	にしだて		行方市次木字西館	36.1038	140.4872	59	○				○						○			
0932	内宿館	うちじゅくやかた		行方市内宿字新城	36.1020	140.4990	59		○			○			○	寺社境内地		○			
0933	前原館	まえはらやかた	繁昌城	行方市繁昌	36.0592	140.5183	67		○					○				○	○		
0934	小貫城	おぬきじょう		行方市小貫字古屋堀	36.1075	140.4748	59		○			○		○				○	○		本丸跡
0935	長野江向山城	ながのえむかいやまじょう	長野江向山遺跡	行方市長野江	36.1238	140.5121	60		○			○									
0936	内宿井戸作城	うちしゅくいどさくじょう		行方市内宿字井戸作	36.1016	140.5023	60		○			○						○	○		
0937	玉造城	たまづくりじょう	溺の城	行方市玉造甲	36.1098	140.4165	59		○			○		○	○		○	○	○	○	
0938	手賀城	てがじょう		行方市手賀	36.0917	140.4320	59		○			○		○			○	○	○	○	虎口
0939	芹沢城	せりざわじょう		行方市芹沢	36.1405	140.4256	59		○			○		○	○	寺社境内地		○	○		虎口
0940	沖洲館	おきすやかた	佐竹館	行方市沖洲	36.1490	140.3717	58		○			○		○					○		
0941	羽生館	はにゅうやかた		行方市羽生	36.1445	140.3839	59		○			○		○		寺社境内地	○	○	○		
0942	野口館	のぐちやかた	谷島館	行方市浜	36.1245	140.4057	59	○				○		○				○			
0943	山中館	やまなかやかた		行方市芹沢	36.1329	140.4286	59		○			○						○	○		虎口
0944	鳥名木館	となぎやかた		行方市手賀	36.0971	140.4319	59		○			○		○				○	○		
0945	小貫館	おぬきやかた		行方市西蓮寺	36.0717	140.4393	66		○			○				寺社境内地		○	○		虎口
0946	塙館	はなわやかた		行方市八木蒔	36.1301	140.3954	59		○			○		○	○		○		○		
0947	箱根館	はこねやかた		行方市浜	36.1097	140.4029	59		○			○					○	○	○		
0948	捻木館	ねじきやかた		行方市捻木	36.1372	140.4209	59		○					○	○				○		
0949	蕨館	わらびやかた	鈎玄屋敷	行方市芹沢	36.1375	140.4263	59	○				○			○						
0950	石神館	いしがみやかた		行方市玉造乙	36.1155	140.4162	59		○			○		○			○	○	○		
0951	人見館	ひとみやかた		行方市井上	36.0649	140.4332	66		○			○				墓地	○				
0952	右近館	うこんやかた		行方市藤井	36.0579	140.4429	66		○			○							○		塚状盛土
0953	姥ヶ谷長者館	うばがやちょうじゃやかた		行方市玉造甲	36.1002	140.4352	59		○							公共施設地					
0954	若常館	わかつねやかた	若舎人館	行方市捻木	36.1309	140.4130	59		○			○					○		○		
0955	稲荷館	いなりやかた		行方市手賀	36.0855	140.4254	59		○			○		○		寺社境内地	○	○			
0956	藤井平館	ふじいだいらやかた		行方市藤井	36.0559	140.4484	66		○			○		○	○		○		○		虎口
0957	諏訪館	すわやかた		行方市藤井	36.0546	140.4452	66		○			○				寺社境内地		○	○		虎口
0958	京ノ内館	きょうのうちやかた		行方市藤井	36.0549	140.4482	66		○					○			○				
0959	岡部館	おかべやかた		行方市井上古屋平	36.0595	140.4383	66		○			○		○				○	○	○	
0960	中坪城	なかつぼじょう		行方市山田	36.0786	140.5271	67		○			○					○	○	○		虎口
0961	高岡城	たかおかじょう		行方市北高岡	36.0736	140.5006	67		○			○		○			○	○	○	○	
0962	小高砦	おだかとりで	クチツカ遺跡	行方市小高	36.0241	140.4670	66		○							墓地		○			
0963	栗生城	あおうじょう	花山城、香山城	鹿嶋市栗生字御城	35.9461	140.6558	75		○			○		○	○	寺社境内地					
0964	館山城	たてやまじょう		鹿嶋市鉢形字前山	35.9540	140.6514	75		○						○	寺社境内地			○		
0965	鹿島城	かしまじょう	吉岡城	鹿嶋市城山一丁目	35.9686	140.6220	74		○							公共施設地	○	○	○	○	土橋
0966	竜会城	りゅうかいじょう	流海城	鹿嶋市山之上字竜会	35.9886	140.6176	74		○							公共施設地	○		○		
0967	塚原館	つかはらやかた	塚原城	鹿嶋市沼尾字根山	35.9923	140.6035	74		○			○		○			○	○	○	○	井戸
0968	明地野館	みょうちのやかた		鹿嶋市中字明地野	36.0222	140.6047	67		○							公共施設地		○	○		
0969	林城	はやしじょう	林外城	鹿嶋市林字外城	36.0070	140.6091	67		○			○				雑種地	○	○	○		
0970	林中城	はやしなかじょう	桂山城	鹿嶋市林字中城	36.0103	140.6118	67		○			○			○	雑種地	○	○	○		惣構え
0971	立原城	たちはらじょう		鹿嶋市和字館	36.0273	140.5952	67		○			○		○	○						
0972	春秋館	はるあきやかた		鹿嶋市和字岨	36.0364	140.5975	67		○			○							○		
0973	塙館	はなわやかた		鹿嶋市和字西屋敷	36.0377	140.5904	67		○						○				○		
0974	赤山館	あかやまやかた	赤山砦	鹿嶋市和字赤山	36.0357	140.5874	67		○			○					○		○		
0975	楯の宮館	たてのみややかた		鹿嶋市立原字楯の宮	36.0302	140.5938	67		○			○			○	雑種地	○	○			
0976	津賀城	つがじょう		鹿嶋市津賀字城山	36.0374	140.5808	67		○							公共施設地	○	○	○	○	
0977	津賀館	つがやかた		鹿嶋市津賀字平	36.0399	140.5782	67		○			○									
0978	武井城	たけいじょう		鹿嶋市武井字古屋	36.0515	140.5746	67		○			○		○	○		○		○		
0979	甲頭城	かぶとうじょう	武井城、兜城	鹿嶋市武井字城山	36.0473	140.5858	67		○			○						○	○		
0980	志崎城	しざきじょう		鹿嶋市志崎字半三	36.0628	140.5732	67		○			○									
0981	小田辺城	おたべじょう		鹿嶋市中	36.0118	140.5913	67		○			○				寺社境内地	○	○	○	○	
0982	中城	なかじょう		鹿嶋市中	36.0187	140.5993	67		○			○		○	○	雑種地		○	○		
0983	新城	にいじょう		潮来市大生字松輪	35.9935	140.5552	74		○			○							○		
0984	鳳凰城	ほうおうじょう	鳳凰台城	潮来市大生字鳳凰	35.9964	140.5545	74		○			○		○		寺社境内地			○		
0985	島崎城	しまざきじょう		潮来市島須字根小屋	35.9615	140.5351	74		○			○		○	○	寺社境内地	○	○	○	○	井戸
0986	大台城	おおだいじょう	堀之内大台城	潮来市堀之内字大台	35.9662	140.5254	74		○			○				公共施設地					出城
0987	永山城	ながやまじょう	長山城	潮来市永山字後堀城内	35.9742	140.5137	74		○			○				公共施設地		○	○	○	
0988	大台城西出城	おおだいじょうにしでじろ		潮来市堀之内	35.9694	140.5225	74		○							太陽光発電					
0989	豊田城	とよたじょう	花ヶ崎城	神栖市萩原字豊田	35.8657	140.6690	82	○					○			寺社境内地	○	○	○		
0990	石神城	いしがみじょう		神栖市石神字御城	35.8683	140.6509	82	○					○	○	○	寺社境内地		○			
0991	馬城遺跡	ばあじろいせき		神栖市下幡木字馬場城	35.9191	140.6305	75	○						○	○						

県包蔵地番号	指定	概要	発掘調査報告書番号
424-019		おそらくは山田城の山田氏の支城ではないかと推測される。	
424-020		武田氏に属した家臣の居館、もしくは神明城の西側を防備するための出城的な機能を持った施設であったのではないかと推測する。土砂採取により湮滅。	
424-067		本文掲載	
424-068		築城者は下河辺忠國または下河辺忠元とされているが未詳。	
424-082		本文掲載	
424-090		平成12年に発掘調査。武田氏関連の城館と考えられる。湮滅。	316
424-093		来歴不明。発掘調査により土塁、堀が確認され、中世城館の一部とされた。	315
425-005		本文掲載	307,308 309
425-006		本文掲載	
425-007		本文掲載	
425-008		本文掲載	
425-009		本文掲載	
425-010		玉造城主玉造氏の家臣であった、野口山城という者の居館であったという。	
425-012		本文掲載	
425-012		本文掲載	
425-013		本文掲載	319
425-014		塙氏の居館で、天正年間、塙佐中という者がいたという。	
425-015		箱根東六郎という者の居館であったという。一部欠失する。	
425-016		天正年間、捻木新左衛門というものが居館としていたという。土塁・堀は開墾により埋められ、全体像がつかめない。	
425-017		芹沢秀勝の次男が養子となってここに入り、蕨氏を称したという。本家と同様、医者になったと伝えられている。空堀があったとされるが現況では不明。	
425-019		玉造氏の家臣石神氏の居館とされる。要害として伝承され、単曲輪で「空堀」をもち、「横矢かがり」を認める戦国期の要害。	
425-021		本文掲載	
425-023		本文掲載	
425-026		玉造運動場（旧玉造町総合運動場）建設のため発掘調査を行い湮滅。	
425-028		本文掲載	
425-063		来歴不明。字名は要害。単曲輪に帯曲輪をめぐらす。	
425-064		塙氏の居館で、天正年間、塙佐中という者がいたという。四つの曲輪からなり、土塁、虎口が残る。	
425-065		本文掲載	
425-066		隣接の藤井平館の要害か。砦部分は、一部　古墳の埋葬施設。石材露呈。	
421-022		本文掲載	
		本文掲載	
		本文掲載	
		クチツカ遺跡の現地踏査の結果、小砦の跡が認められるとして、仮称「小高砦」として想定図の記載あり。現在は墓地となり遺構は不明瞭。	318
222-013		本文掲載	
222-028		鹿島氏の一族である粟生氏の前衛地として利用された城であろう。土塁が、高さ1.7m～2.0m、幅2～4mで全長170mあり、北隅だけ長さ5.0mだけ土塁がない（飯田平左ェ門「鹿島の城跡」『文化財だより　第9号』1981）。	
222-041		本文掲載	321～327
222-116		本文掲載	
222-130		本文掲載	330～335
222-152		本文掲載	336
222-167	市	本文掲載	328,329 342
222-168		本文掲載	
222-178		城主は、立原五郎（鹿島成幹の五男久幹）。	
222-179		春秋三郎（立原繁幹の第２子の久幹）の館。「殿山」の地にある。	
222-180		烟田氏の一族塙氏の居館。	
222-181		本文掲載	
222-194		本文掲載	
222-206	市	本文掲載	337～340
222-207		本文掲載	
222-218		本文掲載	341
222-219		本文掲載	
222-234		本文掲載	
		本文掲載	
		本文掲載	
223-024		本文掲載	
223-028		大生八郎玄幹築城と伝えられる。後に島崎氏に効略され同氏の出城となる。さらにその後佐竹氏の領内に組み込まれるが、佐竹氏の秋田移封に伴い廃城となる。現在薬師堂付近のわずかな谷になっている部分はもともと堀が存在したが、畑地開墾の際埋めたと伝承がある。	
223-090	市	本文掲載	346~349
223-091		本文掲載	351,352
223-094		本文掲載	
		大台城の出城。湮滅。余湖氏、青木氏のHPに湮滅前の調査報告あり。	
406-041		本文掲載	
406-046		本文掲載	
406-026		馬場家は、鹿島氏の重臣を勤めた。天正19年（1591）、当主の鹿島清秀が佐竹氏に滅ぼされたのを機に帰農したと、代々の系図が伝わる。「馬場城」の小字名が残る。湮滅。	

(2)　城館関連遺跡

No.	名称	ふりがな	別称	所在地	座標		地図番号	立地				現況					残存遺構				
					北緯	東経		平地	丘陵台地	山地	その他	山林	水田	畑地	宅地	その他	曲輪	堀	土塁	切岸	その他
K001	鷹巣戸内遺跡	たかすとうちいせき		常陸大宮市鷹巣字塙	36.5712	140.4063	25		○					○	○						
K002	赤岩遺跡	あかいわいせき	三美堀ノ内館	常陸大宮市三美	36.5453	140.3442	24		○					○				○			
K003	堀の内遺跡	ほりのうちいせき	照田堀ノ内館	常陸大宮市照田	36.5875	140.3732	19	○						○					○		
K004	八田向原遺跡	はったむかいはらいせき		常陸大宮市八田	36.5609	140.3773	25		○					○							
K005	神岡下陣馬城	かみおかしたじんばじょう		北茨城市関南町神岡下	36.8378	140.7653	7		○			○					○	○	○	○	
K006	陣の平遺跡	じんのひらいせき		日立川尻町字稲荷作	36.6581	140.6898	22		○			○		○				○			平場
K007	山崎遺跡	やまざきいせき		日立市本宮町五丁目字山崎	36.6053	140.6740	22		○					○	○			○			
K008	新堀堀	しんぼりほり		ひたちなか市三反田	36.3724	140.5467	37		○					○				○			
K009	二の堀堀	にのほりほり		ひたちなか市金上	36.3774	140.5379	37		○			○		○				○			
K010	西塙遺跡	にしはなわいせき		ひたちなか市武田字西塙	36.4268	140.5116	31		○					○	○						
K011	根崎A遺跡	ねさきえーいせき		ひたちなか市田彦字根崎	36.3859	140.5468	37	○						○							
K012	青木遺跡	あおきいせき		城里町上入野字河波河内	36.4431	140.3881	30		○			○		○							
K013	後側遺跡	うしろがわいせき		城里町上入野字宿脇	36.4425	140.3800	30		○					○							
K014	石塚大堀	いしつかおおほり		城里町石塚字大堀	36.4741	140.3871	30	○				○						○			
K015	上郷遺跡	かみごういせき		笠間市矢野	36.3296	140.2988	42	○				○		○				○			
K016	行者遺跡	ぎょうじゃいせき		笠間市小原	36.3664	140.3242	35	○						○	○			○			
K017	仲村宿遺跡	なかむらしゅくいせき	仲村館	笠間市泉字仲村	36.2773	140.2655	42	○				○			○			○	○		
K018	島屋敷遺跡	しまやしきいせき		笠間市土師字沼具	36.3119	140.3077	42	○						○							
K019	滝尻土塁	たきしりどるい	滝尻の土手	笠間市上郷	36.3211	140.2756	42		○			○							○		
K020	愛宕山の土塁	あたごさんのどるい		笠間市泉字五霊	36.2920	140.2546	42			○		○				寺社境内地			○		
K021	経塚遺跡	きょうづかいせき		水戸市河和田町字経塚	36.3651	140.4101	36	○						○	○						
K022	桜川西遺跡	さくらがわにしいせき		水戸市河和田町	36.3646	140.4173	36	○						○	○						
K023	トソ遺跡	とそいせき		水戸市内原町字トソ	36.3699	140.3617	35	○						○	○				○		
K024	水戸城惣構	みとじょうそうがまえ		水戸市中心市街地	36.3742	140.4609	36	○	○						○				○		
K025	中畑遺跡	なかはたいせき		茨城町越安	36.3006	140.4113	43		○					○							
K026	宮後遺跡	みやうしろいせき		茨城町近藤字宮後	36.3250	140.4094	43		○					○							
K027	片喰遺跡	かたばみいせき		茨城町上石崎字坊原	36.2826	140.4647	43							○				○			
K028	前新堀遺跡	まえしんほりいせき	奥ノ谷新堀堀切	茨城町小幡	36.2750	140.4024	43	○	○			○						○	○		
K029	前新堀B遺跡	まえしんほりBいせき	奥ノ谷前新堀堀切	茨城町小幡	36.2745	140.4055	43	○				○						○	○		
K030	秋葉新堀	あきはしんほり		茨城町秋葉～下座	36.2500	140.4133	51	○	○			○		○				○	○		
K031	ウツギ崎砦	うつぎさきとりで		大洗町大貫町ウツギ崎	36.3100	140.5596	44		○			○						○	○		
K032	落神遺跡	おちがみいせき		大洗町大貫町	36.3034	140.5503	44		○							荒蕪地					
K033	羽黒遺跡	はぐろいせき		古河市前林字笹山	36.1437	139.7440	53	○						○							
K034	吹上遺跡	ふきあげいせき		古河市上片田字吹上	36.2293	139.8031	46	○						○							
K035	本田遺跡	ほんでんいせき		古河市五部	36.2097	139.8176	46	○						○	○						
K036	下り松遺跡	さがりまついせき		結城市結城字下り松	36.2870	139.8828	39		○					○	○						
K037	善長寺遺跡	ぜんちょうじいせき		結城市小田林字善長字	36.2890	139.8390	38		○					○							
K038	香取前遺跡	かとりまえいせき		結城市田間字権現	36.2526	139.8327	38	○					○	○	○	寺社境内地		○			
K039	結城長塁	ゆうきちょうるい	左前	結城市結城字松木合	36.3238	139.8688	38	○				○	○	○	○	寺社境内地		○	○		
K040	皆葉遺跡	みなばいせき		下妻市皆葉字本屋敷	36.1434	139.9459	55	○						○	○	墓地		○			段切り
K041	諏訪前遺跡	すわまえいせき		下妻市別府	36.1518	139.9383	55	○						○	○	寺社境内地			○		
K042	山尻遺跡	やまじりいせき		下妻市山尻	36.1790	139.9965	47	○								寺社境内地			○		
K043	犬田山神古墳群	いぬたやまがみこふんぐん		桜川市犬田字中島	36.3480	140.1057	33		○					○							
K044	犬田神社前遺跡	いぬたじんじゃまえいせき		桜川市犬田	36.3520	140.1012	33		○				○								
K045	高森古墳群	たかもりこふんぐん		桜川市高森字稲荷山	36.3473	140.0740	33	○				○									
K046	道夢様用かい堀跡	どうむさまようかいぼりあと		桜川市伊佐々字前畑	36.2698	140.0847	40	○								水路					
K047	長岡堀ノ内跡	ながおかほりのうちあと		桜川市長岡字堀の内	36.2916	140.1141	40	○					○	○	○						
K048	墓化遺跡	ぼけいせき		五霞町川妻字墓化	36.1289	139.7214	53	○				○						○	○		
K049	中島遺跡	なかじまいせき		石岡市染谷	36.2065	140.2483	49	○				○						○			
K050	石井土塁	いしいどるい		石岡市若宮二丁目	36.1927	140.2652	50				谷津	○						○	○		
K051	弥陀ノ台遺跡	みだのだいいせき		石岡市小井戸	36.1889	140.3367	50		○					○	○						
K052	田島遺跡	たじまいせき		石岡市田島二丁目	36.1765	140.2809	50	○						○		公共施設地	○	○			
K053	中津川遺跡	なかつがわいせき		石岡市中津川	36.1709	140.2892	50		○					○	○						
K054	宿畑遺跡	しゅくはたいせき		石岡市下林	36.2293	140.2164	49	○						○	○			○			
K055	山崎塩海道遺跡	やまさきしおかいどういせき		石岡市山崎	36.2473	140.2673	50		○			○									
K056	中延宮平遺跡	なかのべみやだいらいせき		小美玉市中延字宮平	36.1848	140.3483	50		○			○		○	○	墓地		○			
K057	殿畠遺跡	とのはたいせき		小美玉市宮田字殿畠	36.1936	140.3439	50		○			○		○				○			

県包蔵地番号	指定	概要	発掘調査報告書番号
344-034		古代集落跡と周知されていた鷹巣戸内遺跡で、中世の掘立柱建物跡が出土。城館跡の所在が想定されるようになった。	
344-059		埋納銭出土。発掘調査にて堀跡が出現。備蓄銭埋納地で、大甕に古銭3929枚が納められて出土。344-140三美の蓄銭と重複。三美中道遺跡の北西に隣接し遺物の分布少ない。	2
344-081		鎌倉時代から南北朝時代にかけて二階堂氏一族が居住した可能性あり。	
344-143		調査カードに城郭の可能性ありと記載。15-16cのカワラケ出土。	
		来歴不明。湯之網城の対面にある標高51mの台地上。「下陣馬」の城館地名がある。	
202-011		「水府志料」川尻村の項「陣の平　東西拾七間、南北四拾九間。其名付る故をしらず」。北方に隣接する稲荷作遺跡（遺跡番号202010）の２次調査で段切状遺構が確認され、この段切状遺構が南方にある当遺跡から続くような配置であり、遺跡のある丘陵頂部には平坦面、周辺には竪堀状の地形が観察でき、地名「陣の平」から中世城郭の可能性がある。北東方向に所在する、櫛形城、山尾城、友部城と同じ一直線上にならんでいる。	
202-078		一般国道6号(日立バイパス)改築工事に伴い発掘調査が行われた。報告書によると中世の遺構として「当遺跡A地区は、北側に小河川が流れ、東側に海がせまり、低地との比高約17mの台地上にあり、北・東の二方は自然の要害をなしている。当遺跡からは、城館跡に伴う堀3条、道路跡1条が確認されている。」、遺物としては「須恵器片、陶磁器片、鉄滓」が確認されている。	35
221-111		那珂川と中丸川にはさまれた台地上に存在する。金上城との関連が予想される。	
221-115		那珂川と中丸川にはさまれた台地上に存在する。金上城との関連が予想される。	
221-125		溝2、土壙8、井戸跡2、土坑18が確認された。	
221-160		堀１、井戸１が確認された。	
306-021		茨城県教育財団『茨城県教育財団文化財調査報告書第１０８集主要地方道水戸茂木線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ』の第１号堀についての所見ｐ１９４に「本跡は，その規模や形状からみて中世の城館跡に伴う堀と考えられ」とある。	68
306-023		『茨城県教育財団文化財調査報告書第１０８集主要地方道水戸茂木線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ』に、中世の溝跡として掲載されている。形状や規模から、城館に伴うかどうか判断しかねるが、台地上を縦断するような配置となっている。	69
		HP「北緯36度付近の中世城郭」に「石塚大堀」として記述がある。深さ約3m、幅12mほど。国道123号の東側150mくらいは残存状況が良いと思われる。西側については、やや残りが悪い。街道封鎖の目的でつくられたか。	
214-055		平成9年、開発に伴う発掘調査において、溝2条を検出した(1号溝、2号溝)。1号溝の出土遺物では、石器・縄文土器が出土しているが、形状などから判断すると、館に伴う溝である可能性が指摘されている。周辺には、長峰城跡の存在が知られていることから、長峰城跡に関連する溝であると推測される。地名として、駒形、窪、館端、源平蔵、宝蔵が残る。	
214-093		平成21年～24年にかけて実施された発掘調査において、中世に帰属する堀跡を検出した。形状は薬研状(行者遺跡)、逆台形状(行者遺跡2)であり、遺跡の位置関係からすると、小原城跡の外郭にあたる部分の堀の可能性がある。	
322-009		築城年代、城主については不明。遺跡調査カードでは、遺跡の範囲の中に土塁の存在が報告されている。ＨＰ「余湖くんのお城のページ」では、「仲村館」として紹介されており、鳥瞰図が掲載されている。遺跡分布調査では、土師質土器が採集されている	
322-095		発掘調査で検出した溝跡(1号溝)が、方形に取り囲む可能性がある。ただし、規模は大きくないため、居館に伴うものかは不明。出土遺物から中世の遺構として判断されている。島屋敷遺跡の発掘調査では、中世に帰属すると思われる溝跡が数条検出しており、井戸跡についても何基も検出している。居館というよりは、中世集落の様相を示しているのかもしれない。	
322-157		構築年代については不明であるが、『岩間町史』では、近世の野間土手、牧の仕切り土手と推測している。付近には笠間街道が通過しており、馬が捨てられた伝説があることから、中世の街道封鎖のために構築された可能性も考えられる。	
		明確な築城年代等については不明。土塁が残存するが、軍事的利用がなされた可能性が考えられるとある(『岩間町史』)。『岩間町史』では、土塁の内側は土を盛るために採取した跡と思われる堀状の凹みがあり、戦国盛期に臨時に設けられる塁壁構築の際に発生すると指摘する。	
201-274		経塚遺跡第２地点において、堀や地下式坑等の中世遺構が多数確認された。河和田城の外郭と考えられる。（水戸市教委2007）	
201-323		桜川西遺跡第35地点（平成30年度に本発掘調査を実施）において、中世の堀が確認された。河和田城の外郭と考えられる。	
305-183		試掘調査により幅約２ｍ、深0.7ｍの堀状遺構が検出されている。江川館の外郭遺構か。	
		水戸市歴史的風致維持向上計画に定める「重点地区」に相当する。八幡町地内に残存していた土塁については、2016年に市が緊急調査（包蔵地外）を実施し、平面図及び断面図を作成（現在は湮滅）。現在、唯一残存している土塁は、周知の埋蔵文化財包蔵地「釜神町遺跡」（201-020）内に位置する。	
302-032		中世の堀跡一条発掘。掘立柱建物跡23　方形竪穴遺構37　地下式坑6　堀跡1　溝跡1　井戸跡2　火葬土坑9　土坑5　方形周溝遺構1　大形竪穴状遺構2が発掘されている。本遺跡は、水戸城から小幡城への道筋を通っている。	
302-093		14世紀から15世紀のコの字型の堀が検出。発掘調査で、幅最大４ｍの箱薬研堀が長さ１９９ｍにわたって、南向きにコの字状で一条検出された。１４世紀に掘られ、１５世紀に廃絶したとみられる。航空写真MKT6110C8B９には、堀跡のソイルマークを確認できる。	
302-114		吉田平氏一族大戸氏の分家片喰氏居館跡。吉田平氏一族方波見氏居館。携帯電話電波塔の発掘で堀跡一条出土	
302-226		小幡城外郭。江戸氏築城のもの。山ノ崎城、前新堀遺跡（302-037）、前新堀B遺跡（302-038）は小幡城に付随する城郭群と考える。	
302-227		小幡城外郭。江戸氏築城のものと思われる。山ノ崎城、前新堀遺跡（302-037）、前新堀B遺跡（302-038）は小幡城に付随する城郭群と考える。	
		小幡城外郭。江戸氏築城か。秋葉新堀の先に下座長者屋敷(302-030）があることから、一連の遺構群かと思われる。また、山ノ崎城、前新堀遺跡（302-037）、前新堀B遺跡（302-038）は小幡城に付随する城郭群と考える。	
309-024		小規模な土塁状遺構と堀状遺構が北東側と南側に廻る。遺構は畑地跡を廻るように形成されている。中近世に遡る砦跡かどうかは、不明。(大洗町埋蔵文化財包蔵地調査カードから)	
309-034		台地前面の一杯館跡へ連続する台地上の遺構。堀・溝・墓壙・土坑が確認されている。	
541-038		形状は箱堀を呈す堀１条を確認。14末～15初の陶器片出土。北側に「堀ノ内」の小字あり、それを囲うと想定した場合は、一辺100m以上の方形を呈する可能性と記載。	
543-028		館跡は、堀外幅東西27m、南北25.5mの方形にめぐる箱薬研堀と派生する２条からなる遺構。	
543-066		陶磁器類の豊富な出土や大規模な溝跡の検出から、一般的な集落以上のものが存在した可能性が高いことを示唆。館跡を想起される小字が調査区周辺に現存する。15Ｃ後半～16Ｃ頃館跡の一部と推定される大型の溝を伴う区画域が存在。諸川西門城の関連施設の可能性を示唆。カワラケ・内耳鍋・擂鉢に検討から存続時期を15Ｃ中葉～後葉と推定。第4次調査では、第3次調査に繋がる溝を確認。方形に二重に溝が巡り、北側一部ではさらに堀がまわる。内部に掘立柱建物跡がある。時代は14～15世紀代と推定。	
207-035		堀１、方形竪穴建物３、井戸１を確認。15世紀頃の城館跡か。	
207-061		堀１条を確認。	
207-054		周知の埋蔵文化財包蔵地。範囲内には香取神社が鎮座し、鎌倉街道と伝わる道が南北に通る。試掘調査の結果、幅4～7m。深さ2m以上の薬研状の堀が確認された。16世紀後半の土師質土器（皿）が出土。結城氏が後北条氏に対する防御として築いたか。また、伝鎌倉街道のそばでは、現道と並行して溝跡が見つかっており、道路の側溝と考えられる。	
		本文掲載	119
210-019		皆葉遺跡には字本屋敷と字古屋敷がある。現在の集落が移動した跡と伝えられている。堀状遺構ＳＸ０１と溝跡ＳＤ０２が虎口状に配置される。城内には土壙墓群、地下式坑、段切り遺構がある。	
210-028		諏訪前遺跡第２地点北端の溝跡ＳＤ０６は小規模ながら諏訪神社跡地との関連性が指摘されている。また、諏訪前遺跡内の諏訪前古墳には小型の五輪塔部材が散乱し、板碑等も採取されており、中世の墓地であった可能性がある。中嶋家文書には別府太郎に係る記載がある。別府館の推定地にふさわしい。	
210-045		『常総古文化研究』によれば常滑焼の大甕が４個出土した。内3個がふるさと博物館に現存。山尻鹿島神社境内西側に土塁の痕跡あり。居館跡か。	
324-085		確認された溝跡は形状と出土遺物の年代（16世紀代）から中世城郭に伴う堀切と推定された。	
324-086		溝、地下式坑、井戸、竪穴状遺構、方形竪穴遺構等が確認されている。大規模な溝が確認されたことから、居館跡の一部か。	
504-004		平場遺構、掘立柱建物跡、方形竪穴遺構、溝、堀、道路、井戸跡、地下式坑、土坑、ピット列が確認された。中世の溝や掘立柱建物跡、地下式坑などが検出され、当地域の中世の中心的遺構とみられる。	
		「道夢様」とは戦国期の真壁家当主、真壁久幹（法名道無）のことで、「用かい」は要害のことと思われる。元禄10年（1697）の『伊佐々村差出帳』に記載がある。現状は水路。	
		加波山から西に延びる尾根先端部の微高地上に「堀の内」「御正作（みそさく）」などの地名が残る。真壁氏分家長岡（古宇田）氏の館跡と考えられ、『真壁文書』『真壁長岡古宇田文書』などとの関連から学術的に注目されている。	
542-016		一色神社と稲荷神社のちょうど中間の辺りに墓化館があったという。周囲の水田は一段低くなっており、水堀跡の可能性がある。館の南側にはかつては「前沼」と呼ばれる沼があったという。	
205-020		土塁一周がほぼ完存していた（旧中島土塁）が宍土手のような機能が想定されている。それとはまた別に平成２２年から２３年にかけての発掘調査により薬研堀が確認されている。	162
205-063		位置的には府中城内である。堰か。府中城の自然の谷を利用した堀にかかる土塁。長さ35m・幅４ｍ・高さ２ｍ。土橋のような機能も考慮にいれる必要がある。	
205-135		堀が確認されている。	
205-146		国道建設に伴う発掘調査により堀が確認された。堀は１度掘り直しがされており、旧堀と新堀に分層される。新堀には柱穴が伴い、木杭による橋の存在が想定されている。埋没途中に火葬土坑が存在している。出土遺物の内耳鍋の存在から16世紀代の遺構であると思われる。	158,159
205-151		掘立柱建物、方形竪穴、井戸、道路跡が確認され、城館との関連が指摘されている。	
463-131		発掘調査にて薬研堀確認。周囲に城の形跡は確認できず、単郭式の居館の一部の可能性がある。	156
463-144		堀が確認された。	
303-041		方形居館である可能性があり、中世の岩瀬郷の中心地。平成22年の発掘調査の結果、中世の堀跡と思われる溝4条を検出した。第2号溝は、東西方向に延び、幅2.9m、深さ1.0mを測る。溝の断面形は、逆台形を呈する。主な出土遺物は、常滑産陶器（鉢・壷甕類）などがある。第3、4、6号溝は、一連の遺構と推察され、その場合は、一辺47m程度の方形に廻ると思われる。出土遺物は、常滑産陶器（壷甕類・広口口縁壷）、古瀬戸（壷瓶子類)などがある。	173
303-179		平成25年の試掘調査では、1条の堀跡を検出した。堀跡の断面形は薬研状で、幅3.0m、深さ1.1mの規模である。平成26年の発掘調査では、1条の竪堀を確認している。	

No.	名称	ふりがな	別称	所在地	座標		地図番号	立地				現況					残存遺構				
					北緯	東経		平地	丘陵台地	山地	その他	山林	水田	畑地	宅地	その他	曲輪	堀	土塁	切岸	その他
K058	馬場坪遺跡	ばばつぼいせき		小美玉市上吉影字馬場坪	36.2180	140.4103	51		○					○	○	公共施設地		○			
K059	八幡台遺跡	やはただいいせき		小美玉市小川字八幡台	36.1697	140.3599	50		○					○	○			○			
K060	佐才御舘間遺跡	さざいおだてまいせき		小美玉市佐才字御舘間	36.2213	140.3932	51		○			○							○		
K061	手野新堀遺跡	てのしんぼりいせき		土浦市手野町字新堀	36.0972	140.2522	58	-	○			○						○	○		
K062	下坂田中台遺跡	しもさかたなかだいいせき		土浦市下坂田字中台	36.1092	140.1686	57		○							竹林、道路					
K063	田宮古墳群	たみやこふんぐん		土浦市田宮	36.1313	140.1454	57	-	○	-	-	○						○			
K064	谷田部大堀遺跡	やたべおおほりいせき		つくば市谷田部字陣馬	36.0410	140.0661	63	○				○		○				○	○		
K065	柴崎大堀遺跡	しばさきおおほりいせき		つくば市柴崎大堀	36.1022	140.1229	56	○								雑種地					湮滅
K066	城内遺跡	じょうないいせき		守谷市字城内城内	35.9474	140.0026	70		○						○						
K067	台宿二本松遺跡	だいしゅくにほんまついせき		取手市台宿一丁目	35.8931	140.0712	77		○					○							
K068	牛久城大手門跡	うしくじょうおおてもんあと		牛久市城中町	35.9598	140.1320	71	○								公共施設地					
K069	観音寺遺構	かんのんじいこう		牛久市久野町	35.9728	140.2280	71		○							寺社境内地		○	○		
K070	遠山堀切	とおやまほりきり		牛久市遠山町	35.9542	140.1411	71		○									○	○		
K071	桜塚堀切	さくらつかほりきり		牛久市遠山町	35.9568	140.1464	71		○			○						○	○		
K072	東城台堀切	とうじょうだいほりきり		牛久市遠山町	35.9567	140.1423	71		○					○							
K073	井ノ岡土塁	いのおかどるい	奥原土塁	牛久市市井ノ岡	35.9604	140.2641	72		○					○							
K074	鴨の要害	かものようがい	新地城	阿見町竹来字新地	36.0377	140.2367	64		○			○									
K075	吉原新堀（北・南）土塁	よしわらしんぼり（きた・みなみ）どるい	新堀遺跡	阿見町吉原字根崎	36.0046	140.2160	64		○			○						○	○		
K076	吉原二重堀土塁	よしわらふたえぼりどるい	二重堀遺跡	阿見町飯倉字神田	35.9934	140.2412	71		○			○						○	○		
K077	飯倉大堀土塁	いいぐらおおほりどるい	大堀遺跡	阿見町飯倉字大堀	35.9895	140.2559	72		○			○						○	○		
K078	大形割目土塁	おおがたわりめどるい	割目遺跡	阿見町大形字割目	35.9842	140.2651	72		○			○							○		
K079	雀久保土塁	すずめくぼどるい	雀久保遺跡	阿見町大形字雀久保	35.9837	140.2823	72		○			○						○	○		
K080	内堀土塁	うちぼりどるい	内堀遺跡	阿見町追原字八中蒔	36.0154	140.2484	64		○							工場敷地		○	○		
K081	上条外囲い	じょうじょうそとがこい		阿見町上条	36.0072	140.2367	64		○			○		○				○	○		
K082	神田土塁	じんでんどるい		阿見町吉原	35.9970	140.2275	71		○			○							○		
K083	長堀	ながほり		阿見町塙	36.0104	140.2530	65		○					○							
K084	下宿土塁	しもじゅくどるい		阿見町君島	36.0043	140.2711	65		○			○									
K085	大形東田土塁	おおがたひがしだどるい		阿見町大形	35.9916	140.2769	72		○					○							
K086	大木戸土塁	おおきどどるい		阿見町飯倉	35.9956	140.2483	71		○			○									
K087	島津二重堀	しまづふたえぼり		阿見町町南平台三丁目	36.0268	140.2486	64		○					○							
K088	畑中土塁	はたなかどるい		阿見町大形	35.9922	140.2771	72		○					○							
K089	堀留土塁	ほりどめどるい		阿見町君島	36.0002	140.2720	65		○			○									
K090	美浦境土塁	みほざかいどるい		阿見町君島	35.9977	140.2800	72		○			○									
K091	薬師堂跡	やくしどうあと		美浦村土浦字蔵後	36.0137	140.3503	65		○			○									
K092	下の下遺跡	しものしたいせき	大山城砦、雁の宮砦	美浦村大山字下ノ下	36.0076	140.3641	65		○			○									
K093	間野平台遺跡	まのたいらだいいせき	間野狼煙台	美浦村間野字平台	36.0103	140.3335	65		○			○									
K094	太田門遺跡	おおたかどいせき		美浦村木字門	36.0139	140.3275	65		○					○							
K095	息栖遺跡	いきすいせき	花見塚狼煙台	美浦村花見塚字息栖	36.0145	140.3220	65		○			○		○	○						
K096	山内入堀遺跡	やまうちいりぼりいせき		美浦村山内字入堀	36.0237	140.3329	65		○					○				○	○		
K097	宮地天神遺跡	みやじてんじんいせき		美浦村宮地字天神	36.0124	140.3146	65		○			○									
K098	木原根火山遺跡	きはらねびやまいせき	木原根火山砦	美浦村木原字根火山	36.0216	140.3027	65		○			○									
K099	殿田遺跡	とのだいせき	臼田館、丸山館	美浦村布佐字殿田	36.0164	140.2829	65		○			○		○							
K100	大作台遺跡	おおさくだいせき	信太城（砦）	美浦村信太字作久保	35.9940	140.3151	72		○			○		○							
K101	木原白旗古墳群	きはらしらはたこふんぐん		美浦村木原字新宿	36.0158	140.2993	65		○			○				寺社境内地					
K102	興津土塁	おきつどるい		美浦村興津	35.9957	140.2968	72		○							企業敷地					湮滅
K103	原空堀	はらからぼり		美浦村木原	36.0089	140.2943	65		○							荒蕪地					湮滅
K104	光仏土塁	こうぶつどるい		美浦村布佐	36.0011	140.2844	65		○						○						
K105	行竹空堀	ゆきたけからぼり		美浦村郷中	36.0104	140.2947	65		○					○							湮滅
K106	神田土塁	じんでんどるい		美浦村木原	36.0127	140.2892	65		○							企業敷地					
K107	椎池土塁	しいいけどるい		美浦村木原	36.0103	140.2864	65		○			○									
K108	摩訶陀空堀	まかどからぼり		美浦村木原	36.0062	140.2918	65		○						○						
K109	殿屋敷遺跡	とのやしきいせき	殿屋敷古墳	稲敷市佐倉字殿屋敷	35.9882	140.3286	72		○			○			○		○	○	○		
K110	中峰遺跡	なかみねいせき		稲敷市村田字中峰甲	35.9431	140.3124	72		○									○	○		
K111	城ノ内遺跡	じょうのうちいせき	祢宜殿屋敷	稲敷市佐倉字城ノ内	35.9855	140.3255	72	○						○	○	寺社境内地			○		
K112	長者屋敷跡	ちょうじゃやしきあと		稲敷市下根本字朝日向久保	35.9218	140.2582	72		○							荒蕪地					
K113	立切遺跡	たちぎりいせき		稲敷市釜井字立切	35.9458	140.3951	73		○			○				工場敷地			○		
K114	宮平遺跡	みやだいらいせき		稲敷市市崎宮平	35.9424	140.3625	72		○					○		墓地					
K115	花指土塁	はなざしどるい		稲敷市犬塚	35.9753	140.2945	72		○						○						湮滅
K116	犬塚土塁	いぬづかどるい		稲敷市犬塚字鹿島神社	35.9661	140.3070	72		○			○									
K117	山後土塁	やまごどるい		稲敷市村田字山後	35.9429	140.3041	72		○			○									
K118	小角土塁	おずみどるい		稲敷市江戸崎甲	35.9718	140.3129	72		○			○									
K119	沼田二重堀	ぬまたふたえぼり		稲敷市沼田字二重堀	35.9604	140.2897	72		○							学校敷地					
K120	田宿空堀	たじゅくからぼり		稲敷市江戸崎	35.9688	140.3221	72		○							荒蕪地					
K121	中居館	なかいやかた		鉾田市中居字北山	36.0857	140.5744	60		○			○		○					○		
K122	阿玉大堀堀切	あだまおおほりきり		鉾田市大蔵	36.1105	140.5692	60		○					○					○		
K123	大蔵近津堀切	おおくらちかつほりきり		鉾田市大蔵	36.0989	140.5709	60		○			○						○	○		
K124	中居君ヶ枝堀切	なかいきみがえ		鉾田市大蔵	36.0881	140.5635	60		○			○							○		
K125	中居八幡平堀切	なかいはちまんたいほりきり		鉾田市中居	36.0854	140.5635	60		○			○							○		

県包蔵地番号	指定	概要	発掘調査報告書番号
303-226		平成17年(2005)の発掘調査で中世の堀跡が確認された。覆土中からは、土師質土器（小皿・内耳鍋）、砥石、釘、馬骨が出土している。堀は、L字状に延びる薬研堀で、規模は幅1.5～3.2m、深さ0.6～1.0mである。遺構の性格としては、北西650mに位置する立開城跡の外郭的な施設、もしくは、北300mに位置する貴船神社における神域の区画溝の可能性がある。	169
306-236		平成26年の試掘調査の結果、薬研堀状の堀跡を確認した。北西250mの谷津を挟んだ台地上には小川城が所在することから、外郭的な施設である可能性がある。出土遺物は、土師質土器、陶磁器片などがある。	
303-061		来歴不明。総延長80m、高さ0.7mを測るＬ字の土塁が残存する。	
203-477		2010年県財団発掘調査、20111年土浦市発掘調査。台地を南北に縦断するように土塁が存在、国道354号線北側は南北約230m、幅約20m（堀跡含む）、同南側は南北約200m、幅約10m。	
465-005		溝跡、堀跡、掘立柱建物跡を確認。	
465-025		県財団の発掘調査により、土橋を持った溝が検出され、橋の傍からかわらけが複数出土する。方形館跡の溝の可能性が高い。	196
220-397		本文掲載	
220-493		本文掲載（「金田城跡」の項）	
561-017		守谷城の主郭を除いた、台地中央部の字「城内」に別の遺跡名をつける。城下集落を含む広い範囲で、複数回発掘調査が行われる。現在はほぼ市街地化する。	
217-011		溝、土坑が確認された。	
	市	市指定史跡。舌状台地の基部で、惣構の最外郭部に当たる。	
		本文掲載	
		本文掲載（「街道閉塞堀切・土塁群」の項）	
		本文掲載（「街道閉塞堀切・土塁群」の項）	
		本文掲載（「街道閉塞堀切・土塁群」の項）	
		本文掲載（「街道閉塞堀切・土塁群」の項）	
443-019		鴨の要害についての伝承が細々ながらも残っており、それは古沼文書によって確実性が裏付けされた。この呼称は「鴨の竜けぇい」と発音され、意味は鴨が夜を過ごす寝所と解されていた。大室城と指呼の間にあり、関連する施設と考えられるが、現時点で城郭遺構は確認できていない。	
443-100		本文掲載（「 街道閉塞堀切・土塁群」の項。図中の吉原新堀北、吉原新堀南。同じプランで作られたものと考えられ、南北で630mほど離れている。）	
443-101		本文掲載（「街道閉塞堀切・土塁群」の項）	288
443-102		本文掲載（「街道閉塞堀切・土塁群」の項）	
443-103		本文掲載（「街道閉塞堀切・土塁群」の項）	289
443-104		本文掲載（「街道閉塞堀切・土塁群」の項）	
443-105		本文掲載（「街道閉塞堀切・土塁群」の項）	284
		本文掲載（「街道閉塞堀切・土塁群」の項）	
		本文掲載（「街道閉塞堀切・土塁群」の項）	
		本文掲載（「街道閉塞堀切・土塁群」の項）	
		本文掲載（「街道閉塞堀切・土塁群」の項）	
		本文掲載（「街道閉塞堀切・土塁群」の項）	
		本文掲載（「街道閉塞堀切・土塁群」の項）	
		本文掲載（「街道閉塞堀切・土塁群」の項）	
		本文掲載（「街道閉塞堀切・土塁群」の項）	
		本文掲載（「街道閉塞堀切・土塁群」の項）	
		本文掲載（「街道閉塞堀切・土塁群」の項）	
442-017		開発に伴う発掘調査により湮滅。砦類と考えられる遺構が確認されていた。	
442-030		1994年に遺跡の一部を発掘調査した際に中世の堀跡を確認、陶器出土。下の下遺跡の未調査部分については詳細不明。『御茶園遺跡』に記載されている大山城砦跡の一部（南側の狼煙台一帯）は下の下遺跡の範囲内にあり。	
442-036		立地、形状から城郭遺構の可能性が高い。付近に残る小字名として戸ノ内、戸ノ内大官畑、藪の内古屋敷、城山、本門などあり。	
442-037		集落北西縁辺に一部掘跡を利用したと思われる水田が観察される。集落に残る小字には表口、東門、門、前、中、入、薬師堂、根田、車堂、経塚、馬場先などがある。太田四ヶ村の一つである木村には、屋敷地の周囲に堀を巡らして館郭を成し、館内を門、前、中、入の四つに分け、室町時代から木村一族が治めていたという伝承がある。	
442-038		立地、形状から城郭関連の遺跡の可能性あり。	
442-041		集落北辺には一部堀跡、土塁が観察され、西部の村道の一部はかつて堀跡だったことが聞き取り調査により判明。集落に残る小字として、北門、後口、前口、古屋敷、南門、根本内、輪ノ内、表口などがある。	
442-049		突之宮遺跡（442-048）から本遺跡にかけての尾根状台地内には切岸状のものなど人為的に地形改変を受けた跡が明瞭に見られる。城郭関連の遺構の可能性が考えられる。平成19年土採取事業に伴う試掘。一部湮滅。	
442-056	村	木原白旗古墳群（442-124）に属す方墳１基が存在するが本遺跡は城郭関連遺構として捉えられ、方墳頂部が平坦になっていることからも櫓台として転用している可能性がある。	
442-080		遺跡の西側の水田は「殿田」と呼ばれており、遺跡地は通称「丸山」と呼び慣わされている。立地、地名、遺物などから中世城館の可能性が考えられる。臼田文書によれば、1387(嘉慶元/元中4）年、臼田勘解由左衛門尉（直連）は常陸国信太庄布作郷（美浦村布佐）に上杉憲定より宛行された。	
442-104		信太城砦は、大作台遺跡を含む現在の美浦村信太地区及び美駒地区（ＪＲＡ美浦トレーニングセンター）のエリアに広がり南北朝期末頃までの戦乱の間に次々と構築されたと推定されるが、史料が少ない。中世城館に係わる城の内、平台、平、木戸、内出、兵崎、橋の下などの小字名がある。信太地区の本郷（小字名）周辺には城館遺構と考えられる土塁、犬走り、堀、郭などの遺構が残る（『美浦村誌』）。2003（平成15）、2007（平成19）、2008（平成20）年に土砂採取事業に伴う発掘調査で遺跡の中心部湮滅。古代の郡衙に関連する地名が多く近年の発掘調査でも関連遺構や遺物が出土したが、発掘調査で城館遺構は確認されなかった。	
442-124		如来寺及び広徳寺周辺（第7号墳、第8号墳（湮滅）、第9号墳（湮滅）周辺）は土塁、堀、虎口、郭等と思われる削平された部分がみられた。（1990年頃『美浦村史研究6号』）・第7号墳、第8号墳（湮滅）、第9号墳（湮滅）は『美浦村史研究6号』では大防古墳群として記載。・美浦村お散歩団ＨＰでは大防館（仮称）とされている。・「余湖くんのホームページ』ＨＰでは如来寺館（大防館）。	
		本文掲載（「街道閉塞堀切・土塁群」の項）	
		本文掲載（「街道閉塞堀切・土塁群」の項）	
		本文掲載（「街道閉塞堀切・土塁群」の項）	
		本文掲載（「街道閉塞堀切・土塁群」の項）	
		本文掲載（「街道閉塞堀切・土塁群」の項）	
		本文掲載（「街道閉塞堀切・土塁群」の項）	
		本文掲載（「街道閉塞堀切・土塁群」の項）	
441-021		北東側はザ・インペリアルゴルフクラブとなり消滅。「折れ」が明確に確認されていることから、中世後半と考えられる。。	
441-037		西北と東に浅い谷津が入る安定した大きな台地上。馬場口の地名が残る。宮本家の周囲には、土塁・空堀が巡り、土塁・空堀・虎口・桝形・土橋など保存状態は良好である。近接する「中城古墳群」（羽賀字中狄５７０）の南側に堀跡及び逆茂木が遺存するが、羽賀城館跡の一部として北側防御で機能していたと考えられる。周辺の畑から古墳時代後期から１１世紀前後にかけての多量の遺物出土があった。	
441-061		城ノ内を中心として西ノ内、馬場先、荷下ろし、井戸ノ内などの小字名が残る。	
446-006		溝跡が確認された。報告書内に中世城館跡と考察との記載あり。周辺に土塁を確認している他、堀跡と思しき薬研堀りの溝状遺構出土との記載あり。	
449-010		有段状遺構、柵穴が確認されている。工業団地誘致のための開発行為で発掘調査をし、殆ど湮滅した。	301
449-026		中世の溝は屋敷を区画する堀跡と思われ、井戸や粘土張り土坑、ピット群がみられ、古瀬戸や常滑、土師質土器の香炉が出土している。	
		本文掲載（「街道閉塞堀切・土塁群」の項）	
		本文掲載（「街道閉塞堀切・土塁群」の項）	
		本文掲載（「街道閉塞堀切・土塁群」の項）	
		本文掲載（「街道閉塞堀切・土塁群」の項）	
		本文掲載（「街道閉塞堀切・土塁群」の項）	
		旧街道が江戸崎へ入る北側の入り口に位置する防御施設と考えられる。市立江戸崎中学校付近から北へ向かって自然の谷津が入り込むが、県立江戸崎総合高等学校付近からさらに北へ向かう堀は人工的に掘られた様相を呈する。『茨城の城館４』（ふるさと文庫）に記載。	
403-014		直線的な土塁2条とコの字状の土塁が残る。城館本体ではなく中居城の防塁と考えられる。全長400m。	
		阿玉城の防塁。全長500m。	
		中居城の防塁。全長450m。	
		中居城の防塁。全長200m。	
		中居城の防塁。全長60m。	

No.	名称	ふりがな	別称	所在地	座標		地図番号	立地				現況					残存遺構				
					北緯	東経		平地	丘陵台地	山地	その他	山林	水田	畑地	宅地	その他	曲輪	堀	土塁	切岸	その他
K126	中居上宿土塁	なかいかみじゅくどるい		鉾田市中居	36.0792	140.5699	67		○					○							
K127	中居内野二重堀堀切	なかいうちのふたえぼり		鉾田市中居	36.0872	140.5709	60		○			○						○	○		
K128	中居外野堀切	なかいそとのほりきり		鉾田市中居	36.0931	140.5748	60		○							ゴルフ場					
K129	中居北山堀切	なかいきたやまほりきり		鉾田市中居	36.0911	140.5790	60		○					○							
K130	中居篭山堀切	なかいかごやまほりきり		鉾田市中居	36.0804	140.5805	67		○			○							○		
K131	井上長者館	いのうえちょうじゃやかた		行方市井上	36.0762	140.4564	66		○					○				○			
K132	クチツカ遺跡	くちつかいせき		行方市小高字クチツカ	36.0229	140.4655	66		○							空地					湮滅
K133	矢幡館	やばたやかた		行方市矢幡字古息栖	35.9972	140.5331	74		○			○						○	○		
K134	三併堀跡	さんぺいほり		行方市玉造甲	36.1159	140.4323	59		○			○		○				○	○		
K135	両宿新堀堀切	りょうしゅくしんぼりほりきり		行方市両宿	36.0925	140.4880	59		○			○		○					○		
K136	北高岡大堀口堀切	きたたかおかおおほりぐちほりきり		行方市北高岡	36.0787	140.4988	66		○			○		○				○	○		
K137	繁昌新堀堀切	はんじょうしんぼりほりきり		行方市中根	36.0613	140.5132	67		○			○		○							
K138	手賀新堀堀切	てがしんぼりほりきり		行方市手賀	36.0966	140.4400	59		○			○		○							
K139	新畑遺跡	しんばたいせき		鹿嶋市下塙字新畑	35.9533	140.6380	75		○					○	○	雑種地					
K140	田野辺新堀堀切	たのべしんぼりほりきり		鹿嶋市田野辺	35.9998	140.6128	74		○			○		○				○			
K141	今林遺跡	いまばやしいせき		潮来市島須今林	35.9877	140.5369	74		○			○									
K142	裏山遺跡	うらやまいせき		潮来市茂木字裏山	35.9959	140.5295	74		○			○							○		
K143	赤須山遺跡	あかすやまいせき		潮来市島須	35.9795	140.5437	74		○			○		○					○		
K144	柊山遺跡	ひいらぎやまいせき	島須新堀堀切	潮来市島須字柊山	35.9779	140.5418	74		○			○		○		公共施設地			○		

県包蔵地番号	指定	概要	発掘調査報告書番号
		中居城の防塁。全長430m。ほぼ湮滅。	
		中居城の防塁。全長200m。出枡状遺構有り。	
		中居城の防塁。全長500m。湮滅。	
		中居城の防塁。全長200m。ほぼ湮滅。	
		中居城の防塁。全長200m。	
421-025		二重の堀が巡る方形居館。一部堀が確認されない部分があり、土橋の可能性有。	318
421-053		平成8年に発掘調査。小高砦の物見台もしくは櫓台か。湮滅。	
421-122		幡次郎貞幹の居館であったという。後には島崎氏の支配下となり、土子美濃守が居城としたとされる。裏山遺跡（潮来市）と連続した遺跡であり、ともに島崎城（潮来市）の防塁と考えられる。（石崎氏談）	
425-078		城郭本体ではなく防塁。玉造城の付属施設。玉造城に連なる半島状台地基部に立地。特徴として、半島状台地基部を堀切り、防御線としている。堀は、道路部分と鉄道線路敷で一部が埋められ、土塁が欠落。	
		神明城の防塁。全長100m。	
		高岡城の防塁。全長50m。	
		前原館、古屋台館の防塁。全長100m。ほぼ湮滅か。	
		手賀城、鳥名木館の防塁。全長150m。湮滅。	
222-038		段切１、堀１、溝３、土橋、掘立柱建物、柵を確認。方形居館の堀、掘立柱建物跡は門か。	
		林外城、塚原館の防塁。全長120m。ほぼ湮滅。	
223-101		空堀、土塁、井戸を確認。	
223-117		矢幡館（行方市）と連続した遺跡であり、ともに島崎城（潮来市）の防塁と考えられる。	
223-132		かつては長軸200mほどの弾丸状の土塁が残っていたが、現在は一部が残る。島崎城関連の施設か。	
223-133		遺跡北側で鍵の手状に土塁が巡る。土塁の規模は幅約５m、高さ約２mで一の郭を囲むようにして遺存し、北西方向の大膳池際まで直線状に伸びている。直線上に延びた土塁の南西際には、出入口から下位の郭へ通じたと思われる堀底道が確認できる。島崎城の防塁。	

(3)　城館等伝承地

No.	名称（別称）	ふりがな	伝承地	概要
D01	高ノ倉城	たかのくらじょう	常陸大宮市小野字後高ノ倉	佐竹系小野氏居住伝承あり。城郭が別にある可能性がある。付近に小野河岸跡がある。台地の平坦部には縄文土器や土師器などが少量散布し、集落跡と考えられる。（県包蔵地番号344-039）
D02	菅又館	すがまたたて	常陸大宮市若林字菅又	八田系菅又氏居館伝承、八田清重居館。城下を近世東野-水戸城下道が走っている。全体の形状不明で各施設の痕跡なし。（県包蔵地番号344-100）
D03	御領平遺跡	ごりょうだいらいせき	常陸大宮市高部字御領平	高部城の向館であったとされる。旧美和中学校の敷地に該当すると思われる。（県包蔵地番号346-004）
D04	大館城	おおだてやかた	常陸大宮市野口字大館平	南朝方大館氏居館。
D05	平沢館	ひらさわやかた	常陸大宮市野口字平沢	付近には史料的に平沢氏の館があったものと考えられる。平場遺構が確認されるが、城館遺構かは不明。
D06	大畑館	おおはたやかた	常陸大宮市野口字滝沢	南北朝期大畑氏館跡その後寿命寺。又上平氏館。「台山」の地名あり。
D07	田村修理館	たむらしゅりやかた	常陸大宮市野口字中丸城	旧御前山村役場敷地。田村修理墓と伝わる五輪塔有。「台山」の地名あり。
D08	古田土氏館	こたどしやかた	常陸大宮市野田	川崎春二が城郭として紹介している。
D09	小田野御前居館	おだのごぜんきょかん	常陸大宮市鷲子字高沢	地元住民の話によると、こちらを「小田野城」と呼ぶらしい。川崎春二が記す「御前久保」「新屋敷」の地名あり。
D10	小貫氏館	おぬきしやかた	常陸大宮市小貫	鹿島神社境内ヵ。付近に五輪塔群あり。「台山」の地名あり。
D11	高井釣城	たかいづりじょう	常陸大宮市盛金字高井釣	那珂氏一族川野辺氏の居住。遺構は不明瞭。
D12	宇留野古館	うるのこだて	常陸大宮市宇留野字佐貫山	初期宇留野氏居住。
D13	加志村氏館	かしむらしやかた	常陸大宮市富岡字中坪	宝徳2年11月27日義頼書状写。
D14	上久保城	かみくぼじょう	常陸大宮市盛金字上久保	もりがね富士見公園内に碑が立ち、「上久保太郎衛門館、明応元年、盛金真言不動院創設」と刻まれる。台地縁辺に横堀のような地面の窪みがみえ、東側斜面に帯曲輪状の平場があるが遺構かどうか不明。
D15	野沢館	のざわたて	常陸大宮市氷之沢字舟ヶ作	「史料日誌」（皆川文書）にあるが不明。字野沢にある、佐竹時代の物見台という伝承を持つ山に仮に比定する。字野沢の民家裏山、標高約237m・比高約55mの山上。平場や切岸が城郭遺構かどうか不明。
D16	滝沢館(大畑氏館・古屋場城)	たきざわたて	常陸大宮市野口字滝沢	正慶元(1334)年に那珂氏の支族大畠氏が築いたとされるが、延元元(1336)年に那珂氏が滅ぶと、大畠氏はこの地を離れたと伝わる。所在不明。「南北約九〇m・東西一二六mで、四方に堀を巡らし土塁を築いて」（『ふるさとの史跡を探る（３）』）命照寺裏山に、横堀が曲輪を囲むように見える地形があるので、これに該当するか。
D17	上平氏館	うわだいらしたて	常陸大宮市野口字細内	長倉氏10代義尚の二男義栄の居館と伝わる。義栄は上平氏を称したという（『御前山郷土誌』）。また、麓の民家では城跡だと伝えられている。御前山小学校の北西約700m、割増地区内の現在鉄塔が建つ標高106mの山上。「野口邨田畠反別絵図」に記される地名「うたひじやう」が、「上平城」を示すと思われる。西麓の台地南端部に南北朝期の「割増の板碑」が建つ。
D18	外記屋敷	げきやしき	日立市川尻町	『水府志料』p342：川尻村の項「小貝の浜　長百七拾間、横弐拾間余。」「此辺に外記屋敷と云あり。古昔外記権大夫なる者あり。初て蚕を養ひし所なりと云。」中世まで遡るか不明。場所の特定も含め、不明。
D19	腰ノ塚館	こしのづかたて	日立市高鈴町二丁目字腰ノ塚	『日立市史』p181　「宮田氏は三代通熙のとき、応永二六（一四一九）年故あって隣村助川の腰ノ塚に移ったという。（中略）付近に宮田氏累代の墓のあるところをみると、宮田氏が腰ノ塚に移住したことは間違いあるまい。」 遺構が存在するのか不明。
D20	薩埵寺館	さったじたて	日立市宮田町字高松台	『多賀郡史』p52「佐竹の幕下なる坂上の城主、舘持」として「宮田薩埵寺舘主小野崎立鹿」がいたという。 『日立の風土』p11-12（宮田館の説明文の続き）「応永二十三年に城主に山城三河介藤原通好が、この平城（宮田館のこと）を捨てて助川に山城を築いて移り住んだのであった。すなわち助川城の始祖となった人である。この館の跡へ筑波山徳一という修験僧が、天文二十三年に真言宗の薩埵寺（さったじ）を建立して、西虎山薩埵寺と称した。」 『続茨』 p186宮田館「城内の南側には水が湧きでていたが、これも最近埋め立てられた。この付近に薩埵寺があった。『常陸国誌』によると、筑波山徳一という修験僧の開基といわれているが、城内に神社仏閣を祀ったのは信仰心により城を最後まで守るための手段だった。特に宮田氏の場合、祖先から神領家として修験道場を背景に栄えた家であれば、なおさらであったろう。」 『新修日立市史　上巻』p697によると、宮田村の薩埵寺は「年来無住、厨堂大破」のため、天保期に破却されており、正確な場所は不明。村絵図があれば載っているかもしれない。 薩埵寺館は場所的には宮田館の重なる。ただ、宮田館をそのまま再利用したのか、一部再利用しただけなのか、詳細は不明。
D21	三礼城	みふだじょう	東海村大字白方	現在の白方コミニュティセンタ-の地が城址。白方城の外郭であったと思われる。字名が「城の内」、地元には城址との伝承がある。当時、台地北下を流れる久慈川の河岸を管理する施設でもあったと思われる。
D22	谷田部中務少輔屋敷(高井館)	-	ひたちなか市三反田	谷田部氏の下屋敷とされる。三反田の上高井の畑から、古瀬戸灰釉の壺、すり鉢、常滑の大甕、内耳鍋などの破片が出土する地点がある。おそらくこの周辺に所在していたものと思われる。現在は開墾されて畑となっているが、かつては堀があったといわれている。
D23	源氏屋敷	げんじやしき	城里町小勝	文治５年（１１８９）源頼朝の奥州藤原氏征伐の際に、頼朝に従って出陣した三浦介荒二郎義澄の軍が兵馬を練り軍糧を整えたところであると伝えられる（『七会村の歴史』）『七会村の歴史』第３章中世第４節七会村域の城館跡に（ｐ６３）記述がある。包蔵地登録はない。

No.	名称（別称）	ふりがな	伝承地	概要
D25	保呂輪神社(小原古城？小原館？)	ほろわじんじゃ	笠間市小原（保呂輪神社境内）	明確な築城年代は不明であるが、小原里見氏と関連する館跡が、広慶寺（里見氏開基の寺院）の北側、小屋越にあると伝えられている。保呂輪神社の境内周辺に残る遺構が、その館の可能性がある。
D26	小泉館	こいずみやかた	笠間市南小泉中丸	伝承のみ。もし存在したとすれば、地名から考察して、南小泉字中丸付近か。嘉吉2年（1442）、宍戸持里が岩間の泉城に兵を挙げたとあるが、その泉城と混同している可能性がある。宍戸系図（宍戸清則氏所蔵）が伝える天正16年(1588)の府中の争乱の最中、大掾氏の一族の村上外記が難台山に拠って遊撃戦を展開し隙を見て宍戸に進入した。この時、宍戸義綱の臣小泉甲斐が撃退したとあるので、小泉氏の居館である可能性がある(『友部町史』)。
D27	寄居館	よりいたて	笠間市大田町字寄居	明確な築城年代は不明であるが、寄居新左衛門の邸跡とか矢場跡と伝わる。遺構として土塁と堀が残存するらしい(『友部町史』)。「寄居」は城郭関連地名として考えられる。
D28	上石崎館	かみいしざきやかた	茨城町大字小堤字	来歴不明。遺構なし。
D29	南粟崎城ノ内館	みなみあわさきじょうのうちやかた	茨城町南粟崎字城ノ内	公民館付近の墓地に五輪塔や宝篋印塔の部材がある。
D30	南川又城ノ内館	みなみかわまたじょうのうちやかた	茨城町南川又字城ノ内	来歴不明。
D31	飯沼館ノ内館	いいぬまたてのうちやかた	茨城町飯沼字館ノ内	南北朝時代の桜井氏居館跡か。
D32	長岡館	ながおかやかた	茨城町大字長岡字堀ノ内	吉田平氏一族上野氏居館か
D33	若宮館	わかみややかた	茨城町若宮	城主不明
D34	木部堀ノ内館	きべほりのうちやかた	茨城町木部字堀ノ内	佐久間の殿様・平沢の殿様伝承あり。「佐久間の殿様」「平澤の殿様」伝承が残っている。
D35	門口砦	もんぐちとりで	茨城町大戸字門口	大戸城の支城か。地元伝承で砦跡の伝承が残る。遺構自体は宅地造成で消滅した。
D36	富田屋敷(水戸殿屋敷)	とみたやしき	結城市小田林字本田	江戸但馬守重道の屋敷跡。結城市大字小田林字古新田地内にあったという伝承も残る。佐竹氏に敗れた江戸氏が、結城晴朝の娘を妻としていたので、結城晴朝を頼り結城へ屋敷を築いた。江戸氏が結城秀康に従い越前へ移った後は、結城家家臣であった富田氏が居住したとされている。正確な地点は不明。伝承では、金光寺が屋敷跡であると言われている。
D37	伝結城氏舎弟屋敷	でんゆうきししゃていやしき	結城市北南茂呂字屋敷内	結城氏の舎弟が居住していたという伝承があるが、詳細は不明。
D38	古沢出曲輪(辻見堂)	ふるさわでぐるわ	下妻市古沢字辻見堂	増田一男家が居館跡といわれている。
D39	小山城	おやまじょう	坂東市小山	城主は、風見主税、古河公方成氏時代にこの辺りの抑えのために水軍を主として築かれたらしいという。東は浅間沼の谷津田（東田）、西は西田、南は前田に囲まれた台地、平地城、西田（利根川の入江）の頂部の船着場を「いり」、前田の頂部の船着場を「城ノ口」といい、所在地は坂東市立中川小学校南方付近というが不詳。
D40	竜見前城	りゅうけんまえじょう	坂東市矢作字竜見前	戦国時代（応永年間か）に土豪であった倉持氏が築いたとされている。竜見前にある香取神社本殿の文明15(1483)年の棟札に大檀那として倉持憲吉・張谷修理と記してあったという。後に、富山氏に攻められ、富山氏が代わって城主となったといわれている。所在地は、東・南・西を浅間沼とその谷に囲まれた南に利根川を望む半島状の台地で、かつては、周りに空堀と土塁があったという。空堀のかたすみに富山氏の祖先を祀るために建立したとされ熱田社があったとされるが現在は不詳。
D41	富山城	とみやまじょう	坂東市矢作	戦国時代に富山氏が竜見前城を攻略したのち、新たに築いた城が富山城と言われている。富山氏は尾張の熱田神宮宮司藤原南家より出ると伝えられている。弓田城落城の頃はまだ安泰であったとされ、後に、武を捨て帰農したと言われている。かつては、周りには空堀と土塁が残り、南には「人呼びの丘」とよばれる場所があったとのこと。北方には張谷修理の屋形があったとされている。城域は竜見前城より小規模であるが、天険の地としては竜見前城より優れていたと言われている。所在地は、東・南・西を浅間沼とそのヤト（谷）に囲まれた舌状台地上とされるが不詳。
D42	三村要害(三村古館遺跡)	みむらようがい	石岡市三村字上郷	城主は、大掾氏関係者か。南城高家録には三村城の西側に３つの要害があり一番に若狭太郎元春、二番に要害太郎時直、三番に伊賀太郎盛直を配したとしている。古館の地名があり、上記の三者の誰の居館かは不明であるが、古館の隣接地には上の宮と呼ばれる地名がある。これは大掾常春とかかわる鹿島神社（下の宮）と対になるもので香取神社があったとされる。さらにその東には長見寿の地名がありこれは長見寺という寺院の名残とみられ、当地は大掾氏関連の城郭であるものと考えられている。ただし、現地には土塁や堀などの形跡はなく、中世の館や城郭であるかは不明である。（県包蔵地番号205-171）
D43	小松館	こまつたて	小美玉市上玉里字小松	一時、平重盛が隠棲したと伝承される。昭和50年に刊行の『玉里村史』には、「土塁、周濠などの形跡が約三〇ｱ･ﾙの畑を囲み、過去には築山や泉水などが残存したという。」とあるが、現在、城郭施設などは確認できない。（県包蔵地番号462-016）
D44	葛城館	かつらぎたて	小美玉市下玉里字葛城	来歴不明。八幡太郎義家伝説が残る。遺構は確認されておらす、小字名にて、館の存在が推察される。葛城付近には、「垣内」・「柏内」・「高内」などの地名もある。
D45	堀立城跡	ほったてじょう	美浦村茂呂字後田	地元の旧家に、初代は根本正義で、その後嘉吉年間に根本台から現在の堀立へ移ったという伝承が残っている。
D46	高須館	たかすやかた	行方市玉造甲	城主は高須頼親という者であったという。古舘の字名と微高地が残されており、旧高須館跡の伝承がある。近くに三軒屋、高須の字名もあり。玉造甲5421-1番地に関連するとみられる石塔が残存。（県包蔵地番号425-002）
D47	文太長者宅遺跡称地	ぶんたちょうじゃたくいせきしょうち	鹿嶋市角折字忠	『文正草紙』の主人公である文太の屋敷跡とされる。（県包蔵地番号222-196）
D48	大平館	おおたいらやかた	潮来市延方乙字大平乙	島崎氏家臣大平将監の館跡という伝承が残る。（県包蔵地番号223-073）
D49	一夜堀遺跡	いちやぼりいせき	神栖市平泉字竹ノ内	治承4年（1180）、平家打倒に加担した三井寺の僧兵である筒井浄妙は、宇治橋の合戦において活躍するが戦いに敗れ、落武者となってこの地に逃れ、自分と同じ苗字の筒井地区の住人となり、一夜のうちに砦を築き、ここを居城にして、敵の来襲に備えたと伝えられている。湮滅。（県包蔵地番号406-037）

No.	名称（別称）	ふりがな	伝承地	概要
D50	柴（芝）崎氏の居館	しばさきしのきょかん	神栖市芝崎	香取神宮文書「応安海夫注文」の中で、「しはさきの津」の知行人と記され、苗字から推測できるようにこの地域を本拠地に居館を構えていたと考えられている。応永15年（1408）、石神氏とともに鹿島憲幹の神宮領横領事件に連座して知行を没収されていることから、鹿島惣領家と密接な関係にある領主として行動していたと思われ、疑いが晴れた後に所領は返還された。芝崎地区の県道両側に「堀の内」、「住館」、「小屋ノ内」の小字が残る。
D51	萩原氏の居館	はぎわらしのきょかん	神栖市芝崎	香取神宮文書「応安海夫注文」の中で、萩原氏は、同じ鹿島一族である石神氏、柴崎氏と並び、「はきはらの津　」の知行人と記載がある。正和3年（1314）に鹿島氏に代わって鹿島神宮大使役を勤めたこともあり、鹿島惣領家から分かれて萩原に移住し、その地名を苗字にこの地を支配するようになった。応永15年（1408）、石神氏とともに鹿島憲幹の神宮領横領事件に連座して知行を没収されていることから、鹿島惣領家と密接な関係にある領主として行動していたと思われ、疑いが晴れた後に所領は返還された。

(4)　所在不明城館

No.	名称（別称）	ふりがな	推定地・候補地	概要
F01	田村修理館	たむらしゅりやかた	常陸大宮市長倉字北門	長倉氏の重臣である長倉四天王の一人、田村修理の居館跡と伝わる。北門坂にあるというが現在の小字には見られず、具体的な位置不明。おそらく字北門のどこかに所在か。
F02	中田駿河館	なかたするがやかた	常陸大宮市長倉字館	長倉氏の重臣である長倉四天王の一人、中田駿河の居館跡と伝わる。南館にあるというが現在の小字には見られず、具体的な位置は不明。おそらく字館のどこかに所在か。
F03	泉采女館	いずみうねめやかた	常陸大宮市長倉字新地	長倉氏の重臣である長倉四天王の一人、泉采女の居館跡と伝わる。新地にあるとされ、天満神社の西側に同字名を確認できる。
F04	青柳掃部館	あおやぎかもんやかた	常陸大宮市長倉字松並	長倉氏の重臣である長倉四天王の一人、青柳掃部の居館跡と伝わる。松並にあるといい、国道293号と那珂川に挟まれた地点に同字名を確認できる。
F05	北塩子南古館	きたしおごみなみふるだて	常陸大宮市北塩子	『常陸奥七郡城館図』に載るが所在地不明。
F06	御所内城	ごしょうちじょう	常陸大宮市下檜沢字御所内	「氏考雑録十四」に載るが（皆川文書）所在地不明。
F07	外ノ内城	とのうちじょう	常陸大宮市下檜沢字外ノ内	「氏考雑録十四」に載るが（皆川文書）所在地不明。
F08	笹山館	ささやまたて	常陸大宮市氷之沢字笹山	小瀬氏の家臣相田大学の城主伝承。所在地不明。
F09	梅曽根城	うめそねじょう	常陸大宮市上小瀬字外ノ内	岡崎河内の居館と伝わり、その後、梅曽根氏を名乗ったという。館があった場所を「殿ノ内」と称したという。関連地名に「外ノ内」がある。所在地不明。
F10	花園城	はなぞのじょう	北茨城市華川町花園字花園山	「吾妻鑑」に記載があるが所在地は不明。
F11	臼場城	うすばじょう	北茨城市華川町臼場字堀之内	居城ノ跡ハ長円寺ノ東ノ山ニアリ、上臼庭ノ中也（「常北遺聞」）
F12	古屋鋪	ふるやしき	高萩市安良川字横町	「松岡地理誌」に「横町にあり、平地で南に土手あり、東は民家に連なり北に少し堀形あり、西は田地、だが今は畑と薮になり元の形明らかではない。」とある。
F13	田中内館	たなごうちたて	日立市大和田町	「水府志料」p297：田中々村の項「瀬谷権守下屋敷　　今水戸殿郷士大内勘衛門住す。囲り惣堀、北に二重堀あり。」とあるが具体的な位置は不明。
F14	田安館	たやすたて	日立市若葉町一丁目	「水府志料」p340：助川村の項「要害山　長百廿間余、横十七間余有り。何人の居なるを知らず。」「田安屋敷　高野坪と云所に有り。長十八間、横十六間。亦何人の居なるを知らず。」若葉町一丁目の小字に「高野」がある。東隣りには「堀込」という小字があり、このあたりが候補地となるが具体的な位置は不明。
F15	長者屋敷	ちょうじゃやしき	日立市城南町・助川町字要害	『大甕より久慈浜あたり』：「南高野と石名坂の界する所、長者屋敷がある。この屋敷跡と称する所より焼米が発掘される伝説に八幡太郎義家の北征を阻んだ某豪族が義家の為に亡されたるもので、其の所米倉が焼けて地中に埋つたものであると云はれてゐる。」大字石名坂の小字館野、館ノ下、屋敷前あたりか。
F16	森山館	もりやまたて	日立市森山町	『日立市史』は、「佐竹家軍賦」という史料を出典元とし、佐竹家臣として「森山には永楽五貫五〇〇文の森山氏」が居を構えていたと説明する。森山氏自体は実在する。森山館が実在したとすれば、森山町の小字で宿に近接する「竹ノ内」（たてのうち、が変化したものか）が候補地となるか。
F17	沢館（諏訪館、諏訪城）	さわたて	日立市諏訪町字城の内	『日立市史』p178　「諏訪の沢館には羽州黒沢城主の一族黒沢雲山義親が居館した。義親は応永一三（一五〇六）年佐竹右馬頭義盛に仕えて、永楽二〇貫文を賜わり、子孫代々居館したと伝えられる。坂上三六騎の一人黒沢雲山の家系譜をみると、諏訪村に住し、のち上孫に移るとある。即ちはじめ諏訪に居住し、のちに上孫の沢（現在沢は下孫に属している）に移ったのであろう。諏訪の国道から西にはいった念仏橋の西側に館の跡があるが、享保四（一七一九）年にその子孫が立てた墓碑をみると、「多賀郡諏訪古城主黒沢掃部忠道墓」とあり、沢館は諏訪館ともいわれたことがわかる。」（鈴木彰所蔵佐竹家軍賦）。『日本城郭全集３』p269「諏訪の念仏橋の西方、「城の内」にあった。佐竹義盛が黒沢氏を当地に二百貫に封じてこの城を守らしめたと伝わる。別名を「沢の館」ともいい、廃城前に沢地であったゆえ、この名が付つられた（ママ）という。」実在したとしても、遺構は湮滅している可能性が高い。
F18	小木津館（荻津城）	おぎつたて	日立市小木津町 後久保	「水府志料」p341：小木津村の項「館跡　佐竹義宣の旗下、多気刑部と云者居城也と申伝ふ。」。『日高郷土誌』p118：「小木津西町の八幡神祠の裏にあり、俗に弓下台と呼んでいる。八幡太郎の陣小屋を懸けし所との伝説もあり、又多気刑部の居館とも言い伝えている。」。弓下台遺跡（０２７）については、『茨城県日立市埋蔵文化財分布地図』によると、立地：台地上、種別：散布地、時代・時期：縄文時代（中期）、資料：縄文式土器、現況：畑、保存状態：良好となっている。縄文時代の遺跡とされている上、近隣に「堀ノ内」「小屋下」「塙屋敷」など城館跡の名残を思わせる小字があり、小木津館跡はこちらの可能性が高い。『茨城の城館』記載の荻津城との関連性は不明。

No.	名称（別称）	ふりがな	推定地・候補地	概要
F19	伊賀館	いがたて	日立市東町字塙	『日立の風土』：「日立セメント工場のある宮田川を越えた北岸に、伊賀屋敷と呼んでいる地がある。」「すでにある郷土史研究家は、小沢伊賀守の屋敷跡であろうか、またはこれが岩城の出城ではなかったか、なぞと言っているが（中略）多賀郡には、そんな豪族や武将は文献や古文書の上には見られない。」「永久の乱（ママ。おそらく承久の乱のこと）に、（中略）北条氏がその恩賞として、父親の意が前司朝光に与えた所領の中に、多賀郡の知行所があった。伊賀朝光の代官として日立へ来て住んだのが伊賀光依であった。伊賀氏は宮田川の海岸近くの、今のセメント会社の北岸に居館を構えていた。後に佐竹氏の勢力が強大になるとともに、その知行所も佐竹氏の手に移り、伊賀氏は岩城平に移り住んで八幡宮の神官になった。」「この伊賀屋敷の土塁の一部は、「宮田大映」という映画館の通り、南の新道路西側に、その遺構の一部が残存している。」
F20	砂沢館	いさござわたて	日立市砂沢町	『日立市史』p170「砂沢には鈴木備後守、相賀（会瀬）には小野崎氏、油縄子には永楽二七貫文の佐藤氏、大窪には城主大窪氏、下孫には永楽一〇貫文の清水左近、河原子には永楽三貫文の朝日蔵人家義及び永楽五貫二〇〇文の大内氏、金沢には永楽一一貫文の鴨志田氏及び永楽六貫五〇〇文の金沢氏、森山には永楽五貫五〇〇文の森山氏、南高野には永楽五貫五〇〇文の赤津氏等、多くの佐竹の家臣が居を構えていた」（佐竹家軍賦）。実在したとすれば、砂沢町の小字「住ノ平」「屋敷前」「屋敷添」あたりが候補地となるか。
F21	折笠館	おりかさたて	日立市折笠町字舘ノ平	「水府志料」p341：折笠村の項「館跡　四方百廿間、館の平と云所に在り。今皆畑と成る。八幡太郎義家奥州へ下向の時、少の間住せし所なりと云。疑はし。」「舘ノ平」という小字が現在も折笠町内にあるが具体的な位置は不明。
F22	加納館	かのうたて	日立市久慈町五丁目字上の台	『日立みなみ風土記』：p92-94「上の台の一画に、土地の人が「加納」と呼称している場所がある。」「この地に古くから居住する赤津家の古老に尋ねると、上の台一帯の土地は昔から赤津家の所有地で、先代から聞かされていたのは、加納に館があって赤津宗家が居住し、屋敷内に金蔵があったが火災で焼失した。後、近くの宿坪に長屋門の住宅を建てて居住していたが、再度の火災に遭ったため、小里郷（里美村）の大中に移住したという。再三の調査の結果、館は台地の南面が緩やかに下る斜面の最上部に位置し、下降する台地斜面の東と西には、入り込んだ谷津田が開かれ、山林も存在している。屋敷の北側には土塁らしき跡が残っており、その外周を古代の街道が通っていたものと見受けられる。赤津氏の家系は、大和源氏で岩代国（福島県西部）安積郡赤津村の出身という。」との記述があるが具体的な位置は不明。
F23	下孫館	しもまごたて	日立市河原子町字孫沢角	『日立市史』p170「砂沢には鈴木備後守、相賀（会瀬）には小野崎氏、油縄子には永楽二七貫文の佐藤氏、大窪には城主大窪氏、下孫には永楽一〇貫文の清水左近、河原子には永楽三貫文の朝日蔵人家義及び永楽五貫二〇〇文の大内氏、金沢には永楽一一貫文の鴨志田氏及び永楽六貫五〇〇文の金沢氏、森山には永楽五貫五〇〇文の森山氏、南高野には永楽五貫五〇〇文の赤津氏等、多くの佐竹の家臣が居を構えていた」（佐竹家軍賦）。『日立市史』p177「はじめ孫沢氏は要害と川を隔ててある孫沢角に館（孫沢館あるいは下孫館といわれる）を構えたが、永禄五年八月相馬軍の侵入によって陥り、その後要害の地に堅固な城郭が築城された」（鈴木彰著『多賀の歴史』）。『日本城郭大系』の一覧表には、「３８　下孫館（日立市河原子町）　孫沢氏が戦国時代に築く。土塁が残る」「４２　要害城（日立市国分町）　詳細は不明。地名のみ残る」とあるが、両者の説明が逆である。『新編常陸国誌』が要害城を「下孫館址」と呼称したため、執筆者が取り違えたのだろう（『多賀郡史』も要害城＝下孫館址としている）。
F24	長者屋敷	ちょうじゃやしき	ひたちなか市上高場字東向	来歴不明。太夫屋敷の北側に所在し、東隣には沼頭、水久保などの小字が残るとされるが、具体的な位置は不明。
F25	道理山館	むべやまやかた	ひたちなか市美田多町	吉田盛清（道理山九郎）が構えた館。台地の突端の平たん部に方形に土塁をめぐらした館があったとされる。昭和35、6年頃に大量の古銭が棒状になって出土してというが具体的な位置は不明。
F26	柴田カジ屋敷	しばたかじやしき	ひたちなか市東中根字芝野	中根城に関係のある鍛冶職か、武士であったと思われる柴田氏が居住したという伝えがあるが詳細は不明。土塁を長方形にめぐらす小規模な屋敷跡で、屋敷跡南側には、柴田道とよばれる水田の中を通って西中根へつづく道があったとされるが、具体的な位置は不明。柴田という小字が残るという。
F27	大網陣屋	おおあみじんや	城里町大網字向	『七会村の歴史』第３章中世第４節七会村域の城館跡表３－１七会村域城館跡一覧（ｐ６２）中に掲載があるが、記述はなく、包蔵地登録もない。朝日観音がある台地が所在地。詳細不明。
F28	赤沢館	あかさわやかた	城里町上赤沢	『七会村の歴史』第３章中世第４節七会村域の城館跡表３－１七会村域城館跡一覧（ｐ６２）中に掲載があるが、記述はなく、包蔵地登録もない。上赤沢の包蔵地「弓手台遺跡」（遺跡番号323－016）、「堂地原遺跡」（遺跡番号323－017）のどちらかに所在か。表中には、現状小山・台地とある。詳細不明。
F29	田上城	たがみじょう	笠間市福原字田上	築城年代や城主についての伝承は不明。ゴルフ場建設によって、湮滅した。
F30	南指原館	なじわらたて	笠間市本戸字堀の内	築城年代については不明。城主は南指原氏ということが伝わっている。本戸堀ノ内遺跡とは別物か
F31	吉原館	よしはらたて	笠間市南吉原	明確な築城年代は不明。城主として、宍戸氏に従った吉原周防の名が伝えられている。南吉原地区の台地上に多くの五輪塔が残っている。
F32	手越城	てごしじょう	笠間市手越字本郷	築城年代は不明。宍戸氏族が城主として伝わる。宍戸氏庶流の一木氏か。鬼度(木戸)の地名がのこる。小字鬼戸？塀下付近に居館があったと推測される
F33	池野辺城	いけのべじょう	笠間市池野辺字城の内	築城年代は不明。江戸氏家臣外岡氏が城主として伝わる。城の内付近については、明確な城跡伝承が残っておらず、不明な点が多い。しかし、池野辺地区は、江戸氏家臣小貫氏が押さえていたとされる。字宿の鹿島神社には、慶長7年の棟札の中に、「小貫大蔵頭」が大旦那としてみられ、周辺には江戸重道が開基した持宝院がある。宿近辺に城館があった可能性も指摘できる
F34	箱田館	はこだたて	笠間市箱田字堀の内	築城年代・城主は不明。天授5年(1379)4月21日の「足利義満袖判御教書」には摂津能連が常陸国市毛箱田の領掌が認められている(『笠間市史　上巻』)。堀の内、表の地名が残る。
F35	寺崎館	てらさきたて	笠間市寺崎字竹下	築城年代については不明。城主は宇都宮血流の笠間氏家臣寺崎氏の館跡であるといわれている。竹下の地名が残る。

No.	名称（別称）	ふりがな	推定地・候補地	概要
F36	奥尻館	おくしりたて	笠間市平町八反山	西城と呼ばれた山尾館のさらに西方の台山(八反山)に館が置かれたと言われ、奥尻館であろうと推測される。この館には宍戸朝誉がおり、天正末期には宍戸義綱の三男勝尹がいたという(『友部町史』)。実態については不明。
F37	酒門城	さかどじょう	水戸市酒門町字台	不明。場所が特定できていない。
F38	滝田氏屋敷	たきたしやしき	水戸市上国井町字辻の内	「那須与市宗隆の後裔，滝田氏の居宅という」（『水戸市史』上巻より）。場所が特定できていない。
F39	立原民部館	たちはらみんぶやかた	水戸市飯富町字山中	「立原氏は神生氏の家人と伝えられる」（『水戸市史』上巻より）。場所が特定できていない。
F40	青柳館	あおやぎやかた	水戸市青柳町	「天正年間，佐竹氏家臣青柳隼人正の居所という。佐竹氏の秋田移封により館を廃す。」（『水戸市史』上巻より）。場所が特定できない。
F41	外岡若狭守館	とのおかわかさのかみやかた	水戸市開江町字遠馬場・馬返し場	「天正年間，江戸氏家臣外岡若狭守重宗の居所といわれる」（『水戸市史』上巻より）。場所が特定できていない。
F42	吉沼城	よしぬまじょう	水戸市吉沼町	詳細は不明（『日本城郭大系』より）。場所が特定できていない。
F43	塙館	はなわやかた	水戸市大場町	吉田氏一族の盛戸氏の居館という（『日本城郭大系』より）。場所が特定できていない。
F44	観音堂土塁	かんのんどうどるい	水戸市川又町字観音堂	周知の埋蔵文化財包蔵地「仲東遺跡」(201-200)内に位置する。川又観音の西側にあるというが、場所が特定できていない（『常澄村史』地誌編より）。詳細は不明。
F45	柳橋城	やなぎばしじょう	古河市柳橋	鎌倉公方足利基氏の配下土岐大膳太夫頼遠の三男弾正忠が当地及び周辺を領有し、柳橋と改名したといわれ、この弾正忠が柳橋城を構えたとみられる。天文23年（1554）小山朝政は古河公方足利氏臣の柳橋豊前守（8代目）の柳橋城を攻略、仁連、諸川、久能、駒羽根、下大野、葛生、矢貝、磯部、山田の兵900余人が籠城したが落城、主従200余人は常州筑波郡苅間城主野中瀬左衛門（豊前妻の弟）をたよって落ちのびた。この敗走するまでのまでの220年間、柳橋氏8代の居城であったという。伝承では柳橋愛宕社付近にあったといわれる。
F46	稲宮砦	いなみやとりで	古河市稲宮	砦主稲宮八郎左衛門は天文23年（1554）小山朝政の下総国葛飾郡、上幸島方面の侵攻により防戦後降る。
F47	堀篭居館	ほりごめきょかん	下妻市堀篭	多賀谷氏家臣、堀込秀徳寺氏「一館一郷之主」。候補地は、円明寺か。
F48	行田宮内館	なめだくないやかた	下妻市二本紀	多賀谷氏家臣、行田宮内。行田宮内は「一館一郷之主」。候補地は、行田香取神社か。
F49	高道祖城	たかさいじょう	下妻市高道祖	詳細不明。矢中氏文献に「高道祖城跡」と記されている。多賀谷氏重臣白井全洞が高道祖を領地としてあてがわれた。高道祖神社がその候補地。
F50	平出氏館	ひらいでしやかた	下妻市谷田部	城主は多賀谷氏家臣、平出伊賀守。
F51	中津川古館	なかつがわふんだて	石岡市中津川	城主は、大掾氏一族。古館（ふんだて）の地名あり。北が池ノ上、東が宮脇、さらに東が大六天、北側が小目代と牛久保。小目代から東方の牛久保までの100mの間に堀があったという。大掾氏と下川辺氏が市川舟橋にて戦った際に攻略されたか。現状では明確な館や城郭の存在を示す遺構は確認できない。
F52	染谷仲丸	そめやなかまる	石岡市染谷	城主は、志筑氏一族。総持院（天台宗）の存在から大掾氏ではなく小田氏系の居館であっったものと思われる。矢場と竹下（館下）の地名が残る。市史の記述から鹿島神社古墳群（205-050）周辺か。現地に館や城郭の存在を示す遺構は確認できない。
F53	幡谷城	はたやじょう	小美玉市幡谷	城主は、幡谷次郎信勝、「幡谷城主、次郎信勝、親鸞に帰依して僧となり、名を唯信と改め、幡谷に信願寺を開く」（芹沢文書？）。天正年間、幡谷城は、小川城と支城となったが、天正18年(1590)、佐竹勢の急襲を受けて落城。
F54	神立館	かんだつやかた		『土浦市史』によれば、廃寺神立寺と接して館跡があったという。城主は後の土浦城主菅谷氏または小田孝朝の子五郎藤綱の説がある。現況では確認できない。
F55	常名城	ひたなじょう		『土浦市史』によれば、水田の中字「八幡」にあり、もとは台地上の「白畑」「羽黒」から移るという。 伝承では菅谷治貞の城という。 現況では確認できないが、字八幡の地は周囲の水田よりもわずかに高まっていて、現在もここだけ畑として残っている。かつて畑や蓮田での起耕中に深さ1mほど掘ると礎石と思われる大きな石や炭化した木片が出たという証言を得ている。
F56	田宮館	たみややかた		『図説新治村史』によれば、高岡の台地西端、斗利出坂の山林にあるという。現況では確認できない。
F57	本郷館	ほんごうやかた		『図説新治村史』によれば、本郷の館山にあるという。現況では確認できない。
F58	小高館	おだかやかた		『図説新治村史』によれば、字寄居のあるという。現況では確認できない。
F59	大山城	おおやまじょう	取手市小文間字台道南耕地	1978刊の「分布調査報告書」では、土塁や堀が現存していると記載があるが、『取手市史』古代中世資料編では、1972年に宅地造成により消滅、と記載されている。大山城跡を含むとされる大山遺跡の発掘調査でも中世の遺構は確認されず、詳細な位置は不明である。
F60	一色氏城	いっしきししろ	取手市小文間字戸田井	小文間に城之内という地名が残っている。また、赤松宗旦の『利根川図誌』では、常総軍記の一式宮内の城跡が戸台にあり、近くに天神社が祀られている丘陵にある、との記載があるが、現在は遺構は確認されていない。
F61	稲城之内	いなじょうのうち	取手市稲字城之内	稲に城之内と、その周辺に城山や馬場山いう地名が残っている。城之内は利根川を南に臨む丘陵にあり、その先端の単独丘陵には、1978刊の「分布調査報告書」では、土塁や堀が確認されたとして「古戸城址」として稲の城館の要塞的な施設と推定している。しかし、稲の城之内周辺および、古戸城址周辺でも現在は遺構は確認されていないため、詳細は不明である。
F62	乙原城	おっぱらじょう	阿見町追原	「諸岡武男氏所蔵文書」土岐・岡見氏一族・旗下・家臣等覚書に「乙原ノ城主」とある。また、追原字田坪東面の山に諏訪大明神が祭られ、この一帯が追原城の砦とされる（『阿見町史研究』第８号）。しかし、現在の大字追原には城館を見い出せていない。あるいは、隣接する大字塙に所在する塙城の可能性も残る。
F63	馬渡城	まわたしじょう	稲敷市	「諸岡武男氏所蔵文書」土岐・岡見氏一族・旗下・家臣等覚書に「馬渡ノ城主」とあるが所在地不明。
F64	新宮城	しんぐうじょう	行方市新宮	「新編常陸国誌」に「行方郡ニアリ、打越光隆飛騨守ト称ス、新宮ニイル（中略）慶長七年、三千石ヲ食ミ、此地ニ封ゼラル・・・」とあるが所在地は不明である。